

芦峯寺宝泉坊の江戸での檀那場形成と「立山信仰」の展開(1)

福江 充

1. 本稿の研究課題と趣旨

江戸時代、立山山麓の芦峯寺衆徒は毎年農閑期に各自の檀那場に赴き、3～4ヶ月の滞在期間中に檀家を巡回し、仏前廻向などのさまざまな祈禱を行って立山信仰を布教しながら、護符や経帷子を頒布した。こうした宗教活動は「諸国檀那配札廻り」や「廻檀配札活動」などと称され、冬期、豪雪地帯となる芦峯寺の衆徒たちにとっては、実質的に出稼ぎといえるものであった。

ところで、芦峯寺雄山神社や旧一山宿坊家、及び富山県〔立山博物館〕には、「廻檀配札活動」に関わる史料として、かつて宿坊家の衆徒が使用した檀那帳や廻檀日記帳、各種勸進帳などが多数所蔵されている。筆者は十数年来これらの史料を調査・整理・分析し、芦峯寺衆徒の国内各地での檀那場形成状況や廻檀配札活動の実態など、いわば檀那場に関する復元的な研究を試みてきた（註1）。

筆者のこうした研究活動は、「立山信仰」が、近世

の社会において一体いかなる民間信仰として存在していたのかを解明しようとするものである。具体的に述べると、それはいかなる地域で、いかなる人々によって、いかなる信仰内容が形成され、いかなる人々を対象に、いかなる方法で布教され、いかなる意義・価値をもって受容されていたのかといった問題を、時間軸を意識しながら解明しようとするものである。また、「立山信仰」を存在させている社会構造や地域性、そしてそれぞれの地域性に見られる差違と、その地で展開した立山信仰の実態などについても関心があり、研究の必要性を感じている。

これらの課題に対して、初期の研究段階では檀那場に関する復元的な研究がきわめて有効かつ重要であり、その成果は、次の研究段階として前述の課題の核心部分を検討していく際の基礎的情報になり得るものと考えている。

2. これまでの研究動向

筆者がこれまで檀那場に関する復元的な研究を行ってきたことは前述のとおりである。しかし、復元とは言うものの、残念ながら成立年が記載されている檀那帳のうち最古は寛保3年（1743）のものであり、江戸時代中期を溯るものはまだ1冊も見つかっていない。次いで延享5年（1748）の檀那帳が1冊あり、あとは寛政期以降のものばかりである。したがって残存史料の制約から、江戸時代後期を中心とした、しかも数軒の宿坊家の一時的な復元にしかならざるをえなかったのが実状である。

こうしたなかで、今回検討課題とする江戸の檀那場

については、かつて宝泉坊や吉祥坊、福泉坊の江戸時代幕末期の檀那帳や廻檀日記帳を分析し、各坊の檀那場の形成状況や廻檀配札活動の実態などについて検討を試みたことがある。

特に宝泉坊については、同坊衆徒泰音の嘉永6年（1853）の檀那帳（芦峯寺一山会所蔵）をはじめ、泰音の元治2年（1865）の廻檀日記帳（芦峯寺雄山神社所蔵）、同坊衆徒興脈の慶応2年（1866）の檀那帳（芦峯寺雄山神社所蔵）、泰音の慶応3年（1867）の廻檀日記帳（芦峯寺雄山神社所蔵）、興脈の慶応4年（1868）の廻檀日記帳（芦峯寺雄山神社所蔵）、同坊

(衆徒不明)の明治元年(1868)の廻檀日記帳2種類(芦峯寺雄山神社所蔵)、同坊佐伯左内(泰音の復飾名)の明治22年(1889)の廻檀日記帳(芦峯寺雄山神社所蔵)を分析し、衆徒泰音(1827~1897)及び衆徒興脈に着目し、江戸時代幕末期から明治時代中期までの江戸(東京)での檀那場形成と廻檀配札活動の実態を明らかにした(註2)。

一方、芦峯寺雄山神社には前掲史料以外に、江戸を対象とした檀那帳で使用宿坊家や成立年に関する記載が全く見られないものが1冊残っていた。筆者はこの檀那帳に対しても検討を試み、拙稿「江戸時代中期江戸の立山信仰」(註3)において、宝泉坊の江戸時代享保期(1716~1735)の檀那帳と判断した。

すなわち、芦峯寺系の木版立山登山案内図の1枚に、この版木の施主として江戸堺町の「中屋半七郎」の名前が、享保7年(1722)の年号入りで摺り込まれたものがあり(註4)、この「中屋半七郎」と同一と思われる人物が、前述の檀那帳のなかに江戸堺町の「中屋半七」として2箇所に掲載されていたのである。もっとも、木版立山登山案内図には「半七郎」と記され、かたや檀那帳には「半七」と記されており、施主名に「郎」があるかないかの違いでこの二人が同一人物か否か多少の疑問も出てくるが、檀那帳の形態や記載形式、記載された信徒たちの身分状況など、幾つかの要素を併せて考察し、複合的見解として享保期のものであると判断した。

さて最近、旧宝泉坊の芦峯寺に取り残された土蔵から新たに多数の古文書史料が見つかり、そのなかに江戸を檀那場とする次の帳冊史料が含まれていた。

- ①使用宿坊家・成立年未記載の檀那帳(写真1の①~③、以下、「史料A」と称する)。
- ②同坊衆徒教清の成立年未記載の檀那帳(写真2の①~③、以下、「史料C」と称する)。
- ③同坊衆徒照円の文化11年(1814)の布橋大灌頂法会勅進記(写真3の①~④、以下、「史料D」と称する)。
- ④使用宿坊家不明で文政9年(1826)の新吉原初穂集帳(写真4の①~③、以下、「史料E」と称する)。
- ⑤同坊衆徒照円の天保10年(1839)の檀那帳(写真5の①~④、以下、「史料F」と称する)。

さらに、上記の史料のうち史料Aと史料Cの内容を通覧すると、筆者がこれまで見てきた江戸時代後期以降の檀那帳や廻檀日記帳の内容とは全く重ならず、一方、前述の享保期の成立と判断した檀那帳の信徒と、史料A・史料Cの信徒とがかなり多く一致しており、どうやら史料Aと史料Cは江戸時代中期頃の成立である可能性が出てきた。

本稿では、これらの史料と享保期の成立と判断した檀那帳(以下、「史料B」と称する)、さらに泰音の嘉永6年(1853)の檀那帳(芦峯寺一山会所蔵、以下、「史料G」と称する)の7冊を分析・比較し、江戸時代中期から後期に宝泉坊が江戸で形成した檀那場の実態と、特に文化期から天保期にかけて活躍した宝泉坊衆徒照円の廻檀配札活動の実態についても検討を試みたい。

江戸の人々にとって、「立山信仰」はいったいどのような民間信仰であったのかを考察するための前段階の分析として、以下、本論を進めていきたい。

3. 江戸の檀那場における信徒の地域別分布状況と人数規模

3-1. 史料Aにみる檀那場状況

史料Aは、旧宝泉坊の土蔵から見つかった檀那帳の1冊である。形態は横帳で、法量は縦12.0cm×横17.8cmである。表紙に「江戸(以下欠損) 古(以下欠損) 戊正月吉日」と表題が記されている。

表題や本文には、この檀那帳の制作者を直接示すような記載は見られない。表紙に記された「古」について、その記載箇所からすると檀那帳の制作年を示す元号の一部と考えられる。江戸時代中、「古」の部首をもつ元号は「享保」と「享和」である。さらに表紙に

は「戊」の干支も記されており、両者を組み合わせると、享和年間には「戊」年はないので、この檀那帳は享保3戊戌年（1718）か享保13戊申年（1728）のいずれかの年に制作されたと判断できる。

さて、この檀那帳の内容を解説し、それに記された全信徒を対象として、掲載順にその氏名や配札地（居住地）及び江戸時代の該当郡区、定宿の有無などの情報を示す第1表を作成した。この表にもとづいて檀那場の実態を見ていくと、記載件数は259件で、そのうち同一信徒の重複記載4件4名分を除き、実質的な信徒総数は255名で、宿数は15軒である。

檀那場の分布状況を国別で見えていくと、江戸御府内に164名の信徒が存在し、宿数は10軒である。その内訳を信徒の多い順で地域別に見ていくと、浅草が信徒数38名（新吉原関係者18名を含む）・宿数2軒、日本橋が信徒数27名・宿数1軒、牛込が信徒数16名・宿数1軒、神田が信徒数16名・宿数1軒、京橋が信徒数13名・宿数2軒、小石川が信徒数13名・宿数0軒、下谷が信徒数11名・宿数1軒、四谷が信徒数9名・宿数1軒、本所が信徒数8名・宿数0軒、深川が信徒数5名・宿数0軒、本郷が信徒数4名・宿数0軒、芝が信徒数2名・宿数1軒、麻布が信徒数2名・宿数0軒となっている。

武蔵国に90名の信徒が存在し、宿数は5軒である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、多摩郡が信徒数55名・宿数1軒、荏原郡が信徒数22名・宿数0軒、豊島郡が信徒数11名・宿数4軒、入間郡が信徒数2名・宿数0軒となっている。

以上のほか、文字の難読などで該当地域不明の信徒数は1名、宿数0軒である。

3-2. 史料Bにみる檀那場状況

史料Bは、芦峠寺雄山神社所蔵の檀那帳の1冊である。形態は長帳で法量は縦11.0cm×横33.0cmである。表題はなく、いきなり表紙から本文がはじまっている。本文中には、この檀那帳の制作者や制作年を直接示すような記載は見られない。

筆者はかつてこの檀那帳を分析・検討し、拙稿「江戸時代中期 江戸の立山信仰」（註5）において、宝泉坊の江戸時代享保期（1716～1735）の檀那帳と位置づけている。その際、この檀那帳の内容を解説し、さらにそこに記された全信徒を対象として、掲載順にその氏名や配札地（居住地）、及び江戸時代の該当地域、定宿の有無などの情報を示す表も作成・提示している。本稿ではそれを活用していきたい。

その表にもとづいて檀那場の実態を見ていくと、信徒総数は413名で、その他、講中1・屋敷1の記載が見られる。宿数は18軒である。講中1・屋敷1、及び同一信徒の重複記載11名分を除き実質的な信徒数は402名（住所不明者10名を含む）・宿数は18軒である。

檀那場の分布状況を国別で見えていくと、江戸御府内に300名の信徒が存在し、宿数は11軒ある。その内訳を信徒の多い順で地域別に見ていくと、江戸御府内では浅草が信徒数91名（新吉原関係者51名を含む）・宿数1軒、日本橋が信徒数45名・宿数1軒、京橋が信徒数31名・宿数1軒、神田が信徒数28名・宿数0軒、下谷が信徒数19名・宿数1軒、小石川が信徒数15名・宿数0軒、本所が信徒数14名・宿数1軒、四谷が信徒数12名・宿数4軒、芝が信徒数9名・宿数1軒、本郷が信徒数9名・宿数0軒、牛込が信徒数8名・宿数1軒、深川が信徒数7名・宿数0軒、麻布が信徒数2名・宿数0軒となっている。その他、江戸御府内に所在すると推測されるが、住所の詳細や該当地域が不明な者が10名となっている。

武蔵国に78名の信徒が存在し、宿数は6軒である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、多摩郡が信徒数25名・宿数1軒、豊島郡が信徒数25名・宿数4軒、荏原郡が信徒数24名・宿数1軒、入間郡が信徒数4名・宿数0軒となっている。

上野国の群馬郡に2名の信徒が存在し、宿数0軒である。

上総国に5名の信徒が存在し、宿数は0軒である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、天羽郡

が信徒数3名・宿数0軒、望陀郡が信徒数2名・宿数0軒となっている。

安房国に17名の信徒が存在し、宿数は1軒である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、朝夷郡が信徒数15名・宿数1軒、平郡が信徒数1名・宿数0軒、安房郡が信徒数1名・宿数0軒となっている。

3-3. 史料Cにみる檀那場状況

史料Cは、旧宝泉坊の土蔵から見つかった檀那帳の1冊である。形態は横帳で、法量は縦11.8cm×横17.0cmである。表紙に「巢鴨増山備中守屋敷」、「隠居附杉山弥一郎」、「玉井村 小か女」、「越中之守御敷 藤右衛門」などの記載が雑然と見られる。裏表紙に「さないこまち町 家主左七」、「立山宝泉坊教清」の記載が見られ、この檀那帳の持ち主は宝泉坊衆徒の「教清」であったことがわかる。ただし、宝泉坊の歴代当主を書き上げた諸史料には、改名などのためか教清の名前が見当たらず、いつの時期の宝泉坊衆徒なのかは不明である。そのため、現況では「教清」の生存時期からこの檀那帳の制作年などを探ることは困難である。

さて、この檀那帳の内容を解説し、それに記された全信徒を対象として、掲載順にその氏名や配札地（居住地）、及び江戸時代の該当地域、定宿の有無などの情報を示す第2表を作成した。この表にもとづいて檀那場の実態を見ていくと、記載件数は520件で、そのうち同一信徒の重複記載18件20名分を除き、実質的な信徒総数は500名である。定宿の有無を示す記載は見られなかった。

檀那場の地域的な分布状況を見ていくと、江戸御府内に431名の信徒が存在する。その内訳を信徒の多い順で地域別に見ていくと、浅草が信徒数138名（新吉原関係者100名を含む）、京橋が信徒数61名、日本橋が信徒数61名、芝が信徒数33名、四谷が信徒数30名、神田が信徒数22名、牛込が信徒数22名、下谷が信徒数17名、麻布が信徒数10名、本郷が信徒数9名、小石川が信徒数9名、本所が信徒数8名、深川が信徒数6名、赤坂が信徒数3名、麴町が信徒数2名となって

いる。

武蔵国では48名の信徒が存在する。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、豊島郡が信徒数25名、荏原郡が信徒数21名、多摩郡が信徒数2名となっている。この他、該当地域不明者は信徒数21名である。

3-4. 史料Dにみる布橋灌頂の勸進文言と勸進実態

史料Dは、旧宝泉坊の土蔵から見つかった布橋大灌頂法会勸進記の1冊である。形態は袋綴冊子で、法量は縦33.0cm×横23.5cmである。表紙に外題として「勸進帖」と記されているが内題は見られない。

この勸進記の序文や巻末には、「干時文化第十一甲戌年三月摩訶吉祥日」「越之中州立山宝泉坊現住 照円（印〔立山中宮〕）」「東都十方信施且越衆中」などと記載が見られる。したがってこの勸進記が宝泉坊衆徒の照円による文化11年（1814）の江戸を対象とした布橋大灌頂法会勸進記であることがわかる。

以下は、この勸進記の序文の翻刻である。

【外題】

勸進帖

【内題】

なし

【本文】

印（摩訶吉祥）

序

凡日本第一の靈山越中国新川郡立山は、開山慈興大人一切衆生濟度方便の為に蒙仏勅を始て此梵窟を開き、絶頂に立山大権現鎮座皇す。峯に九品能淨土を■生し、常に諸仏來臨し給ひ、善根功德の衆生を導き、谷に一百三十六の地獄を顯現し、五逆十惡の凡俗を徴論し給ふ。故に是より諸人の禪定をゆるす。A. 抑麓に立て玉ふ垂跡御蠅三尊と申奉るハ、辱も日本開闢の時、右に五穀の種を納、左に麻の種を手持ましまし、降臨し給ひ、国土に是をあたへ給ふ。祭神八則天神七代国常

立尊・伊冊諾・伊冊譚尊の三神、本地弥陀・釈迦・大日如来の三尊也。和光同塵ハ結縁の始、八相成道ハ利物の終、元是一体分身にして、神と顕れ仏と現じ、跡を御嬬尊に止め給ふ。依之諸神諸仏菩薩、并国土の父母にして末世の衆生万物にも又父母たり。此世界に生を請、衣食住の備はりしも皆是御嬬尊の御恵によれるもの也。然らハ、即人たらん者ハ、先此御恩得を報じ奉らずんハ有べからず。仍て人皇四十二代文武天皇の御宇大宝年中、日本六十六ヶ国に評し、一国一尊にして御脇立六十六尊を安置し奉る。此尊の御利益広大無量にして、なかなか凡舌をもつて演尽しかたし。爰に聊か其万億分の一を述口（1字虫損）、一切衆生の日々夜々に造所の悪業少罪たりいへ共、假ハ微塵積りて山をなすが如く、終にハ業因のがれがたく無尽の苦悩を受る事、嗚呼痛敷哉。仏も曰、無縁衆生ハ度しがたしと也。一度此尊に仏恩謝徳の為、結縁の輩ハ、右の如き罪惡たり共皆悉消滅し、二世の諸願満足せしめんとの御誓願可仰可貴。か々の有かたき尊前におゐて、B. 毎年秋の八月彼岸中日に布橋観頂とて御堂前に川有、是に渡せるを天の浮橋と号し、又向ひに閻魔堂有。是より御堂迄の間に三百六十六反の布しきて、一山の衆徒相集り灌頂を修行し、此布則御経帷子につくる。C. 爰に当山の寺役として、住持一代の内一度ツツ坊中を順番に、壹ヶ年の間御嬬尊の別当を相勤、此灌頂の導師に相立法会を修行す。此功德によつて、其身色衣の僧位に階る。然所に、来亥の年愚僧別当職にて法会の導師に相当り候所、貧寺の事にて、参百六十六反の白布法会修行の雑用、并年中の御供燈明料等自力に叶がたく、依之偏に信施の他力を希ひて本願を成就仕たく、普十方の旦越を勧進す。若善男善女此法会の助力白布御供燈明料寄附なし給ふにおひてハ、其功德の善報唯身にか至らん。D. 現世にてハ仏神三宝の擁護を蒙り、諸の災難ハ朝日に霜の消るがごとくに悉滅し、よく一切の願望空しからず、鏡に影の写るが如く成就円満し、幸福雲の如くに集り、風の如くに来らん。其余徳必子孫に迄幸せん。□（1字虫損）世ハ無始已来造所の罪業を必滅して、則身成仏し、三界法主の位に階らん。

猶其世光、六親眷属乃至法界平等利益無疑者也と、謹で此勧進の意味を説事爾。何卒御信心の御方々、多少に不限御寄附被下候様二偏二願希ひ、然者則別当職首尾よく相勤右法会修行の砌ハ勿論、当院有らん限は帳面二印置、E. 永代御施主方御武運長久・災難消滅・御家家内安全・諸願満足の御祈念、朝暮御嬬尊前二おいて抽丹誠を修行可申上候。以上。

干時文化第十一甲戌年三月摩訶吉祥日

越之中州立山宝泉坊

現住照円（印〔立山中宮〕）

東都十方信施且越衆中

別当職相勤二付、壹ヶ年雑用の覚

一、正月三ヶ日入用	金五両
一、春彼岸七日入用	金七両
一、秋彼岸七日入用	金七両
一、同中日入用白布参百六十六反	金四拾六両参分
一、毎月五日宛縁日入用	金十五両
一、五節句入用	金参両
一、毎日朝暮奉献 供米・香花・燈明料	金三十七両

貳分

七口メテ F. 凡金百貳拾壹両壹分程

右の通差増如斯御座候。已上。

さて、勧進記の序文のうち主要な部分を下線A～Fで示したが、以下、その内容を見ておきたい。

下線部Aの文脈は、芦峯寺の嬬三尊に関する説明である。越中立山山麓芦峯寺の嬬三尊は日本開闢のとき、五穀の種と麻の種を持って降臨した垂迹神である。垂迹神としての三尊はそれぞれ「くにとこたちのみこと」・「いざなぎのみこと」・「いざなみのみこと」であり、それぞれの本地仏は「阿弥陀如来」・「釈迦如来」・「大日如来」であることなどを述べている。

下線部Bの文脈は、芦峯寺の布橋儀式（後の「布橋大灌頂法会」）に関する説明である。毎年、秋の8月彼岸の中日に、閻魔堂から天の浮橋を経て嬬堂まで366反の布を敷き渡して、一山の衆徒がそこに集まって「灌頂」を修行したと述べている。その儀式は「布

橋観（本来は「灌」か？）頂」と呼ばれており、仏教法会の所作にもとづくものであったようだ。この儀式で使用した布はのちに経帷子にした。この時期の嬭堂の前の橋は、後の一般的な呼称の「布橋」ではなく、「天の浮橋」と呼ばれていたようである。

下線部Cの文脈は、檀家への寄付の要請に関するものである。宝泉坊は、芦峯寺一山の寺役として、輪番制で回ってくる嬭尊別当職（任期1年）を勤めなければならないことを述べている。同職に就くと、布橋灌頂法会の導師を勤めなければならない、その儀式に必要な366反の白布の費用や、嬭堂の年中行事に必要な御供や灯明の費用をまかなわなければならないという。これに対しては、宝泉坊の自力だけではとても及ばず、助成を檀那場の信徒たちに求めているのである。

下線部DとEの文脈は、寄進をした人にもたらされる利益の説明である。即身成仏をはじめ、武運長久・災難消滅・お家安泰・家内安全・諸願満足などの利益を説いている。

下線部Fは、嬭尊別当職に就くことで必要となる諸経費の総額を、布橋灌頂法会に使用する白布366反分の46両3分も含めて、121両1分としている。

さて次に、この勸進記の内容を解説し、それに記された全信徒を対象として、掲載順にその氏名や住所、寄進金額、寄進布の反数などの情報を示す第3表を作成した。この表にもとづいて寄進状況を集計すると、記載信徒総数159名で、総額23両2分2朱2100文、6000疋、青銅870疋、青銅500銅、白布97反、白銀13枚、烏目200、南両15片を集めている。

一方、上記の実計算に対し、帳面に記載された寄進受領額の集計を見ておきたい。本文中の一箇所に△印がふられており、その印を境として、まず、帳冊の巻頭から△印がふられた箇所までのあいだに「メ金15両」の記載が見られ、次に△印以下の寄進受領額の集計として、「△印りメ金32両1分4朱、白銀3枚、小玉1包、銭5貫700文。右大帳の分。」の記載が見られる。さらに巻末のメのあとに「白銀2枚、金200疋」の記載があり、これらをあわせると、47両1分4朱、

白銀5枚、金200疋、小玉1包、銭5貫700文となる。

この勸進記では、宝泉坊に寄進を行った信徒のうち、その全ての者に対して住所が記されているわけではなく、一部の者に限られている。以下、地域別に町名と信徒名をあげておきたい。浅草では山谷町（山崎屋久三郎）の地名及び信徒名が見られる。日本橋では新右衛門町（前川六右衛門、丸岡重兵衛）や通3丁目（寿熊次郎、南油町（若村重吉）、坂本町1丁目（長沢寿蔵）、両国元町（岡本屋忠兵衛）などの地名及び信徒名が見られる。京橋では京橋（辻村平兵衛）や霊岸島（中沢屋藤兵衛、亀田屋助兵衛、三河屋文七、長谷川喜右衛門、加賀屋利兵衛）、本材木町3丁目（嶋谷平八）、新堀竹川町（石田政衛門、松本孫市、愛沢千吉）、銀座3丁目（大工伝六）、桶町（信濃屋八兵衛、松本茂兵衛、中村屋清五郎）、新肴町（伊勢屋佐八）などの地名及び信徒名が見られる。神田では三河町（丸屋伊兵衛、庄内屋金兵衛）の地名及び信徒名が見られる。芝では芝口1丁目（伊勢屋与八、山田屋太郎兵衛）の地名及び信徒名が見られる。下谷では池之端仲町（野田屋四郎兵衛）の地名及び信徒名が見られる。深川では熊井町（野田屋四郎三郎）と富田町（堂本兵右衛門）の地名及び信徒名が見られる。小石川では小石川（貞真）の地名及び信徒名が見られる。

また、住所は記されていないが、紀州屋敷や上州上屋敷の名称が見られる。この他、やはり住所は不明であるが、寄進者として播州売場や小四郎売庭、松兼売場、廉利売場、嶋五売場、山長売場など、問屋・仲買の売場も見られる。

3-5. 史料Eにみる新吉原の檀那場状況

史料Eは、旧宝泉坊の土蔵から見つかった宝泉坊照円の文政9年（1826）の新吉原関係者を対象とした初穂集帳である。形態は長帳で、法量は縦11.8cm×横34.0cmである。表紙に「越中立山芦峯寺集帳 戌文政九年四月三日集之」、裏表紙に「新吉原五町分世話人新助 浅草田町貳丁目 新吉原分軒伊勢屋（以下摩滅）」と記載が見られる。以下は、その史料の翻

刻である。

【表紙】

越中立山芦峯寺集帳
 戌文政九年四月三日集之

【本文】

一、此講中仲之町中松屋隠居り頼二而、新助引請申候。

「○」印 会所四郎兵衛様
 「請取」印 山邑屋美丞様
 「請取」印 升屋七右衛門様
 「請取」印 松屋お満勢様
 榮喜や留記
 「請取」印 駿河屋市兵衛様
 「請取」印 信濃屋善兵衛様
 「請取」印 俵屋長四郎様
 「○」印 八幡屋おふじ様
 「請取」印 尾張屋五兵衛様
 「請取」印 おハリや太郎兵衛様
 「請取」印 湊屋お飛さ様
 「請取」印 永楽屋平蔵様
 「○請取」印 中松屋善兵衛様
 「請取」印 桐屋佐兵衛様
 「請取」印 中川屋新八様
 「請取」印 常盤屋おか免様
 「請取」印 大黒屋又兵衛様
 「請取」印 大黒屋庄六様
 「請取」印 薦屋太兵衛様
 「請取」印 ミなとや佐兵衛様
 「○請取」印 大野屋熊次郎様
 「請取」印 一文字屋嘉兵衛様
 「○」印 尾張屋喜三郎様
 「請取」印 阿ツまやおもん様
 「請取」印 竹村伊兵衛様
 「請取」印 兵庫屋弥助様
 「○」印 巴屋伝助様
 「請取」印 伊勢屋おと茂様

「○請取」印 南部屋庄七様
 「○」印 桐屋五兵衛様
 「請取」印 近江屋半四郎様
 「○」印 山本屋金蔵様

江戸町

同式丁目

「○」印 扇屋宇兵衛様
 「受取」印 若那屋八郎右衛門様
 式百文

京町

「○」印 若松屋藤左衛門様
 「○」印 亀嶋屋忠兵衛様

角町

「○」印 松葉屋半蔵様

老軒前錢百文集

一、金貳分ト三百文 世話人新助 納高
 一、金貳朱 新助納 (黒印)
 三月十二日

一、金貳分貳朱ト錢三百文 新助納 (黒印)
 三月廿日

文政十三年寅四月十五日

一、金貳分貳朱ト錢三百文 惣納高 新助分共(黒印)
 天保二卯七月十一日

一、金貳分貳朱ト錢三百文 惣納高 新助共 (黒印)
 (欠損)辰歳分集相休申候

天保四六月九日

一、金貳分貳朱也 惣集高 新助共 (黒印)
 天保五四月廿八日

一、金貳分貳朱錢百文也 惣集 (黒印)
 同七年

一、金貳分貳朱錢百文 惣集 (黒印)
 天保十亥四月七日

一、金貳分貳朱ト錢百文 惣集 (黒印)
 天保十一子四月三日

一、金貳分貳朱ト錢百文 惣集 (黒印)
 天保十二丑四月十一日

- 一、金貳分貳朱ト錢百文 惣集（黒印）
 天保十三寅四月廿日
- 一、金貳分貳朱ト錢百文 惣集（黒印）
 弘化二巳二月廿四
- 一、金貳分貳朱ト錢百文 惣納高（黒印）
 嘉永四辛亥年三月廿七日
- 一、金貳百疋 惣納高（黒印）
 嘉永五子年
- 一、金貳百疋
 癸丑年（嘉永六年）
- 一、金貳百疋
 甲寅年（安政元年）
- 一、金貳百疋

【裏表紙】

世話人
 新吉原五町分新助
 浅草田町貳丁目
 新吉原分枡伊勢屋（以下摩滅）

上記の史料から新吉原に立山信仰の講組織が存在していたことがわかる。史料には新吉原の関係者が、講中世話人の新助や枡伊勢屋、さらに会所四郎兵衛らを含め40名記されている。史料の前半部分には、各信徒からの初穂の受け取り状況が示され、後半部分には文政9年（1826）から安政元年（1854）の新吉原立山講における初穂寄進高が記されている。

講中の世話人は新吉原仲之町の中松屋隠居の善兵衛から依頼を受けた新助と称する人物であった。史料の本文中には「一、此講中仲之町中松屋隠居り頼二而、新助引請申候」と見え、さらに裏表紙には「新吉原五町分 世話人新助 浅草田町貳丁目新吉原分枡伊勢屋（以下摩滅）」と見え、新助の他に枡伊勢屋の名前も見られる。

彼らについては、宝泉坊衆徒泰音の嘉永6年（1853）の檀那帳（芦峯寺一山会所蔵・史料G）の巻末に、新吉原講中に関して、「右新吉原講中八仲人中松屋隠居

り頼二而新助引請申候」、「右講中、当時ハ新助り引請世話人二相頼申候。田町貳丁目、又ハ茶屋町共云云。枡九兵衛店伊勢屋三四郎（印）」との記載が見られる。

この史料から推測すると、新吉原講中の世話人は、同所仲之町の中松屋隠居から依頼を受けて新助と称する人物が茶屋廻りとして請け負っていたが、新助は浅草田町2丁の枡九兵衛店の伊勢屋三四郎と何らかの関係を持った人物のようである。文政期から天保期を経て嘉永期頃まで、宝泉坊の檀那帳には新吉原の世話人として新助の名前が見られるが、それ以降の、例えば安政2年（1855）や文久3年（1863）の廻檀日記帳などには、浅草田町の枡九兵衛店伊勢屋三四郎の名前しか見られなくなる。おそらく、茶屋廻りを行う実質的な世話人が、新助から伊勢屋三四郎に切り替わったものと推測される。

文政9年（1826）から安政元年（1854）までの新吉原講中からの初穂寄進高は第4表に示したとおりである。新吉原からの毎年の初穂寄進状況は、弘化までは金2分2朱と錢100文。嘉永頃から金200疋となっている。

3-6. 史料Fにみる檀那場状況

3-6-1. 史料Fにみる檀那場状況

史料Fは旧宝泉坊の土蔵から見つかった檀那帳の1冊である。形態は長帳で、法量は法量は縦12.5cm×横35.0cmである。表紙に「御祈禱檀那帳 扣 立山芦峯寺宝泉坊照円 天保十己亥年正月大吉祥日」と記載が見られ、この史料は、宝泉坊衆徒の照円による天保10年（1839）の檀那帳であることがわかる。なお、照円は文化2年（1805）から天保11年（1840）までの35年間、関東で廻檀配札活動を行っていたが、2年後の天保13年（1842）に病没しているため、天保10年に記されたこの檀那帳は、彼が人生をかけて築いてきた檀那場の最終的な状況を示しているといえよう。

さて、この檀那帳の内容を解説し、そこに記された全信徒を対象として、掲載順にその氏名や配札地（居

住地)、及び江戸時代の該当郡区、定宿の有無などの情報を示す第5表を作成した。この表にもとづいて檀那場の実態を見ていくと、記載件数は655件で、信徒総数は651名(1件は配札地のみ記載で、人物名記載なし。3軒は同一人物で重複〔No.F-249・No.F-572の野田屋四郎兵衛、No.F-433・No.F-250の中沢屋藤兵衛、No.F-251・No.F-434の渡辺円済〕)・宿数65軒・名主2名となつている。本文の内容から、信濃国・上野国・武蔵国・江戸・相模国で檀那場が形成されていたことがわかり、以下、檀那場の地域的な分布状況を見ておきたい。

信濃国は信徒数が47名・宿数12軒である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、筑摩郡が信徒数27名・宿数6軒、佐久郡が信徒数20名・宿数6軒となっている。

上野国は信徒数が109名・宿数22軒・名主1名である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、碓氷郡が信徒数60名・宿数14軒・名主1名、甘楽郡が信徒数14名・宿数4軒、勢多郡が信徒数14名・宿数1軒、群馬郡が信徒数12名・宿数2軒、那波郡が信徒数9名・宿数1軒となっている。

武蔵国は信徒数159名・宿数18軒・名主1名である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、橘樹郡が信徒数70名・宿数10軒・名主1名、幡羅郡が信徒数36名・宿数2軒、足立郡が信徒数19名・宿数2軒、大里郡が信徒数13名・宿数3軒、豊島郡が信徒数13名・宿数1軒、児玉郡が信徒数5名・宿数0軒、都筑郡が信徒数2名、荏原郡が信徒数1名・宿数0軒となっている。

相模国は信徒数108名・宿数10軒である。その内訳を信徒の多い順で郡別に見ていくと、足柄下郡が信徒数50名・宿数4軒、大住郡が信徒数32名・宿数2軒、足柄上郡が信徒数20名・宿数3軒、高座郡が信徒数6名・宿数1軒となっている。

江戸御府内は信徒数218名・宿数1軒である。その内訳を信徒の多い順で地域別に見ていくと、浅草が信徒数49名(新吉原関係者38名を含む)・宿数0軒、京

橋が信徒数47名・宿数0軒、日本橋が信徒数22名・宿数0軒、芝が信徒数22名・宿数0軒、麴町が信徒数14名・宿数0軒、下谷が信徒数11名・宿数0軒、四谷が信徒数10名・宿数1軒、牛込が信徒数9名・宿数0軒、深川が信徒数7名・宿数0軒、神田が信徒数7名・宿数0軒、赤坂が信徒数6名・宿数0軒、小石川が信徒数5名・宿数0軒、麻布が信徒数4名・宿数0軒、本郷が信徒数3名・宿数0軒、本所が信徒数2名・宿数0軒となっている。

該当地域が不明な件数は10件10名・宿数2軒である(No.F-111・No.F-112関沢村、No.F-139下瀧野村、No.F-179～No.F-181行屋村、No.F-218～No.F-220申新田村、No.F-555住所記載なしの1件)。

3-6-2. 史料Fの文字注記にみる廻檀配札活動の実態

檀那帳の本文中に「飛州野麥り信濃国 一、神谷村、宿、長右衛門」と記載が見られ、さらに、第5表に見られる檀那場の地域を追っていくと、芦崎寺から江戸までの行程が概ね推測できる。おそらく、飛驒街道→野麥街道→武石道→北国街道→中山道を経由して江戸の檀那場に向かったものと考えられる。

衆徒の配札の実態については、「右之外、宿中小午王札弘、組人足式人二而配札」、「右之外、村中小午王札弘之。組人足式人、名主様より被下候様、御頼申候而、五良兵衛江行、配札仕可申事」、「右之外、村中小午王札弘。組自分二而配札」、「右之外、村中小午王札弘之。人足老人を以配札」などの注記が見られる。

これらの記載から、衆徒は一般的には檀那場の村々で、名主が用意してくれた(指定した)組人足二人ないし一人に、村内各家への配札を依頼していたようである。注記からは小判の牛玉札「立山之宝」が配札されていたことがわかる。しかし、ときには衆徒自身が村の檀家を一軒一軒配札に廻ることもあった。

新吉原(浅草区)からの初穂の徴収は「新吉原分一、此講中、仲之町中松屋隠居り頼二而新助引請申候」、「耆軒分式百文集」の文言に見られるように、1軒分

として200文が徴収され、新助と称する人物が新吉原の茶屋を廻って初穂を集めてきてくれたようである。

檀那帳には寺院との師檀関係も見られ、No.F-061 上野国碓氷郡新寺村「観音寺」(天台宗)。No.F-241 武蔵国豊島郡上十条村「西音寺」(真言宗)。No.F-318 相模国大住郡南金目村「光明寺」(天台宗)。No.F-325 相模国大住郡南金目村「寂浄寺」(天台宗)などがそれぞれである。

本文中、深川万年橋の松平和泉守(三河西尾藩松平家第3代当主の松平乗寛)が檀家として記載された箇所、「但奥中薬御配申候」と注記が見られ、廻檀配札の際には護符とともに薬も頒布していたことがわかる。

3-7. 史料Gにみる檀那場状況

史料Gは、芦峯寺一山会所蔵の檀那帳の1冊である。形態は横帳で法量は縦15.0cm×横20.5cmである。表題は「御祈禱口」といった具合に末尾が摩耗しているが、本文の最初の部分に「嘉永六丑年霜月 越中立山宝泉坊泰音(印と花押)」と記され、またその手前に「御一新に付 立山旧神職佐伯左内 智憲ト改名 明治二年」と後筆されており、さらにこれらの記載の後に「東都檀那衆中様」として信徒名や信徒の住所が随時記載されているので、この檀那帳が江戸の檀那場を対象として宝泉坊衆徒泰により嘉永6年(1853)に制作され、以後使用されたものであることや、明治に入ってから泰音、すなわち佐伯左内がこれを使用していたことが確認できる。

筆者はかつてこの檀那帳を拙稿「近世幕末期の江戸における立山信仰」(註6)において分析し、その際、この檀那帳の内容を解説し、さらにそれに記された全信徒を対象として、掲載順にその氏名や配札地(居住地)、及び江戸時代の該当郡区、定宿の有無などの情報を示す表も作成・提示しているため、本稿ではそれを活用していきたい。

その表にもとづいて檀那場の実態を見ていくと、江戸御府内には367名の信徒が存在し、宿数は3軒であ

る。檀那場の分布状況を信徒の多い順で地域別に見ていくと、浅草が60名(新吉原関係者35名を含む)、深川が50名、日本橋が42名、芝が38名(宿数1軒)、京橋と麴町がそれぞれ30名、牛込が24名、下谷が17名、本所が16名、小石川と四谷(宿数1軒)が12名、赤坂が9名、神田と本郷(宿数1軒)がそれぞれ8名、麻布が3名となっている。この他、住所未詳の信徒が8名存在する。

3-8. 本章のまとめ

史料A～史料C、史料F・史料Gにおける江戸の信徒の地域的分布状況を見ていくと、5冊とも、もっとも信徒が多い地域は新吉原の信徒を含む浅草となっている。浅草における新吉原の信徒については、史料Aでは浅草の信徒38名中18名、史料Bでは、浅草の信徒91名中51名、史料Cでは浅草の信徒138名中100名、史料F(天保10年)では49名中38名、史料G(嘉永6年)では60名中35名、なお、新吉原だけの信徒をあげた史料E(文政9年)では40名となっている。このように浅草の信徒の半数以上は新吉原の関係者であり、ある意味ではここが他所よりも早くから江戸の檀那場の基盤のひとつとなっていたと考えられる。

浅草の次に信徒が多いのは江戸の間屋商業の中心地である日本橋である。史料A～史料Cでは浅草に次いで2番目、史料Fと史料Gでは3番目となっている。その他、御用達商人の拝領地がならぶ京橋・芝、あるいは神田にも比較的多く信徒が見られる。

浅草や日本橋・京橋などの地域が檀那場としては比較的早くから確立し、次いで芝などの他地域へ延びていったのであろう。

史料Gでは深川の信徒が増大しているが、これは後述するが、宝泉坊が深川に下屋敷をもつ三河西尾藩6万石松平(大給)家第3代当主の松平乗寛や同家第4代当主の松平乗全と関係をもつようになったからと考えられる。

4. 掲載信徒の各檀那帳間における一致状況からみたその成立順及び成立時期

4-1. 史料Aを基準として他史料を比較した場合の 分析内容及び結果

史料Aに記載された信徒が、史料B・史料C・史料D・史料E・史料F・史料Gにも見られるかどうかを調べた。表中、名前・住所がいずれも一致する者は「●」、住所と屋号・姓などが一致するものの、代替わりなどのためか名前が異なる者、姓名は一致するが転居などのためか、住所が異なる者については「○」で示した。

史料Aと史料Bでは、Aの255名中192名の信徒が一致している（一致率約75%）。

史料Aと史料Cでは、Aの255名中42名の信徒が一致しており（一致率約16%）、さらに3名の信徒がおそらく代替わりで一致しているものと思われる。

史料Aと史料D・史料Fでは、Aの255名中、池之端の「野田屋四郎兵衛」(No.A-023・No.D-001・No.F-249・No.F-572)だけが一致している（一致率約0.4%）。この野田屋四郎兵衛については、文政7年（1824）刊行の『江戸買物独案内』（国立国会図書館蔵本）に水油仲買（10組）として記されている（註7）。ただし、野田屋四郎兵衛の住所について、史料A・史料B・史料Cでは「池之端中町」とするのに対し、かたや『江戸買物独案内』では「上野元黒門町」としており異なっている。ところで、史料Fでは、野田屋四郎兵衛の住所は「池之端中町」と「江戸上野仲町」の2箇所が示されている。そうすると、『江戸買物独案内』の「上野元黒門町」と史料Fの「江戸上野仲町」であれば、同じ上野界隈である。野田屋が何度か転居したのか、あるいは住居とは別の場所に店を構えていたのか、はたまた全く別人物なのかは多少疑問が残るところである。いずれにしろ、ここではこの住所違いの野田屋を同一人物として論を進めると、「野田屋四郎兵衛」がかなり長期に渡って檀家として継続しているので、代替わりの際、同屋号・同名で引き継がれていることは確実である。そして、史料A・史料B・史料C・

史料D（文化11年）・史料F（天保10年）に見られる「野田屋四郎兵衛」の存在と同家の継続性は、これらの史料が同一宿坊家の所蔵・活用品であることを推測させる。

史料A・史料E・史料Gでは、共通の信徒が見られない。

史料A・史料B・史料Cの3冊に共通で見られる信徒は次のとおりである。

浜川町の「吉田武兵衛」(No.A-001・No.B-001・No.C-344)、「五平治」(No.A-002・No.B-003・No.C-345)、「五郎兵衛」(No.A-003・No.C-346)。御林町の「小池五兵衛」(No.A-005・No.B-006・No.C-343)、「米屋長右衛門」(No.A-007・No.B-008・No.C-340)、「吉田半兵衛」(No.A-008・No.B-009・No.C-339・No.C-341)、「神山市郎左衛門」(No.A-012・No.B-013・No.C-335)。海雲寺門前の「吉田又三郎」(No.A-013・No.B-014・No.C-331)。大井村芝の「市船源左衛門」(No.A-021・No.B-023・No.C-325)。池之端の「野田屋四郎兵衛」(No.A-023・No.B-038・No.C-033・No.C-050)（水油仲買、史料D〔文化11年〕・史料F〔天保10年〕にも記載が見られる）。長者町の「糠屋清兵衛」(No.A-027・No.B-045・No.C-044)。浅草聖天町の「油屋市郎兵衛」(No.A-050・No.B-077・No.C-058)。富士前の「伊豆屋市兵衛」(No.A-051・No.B-079・No.C-059)。新吉原京町の「鈴木屋た左衛門」(No.A-053・No.B-082・No.C-186)。新吉原仲之町の「伊勢屋長右衛門」(No.A-056・No.B-086・No.C-096)、「堺屋喜右衛門」(No.A-057・No.B-087・No.C-112)、「伊勢屋久兵衛」(No.A-059・No.B-091・No.C-114)。新吉原堺町の「結城屋善兵衛」(No.A-063・No.B-095・No.C-141)。本所菊川町の「山崎五郎助」(No.A-076・No.B-115・No.C-482)。大伝馬町2丁目の「板屋与兵衛」(No.A-089・No.B-127・No.C-234)。小伝馬町3丁目の「あかがね屋半兵衛」(No.A-091・No.B-129・No.C-229・No.C-230・No.

C-236)。堺町の「仲屋半七」(No.A-099・No.B-137・No.B-392・No.C-218)。かんさの河岸の「清水屋三四郎」(No.A-100・No.B-138・No.B-390・No.C-219)。亀島町の「松屋七郎兵衛」(No.A-106・No.B-142・No.C-490)、「石橋屋喜兵衛」(No.A-107・No.B-143・No.C-492)。木挽町4丁目の「紀伊国屋又七」(No.A-124・No.B-164・No.C-277)。鉄砲洲船松町の「三河屋伊左衛門」(No.A-126・No.B-166・No.C-488)。神田四間町の「ふじしろ屋四郎兵衛」(No.A-137・No.B-176・No.C-023)、「丸屋久兵衛」(No.A-138・No.B-177・No.C-025)。湯島天神三組町の「三河屋勘兵衛」(No.A-141・No.B-183・No.C-364)。牛込の「万屋仁兵衛」(No.A-148・No.B-193・No.C-367)。牛込七間町の「万屋権十郎」(No.A-154・No.B-197・No.C-375)。小石川大塚町の「三河屋源兵衛」(No.A-161・No.B-205・No.C-387)。伝通院前の「駿河屋善兵衛」(No.A-165・No.B-209・No.C-383)、「川越屋勘右衛門」(No.A-166・No.B-212・No.C-384)。高田馬場下六八幡戸塚村の「久四郎」(No.A-168・No.B-308・No.C-404)。四谷堀町3丁目の「松葉屋半兵衛」(No.A-173・No.B-219・No.C-414)。四谷鳴子町の「海老屋茂左衛門」(No.A-179・No.B-224・No.C-444)、「加嶋屋半兵衛」(No.A-181・No.B-225・No.C-443)、「田中権左衛門」(No.A-182・No.B-226・No.C-445)。麻布龍土町の「相模屋仁兵衛」(No.A-184・No.B-229・No.C-477)。御筆筈町の「丸屋平助」(No.A-188・No.B-198・No.C-371・No.C-377)、以上の42名である。この他、本小田原町安針町の「ふつとや甚兵衛」(No.A-108・No.B-144・No.C-239)と二葉町の「扇屋清右衛門」(No.A-122・No.B-163・No.C-263)の2名は代替わりで継続の可能性がある。

さて、以上の分析結果から、史料Aと史料Bは近接した時期の檀那帳と推測される。その際、史料Aが史料Bより先に成立していたと推測される。史料Cは史料A・史料Bが成立した後に成立したものと推測される。史料A・史料B・史料Cの3史料と、史料D(文化11年)・史料E(文政9年)・史料F(天保10年)

・史料G(嘉永6年)の4史料との間には成立時期及び活用時期に開きが想定される。また、史料A・史料B・史料C・史料D(文化11年)・史料F(天保11年)にともに見られる檀家の「野田屋四郎兵衛」の継続性から、これらは同一宿坊家が所蔵・活用したものと推測され、さらにその際、史料C(宝泉坊教清が使用)・史料D(宝泉坊照円が使用)・史料F(宝泉坊照円が使用)がその表題や本文内容などから、宝泉坊の所蔵・活用であることが確定しているため、使用・所蔵宿坊名が不明の史料Aと史料Bも宝泉坊の檀那帳であると推測される。

4-2. 史料Cを基準として他史料を比較した場合の分析内容及び結果

史料Cに記載された信徒が、史料A・史料B・史料D・史料E・史料F・史料Gにも見られるかどうかを調べた。表中、名前・住所がいずれも一致する者は「●」、住所と屋号・姓などが一致するものの、代替わりなどのためか名前が異なる者、姓名は一致するが転居などのためか住所が異なる者については「○」で示した。

史料Cと史料Aでは、史料Cの500名中42名の信徒が一致しており(一致率8.4%)、さらに3名の信徒がおそらく代替わりで一致しているものと推測される。

史料Cと史料Bでは、史料Cの500名中88名の信徒が一致しており(一致率17.6%)、さらに4名の信徒がおそらく代替わりで一致しているものと推測される。

史料Aと史料Bでは、信徒の重複数の多さから判断すると、史料Aより史料Bのほうが史料Cの成立時期に近いと推測される。

史料Cと布橋大灌頂法会勸進記の史料D(文化11年)とでは、史料Cの500名中、池之端の「野田屋四郎兵衛」(No.C-033・No.D-001)と茅場町の「網屋三重郎」(No.C-510・No.D-048)の2名が一致し(一致率0.4%)、四谷伝馬町1丁目の「岩田屋四郎兵衛」(No.C-409・No.D-016)1名が代替わりで一致しているものと思われる。上野町の「米屋八兵衛」

(No.C-043・No.D-014)は史料Dにもその名前が見られるが、住所は記されていない。

なお、文政7年(1824)刊行の『江戸買物独案内』(国立国会図書館蔵本)によると、「野田屋四郎兵衛」は前述の通り水油仲買(10組)を営む商人であり、「網屋三重郎」は、船具問屋(10組)と麻苧問屋(10組)を営む商人であることがわかる(註8)。

史料Cとの新吉原初穂集帳の史料E(文政9年)とでは、新吉原関係者の「会所四郎兵衛」(No.C-113・No.C-189)、「蔦屋太兵衛」(No.C-121)、「尾張屋五兵衛」(No.C-124)、「升屋七右衛門」(No.C-133・No.C-134)の4名が合致している。史料Cの新吉原関係者は100名、史料Eは全て新吉原関係者で40名であるが、両史料の間で4名の信徒しか一致しないということは、この4名も同屋号・同名で代替わりした可能性が高く、史料Cの成立時期と史料Eの成立時期にかなりの開きがあるのか、あるいは文政9年(1826)以前に、新吉原自体に何か大きな変化があったことなどが推測される。

なお、新吉原の「会所四郎兵衛」(No.C-113・No.C-189・No.F-618・No.G-334)は史料A・史料Bには現れず、史料Cに初めて現れ、のちの史料E(文政9年)・史料F(天保10年)・史料G(嘉永6年)にも継続的に見られる。

史料Cと史料Fでは、史料Cの500名中9名の信徒が一致している(一致率1.8%)。

史料Cと史料Gでは、史料Cの500名中6名の信徒が一致している(一致率1.2%)。

史料Cに初めて現れ、のちの史料E(文政9年)・史料F(天保10年)・史料G(嘉永6年)に共通して見られる信徒に、新吉原中町の「会所四郎兵衛」(No.C-113・No.C-189・No.F-618・No.G-334)、「蔦屋太兵衛」(No.C-121・No.F-636・No.G-352)、「尾張屋五兵衛」(No.C-124・No.F-626・No.G-342)、「升屋七右衛門」(No.C-133・No.C-134・No.F-620・No.G-336)がいる。彼らが現れる以前は、新吉原では、史料Aと史料Bの両方に見られる新吉原京町(浅草区)

の「鈴木屋た左衛門」(No.A-053・No.B-082)、新吉原仲之町(浅草区)の「伊勢屋長右衛門」(No.A-056・No.B-086)、「堺屋喜右衛門」(No.A-057・No.B-087)、「伊勢屋久兵衛」(No.A-059・No.B-091)、新吉原堺町(浅草区)の「結城屋善兵衛」(No.A-063・No.B-095)などが宝泉坊の勧進活動を中心的に支援していたようである。

上野町の「米屋八兵衛」(No.B-042・No.C-043)は史料Bに初めて現れ、のちの史料Cにも見られる。史料D(文化11年)にも「米屋八兵衛」(No.D-014・No.F-483)の名前が見られるが、住所は記されていない。史料Fでは四谷伝馬町の住所で記載されている。四谷伝馬町の「米屋八兵衛」(No.F-483)(註9)は文政7年(1824)刊行の『江戸買物独案内』(国立国会図書館蔵本)によると、製薬(売薬)問屋である。「岩井源兵衛」(No.C-271)も史料Bに初めて現れ、住所は微妙に異なるものの史料F・史料Gにも見られる。なお、「岩井源兵衛」(註10)は幕府御用達の御具足師であり、享保3年(1718)の大武鑑にはその名前が見られないが、享保16年(1731)の大武鑑にはその名前が見られ、以後代々継続している。茅場町の「網屋三重郎」(No.C-510・No.D-048・No.F-455)は史料Cに初めて現れ、のちの史料D(文化11年)・史料F(天保10年)にも見られる。この状況を時間経過の観点で考えると、史料C→史料D(文化11年)→史料F(天保10年)といった成立時期の順番と、これら一連の史料が、同一宿坊家のものであることなどがうかがわれる。これと同じような事例で、代替わりを含むものとしては、四谷伝馬町1丁目の「岩田屋四郎兵衛」(No.C-409・No.F-481)もこれに該当しよう。

さて以上の条件をあわせ時間経過の観点で考えると、前述の「野田屋四郎兵衛」の場合と同様、史料B→史料C→史料D(文化11年)→史料F→史料Gといった成立時期の順番と、さらにこれに史料Bとの間で信徒の重複が多く見られる史料Aも加え、これら一連の史料が、史料A→史料B→史料C→史料D(文化11

年) →史料F (天保10年) →史料G (嘉永6年) の成立順で同一宿坊家のものであることを推測させる。

史料Cの成立時期はどちらかといえば、史料Aと史料Bの成立時期に近く、史料D (文化11年) 及び史料E (文政9年)・史料F (天保10年)・史料G (嘉永6年) の成立時期とはある程度離れているものと推測される。

史料Cに初めて現れ、のちの史料F (天保10年)・史料G (嘉永6年) にも見られる信徒に、「中沢 (屋) 藤兵衛」(No.C-491・No.F-250・No.F-433・No.G-001) と「渡辺円済」(No.C-519・No.F-251・No.F-434・No.G-002) がいる。なお、文政7年刊行の『江戸買物独案内』(国立国会図書館蔵本) によると「中沢屋藤兵衛」は瀬戸物問屋 (10組) である (註11)。

4-3. 史料Fを基準として他史料を比較した場合の分析内容及び結果

史料Fに掲載された信徒のうち、No.F-001からNo.F-248、No.F-253からNo.F-432は江戸御府内以外の地域である。

史料Fに記載された信徒が、史料A・史料B・史料C・史料D・史料E・史料Gにも見られるかどうかを調べた。表中、名前・住所がいずれも合致する者は「●」、住所と屋号・姓などが一致するものの、代替わりなどのためか名前が異なる者、姓名は一致するが転居などのためか住所が異なる者については「○」で示した。

史料Fと史料Aでは、史料Fの651名中 (江戸御府内は218名)、「野田屋四郎兵衛」(No.F-249・No.F-572・No.A-023) の1名だけが一致しており (一致率約0.2%)、さらに「丸屋平助」(No.F-506・No.A-188) が転居などで住所が異なるものの、おそらく一致しているものと推測される。

史料Fと史料Bでは、史料Fの651名中 (江戸御府内は218名)、「野田屋四郎兵衛」(No.F-249・No.F-572・No.B-038) と「湊屋佐兵衛」(No.F-637・No.B-331) の2名だけが一致しており (一致合致率0.3%)、

さらに「岩井源兵衛」(No.F-497・No.B-304) と「丸屋平助」(No.F-506・No.B-232) の2名が転居などで住所が異なるものの、おそらく一致しているものと推測される。

史料Fと史料Cでは、史料Fの651名中 (江戸御府内は218名)、「野田屋四郎兵衛」(No.F-249・No.F-572・No.C-033)、「中沢屋藤兵衛」(No.F-250・No.F-433・No.C-491)、「渡辺円済」(No.F-251・No.F-434・No.C-519)、「網屋三重郎」(No.F-455・No.C-510)、「甲州屋市右衛門」(No.F-503・No.C-394)、「会所四郎兵衛」(No.F-618・No.C-113・No.C-189)、「升屋七右衛門」(No.F-620・No.C-133・No.C-134)、「尾張屋五兵衛」(No.F-626・No.C-124)、「葛屋太兵衛」(No.F-636・No.C-121) の9名が一致しており (一致率約1%)、さらに「岩田屋又右衛門」(No.F-481・No.C-409) と「米屋八兵衛」(No.F-483・No.C-043)、「永楽屋平蔵」(No.F-629・No.C-151) が代替わりで一致しているものと推測され、「岩井源兵衛」(No.F-497・No.C-271) も転居などで住所が異なるものの、おそらく一致しているものと推測される。

史料Fと史料Dでは、史料Fの651名中 (江戸御府内は218名) 13名が一致しており (一致率約2%)、さらに「岡本屋竹川店」(No.F-580・No.D-032) の1名がおそらく代替わりで一致しているものと推測される。

史料Fと史料Eでは、史料Fの651名中 (江戸御府内は218名) 35名が一致しており、さらに「升屋おひさ」(F-No.628)、「松屋新八」(F-No.632) の2名がおそらく代替わりで一致しているものと推測される。ただし、史料Eが対象とする信徒は新吉原の関係者だけなので、史料Fの新吉原の関係者の信徒に限定して比較すると、史料Eの新吉原関係信徒38名中35名が一致しており (一致率約92%)、さらに2名がおそらく代替わりで一致しているものと推測される。したがって、新吉原の信徒からのみ考察すると、史料Fと史料Cとの間には人的・時間的に大きな隔りがあり、史料Fと史料Eとは近接した関係にあることがわかる。

史料Fと史料Gでは、史料Fの651名中（江戸御府内は218名）91名が一致しており（一致率約14%）、さらに20名がおそらく代替わりで一致しているものと推測される。史料Fの新吉原の関係者の信徒に限定して比較すると、史料Gの新吉原関係信徒38名中32名が一致しており（一致率約84%）、さらに1名がおそらく代替わりで一致しているものと推測される。史料Fと史料E・史料Gとの一致度の高さから、文政期以降、新吉原の立山講組織は信徒の顔ぶれがほぼ固定化していたようである。

以上の分析結果から、史料F（天保10年）は史料E（文政9年）・史料G（嘉永6年）の成立年代そのものが近い時期なので、当然ではあるが、近接した関係にあり、逆に史料A・史料B・史料Cの3史料とは、成立時期の面で開きがあるようである。

4-4. 本章のまとめ（史料A～史料Gの成立順）

前述の分析内容から、まず史料A～史料Gの7冊は、いずれも芦峯寺宝泉坊が所蔵・活用した檀那帳や勧進記であると断定した。

次に、史料A～史料Gの掲載信徒に対する相互比較を行った結果、以下のとおりとなった。

史料Aを基準として他の史料B～史料Gをそれぞれ比較し、信徒の重なりを調べた場合、史料Aと史料Bでは一致率約75%、史料Aと史料Cでは一致率約16%、史料Aと史料D・史料Fではそれぞれ一致率約0.4%、史料Aと史料E・史料Gではそれぞれ一致率0%であった。

史料Cを基準として他の史料A・史料B・史料D・史料F・史料Gをそれぞれ比較し、信徒の重なりを調べた場合、史料Cと史料Aでは一致率8.4%、史料Cと史料Bでは一致率17.6%、史料Cと史料Dでは一致率0.4%、史料Cと史料E（双方の新吉原関係者の信徒だけを比較）では一致率4%、史料Cと史料Fでは一致率1.8%、史料Cと史料Gでは一致率1.2%であった。

史料Fを基準として他の史料A・史料B・史料C・

史料D・史料E・史料Gをそれぞれ比較し、信徒の重なりを調べた場合、史料Fと史料Aでは一致率約0.2%、史料Fと史料Bでは一致率約0.3%、史料Fと史料Cでは一致率約1%、史料Fと史料Dでは一致率約2%、史料Fと史料E（双方の新吉原関係者の信徒だけを比較）では一致率約92%、史料Fと史料Gでは一致率約14%、特に史料Fと史料Gの新吉原関係者の信徒だけに絞って比較した場合は一致率約84%であった。

この結果をふまえて史料A～史料Gを成立時期の古いものから順に並べると、史料A→史料B→史料C→史料D（文化11年）→史料E（文政9年）→史料F（天保10年）→史料G（嘉永6年）になる。さらに、史料A・史料B・史料Cの3史料と、史料D（文化11年）・史料E（文政9年）・史料F（天保10年）・史料G（嘉永6年）の4史料との間には、信徒の共通性の点からすると成立時期に開きがあることがわかる。

史料Aが享保3戊戌年（1718）か享保13戊申年（1728）の成立であるから、史料Aと約75%の確立で信徒が重なる史料Bは享保後期から宝暦期頃の間成立と推測される。史料Cは史料A・史料Bと信徒が多く重なり、一方、史料D～史料Gとはほとんど重ならないので、その成立時期は史料A（享保3年か享保13年のどちらか）・史料Bと近く、史料D（文化11年）～史料Gとは遠いと考えられる。したがって、史料A・史料Bの成立時期を軸にして考えると、史料Cの成立時期は宝暦期～安永期頃の間と推測される。

さて、第4章の分析で指摘するもう一点は新吉原の信徒についてである。史料A～史料Cでは、既に新吉原の信徒数が信徒総数に対して高い割合をしめており、江戸の檀那場の基盤となっていた。しかし史料Cにおける新吉原の信徒と、それ以後の史料E～史料Gにおける新吉原の信徒とはほとんど重複しない。一方、史料E～史料Gにおける新吉原の信徒は相互に80%を超える効率で信徒が一致している。したがって、おそらく安永期から文政期頃の間、新吉原の立山講組織に対し、それまでのあり方に何らかの変化がもたら

されたか、あるいは衆徒が出入りしたいものの組織らしいものがなかったので新たに立山講の組織が設け

られたかして、さらにそれが文政期以降は固定的に維持され続けたものと推測される。

5. 掲載信徒の身分状況からみた各檀那帳の成立順及び成立時期

5-1. 史料A～史料Fに掲載された大名及び重臣信徒から考察した史料A～史料Cの成立時期

5-1-1. 史料Aの分析から

史料Aには大名の信徒は見られない。史料Aの信徒のうち、明らかに身分が武士であるのはNo.A-146牛込見付之内の御家老「佐々木長右衛門」とNo.A-155小日向水道町大六天前御組付の「村山武右衛門」である。しかし、その素性は不明である。

5-1-2. 史料Cの分析から

史料Bに記載された大名については、史料Cを分析したのちに検討を試みる。史料Cの成立時期を考える際、同史料に記載されたNo.C-455「板倉美濃守 浦尾」が重要な意味をもつ。この事例は大名の奥女中が師檀関係を結んでいる場合である。「板倉」を称える大名家及びその歴代当主のうち、「美濃守」の官職号を叙されたのは、備中松山藩5万石板倉家第2代当主の「板倉勝武」(註12)ただ一人である。勝武(享保20年〔1735〕～明和6年〔1769〕)は宝暦元年(1751)9月に家督を相続し、従五位下・美濃守に叙され、死去する前年の明和5年(1768)に辞職している。

したがって、「板倉美濃守」の記載がある史料Cは、宝暦元年(1751)～明和5年(1768)の間に成立したと推測されるのである。ちなみに、勝武の前代当主の初代勝澄は従五位下・相模守・周防守を叙されており、勝武の次代当主の第3代勝従は従五位下・隠岐守・日向守を叙されている。二人とも美濃守の官職号は叙されていない。

No.C-485の事例は大名の家臣が師檀関係を結んでいる場合である。その「松平阿波守様御家中 桜木代右衛門」の記載にある「桜木代右衛門」は宝暦13年

(1763)の大武鑑のなかにその名前が見られる。同年の大武鑑には松平(蜂須賀)阿波守として「蜂須賀重喜」(註13)の名前が見られ、さらにその嫡男の「蜂須賀千松丸」の重臣として「桜木代右衛門」(註14)の名前が見えるのである。

「蜂須賀重喜」(元文3年〔1738〕～享和元年〔1801〕)は阿波淡路徳嶋藩25万石蜂須賀家第10代当主である。宝暦4年(1754)8月に家督を相続し、従四位下・阿波守に叙されている。嫡男の「蜂須賀千松丸」(宝暦7年〔1757〕～文化11年〔1814〕)(註15)は元服して治昭と名乗り、のちに父重喜から家督を相続し阿波淡路徳嶋藩25万石蜂須賀家第11代当主となった。宝暦13年(1763)は千松丸が数え歳で7歳の時であり、桜木代右衛門は藩主嫡男の養育者として仕えたのであろう。ちなみに、桜木代右衛門の名前は宝暦5年(1755)以前の大武鑑の松平阿波守の項目には見られない。また、安永3年(1774)の大武鑑には、桜木代右衛門ではなく、松平阿波守治昭の三男の蜂須賀恒之進の家臣として「桜木助右衛門」の名前が見られる(註16)。桜木代右衛門の活躍期は宝暦末期頃までであったのだろう。したがって、「松平阿波守様御家中 桜木代右衛門」の記載をもつ史料Cは、宝暦頃に成立したと推測される。

以上の推測から史料Cを宝暦期に成立したものと位置づけ、同史料に名前が掲載された他の大名各氏を特定していきたい。

【大名本人が師檀関係を結んでいる場合】

No.C-014の「近江守様」は、陸奥白川藩11万石松平(久松)家第2代当主の「松平定邦」(註17)と推測される。定邦(享保13年〔1728〕～寛政2年〔1790〕)は明和7年(1770)に43歳で家督を相続し

ている。従五位下・従四位下・河内守・近江守・越中守・木工頭などに叙されている。なお、定邦前後の当主の官職号を見ると、初代定賢は従五位下・従四位下・越中守に叙され、一方、第3代「松平定信」（「寛政の改革」の断行者）は従五位下・従四位下・贈正三位、上総介・越中守・侍従・左少将に叙されており、いずれも「近江守」の官職号は叙されていない。

No.C-461の「松平下総守」は伊勢桑名藩10万石松平（奥平）家第2代当主の「松平忠刻」（註18）と推測される。忠刻（享保2年〔1717〕～天明2年〔1782〕）は延享3年（1746）に家督を相続し、従四位下・下総守に叙されている。その後、官職については明和8年（1771）に「下総守」から「信濃守」に復している。

忠刻の家老として記載されたNo.C-462「生田図書」は、延享5年（1748）（註19）から天明4年（1784）（註20）までの大武鑑に、忠刻から忠敬の家臣としてその名前が見られる。なお、延享4年（1747）の大武鑑には生田図書ではなく、「生田要之助」（註21）の名前が見られ、一方、寛政3年（1791）（註22）の大武鑑には生田図書の名前は見られなくなるので、生田図書の登用は延享5年（1748）から始まり、寛政3年（1791）以前に辞しているであろう。

No.C-475の「内藤備後守」は日向延岡藩7万石内藤家初代当主の「内藤政樹」（註23）（元禄16年〔1703〕～明和3年〔1766〕）と推測される。

【大名の家臣が師檀関係を結んでいる場合】

No.C-400の「水戸播磨守」は常陸府中藩2万石松平（水戸）家第6代当主の「松平（水戸）頼濟」（註24）と推測される。頼濟（享保5年〔1720〕～天明4年〔1784〕）は寛保2年（1742）に家督を相続している。従四位下・侍従・播磨守に叙されている

No.C-454の事例は紀州徳川家の御殿に居する家臣と師檀関係を結んでいたことをうかがわせる。なお、当時の紀伊和歌山藩55万5千石徳川家当主は第7代の「徳川宗将」（註25）（享保5年〔1720〕～明和2

年〔1765〕）であった。

No.C-456の「松平大和守」は武蔵川越藩15万石松平（越前）家第初代当主の「松平朝矩」（註26）と推測される。朝矩（元文2年〔1738〕～明和5年〔1768〕）は寛延元年（1748）に家督を相続し、従四位下・大和守に叙されている。

No.C-486の「松平本田紀伊守」は駿河田中藩4万石本多家第2代当主の「本多正珍」（註27）か同家第3代当主の「本多正供」（註28）のいずれかであると推測される。正珍（宝永7年〔1710〕～天明6年〔1786〕）は享保10年（1725）に従五位下・紀伊守に叙せられ、同20年（1735）に家督を相続している。正供（延享3年〔1746〕～安永6年〔1777〕）は宝暦11年（1761）に従五位下・紀伊守に叙せられ、安永2年（1773）に家督を相続している。

No.C-088の事例は大名「増山備中守」の家老「都木（都筑）茂右衛門」が師檀関係を結んでいる場合である。この「増山備中守」は伊勢長嶋藩2万石増山家第6代当主の「増山正寧」と推測される。同家歴代当主のうち、「備中守」の官職号を有したのは増山正寧（註29）だけである。正寧（天明5年〔1785〕～天保13年〔1842〕）は、享和元年（1801）に家督を相続し、従五以下・備中守・河内守・弾正少輔などに叙されている。文政5年（1822）には若年寄に任じられ、天保10年（1839）、江戸城西の丸造営に際しては献金している。

一方、家老の「都木（都筑）茂右衛門」は、安永2年（1773）・安永3年（1774）・天明4年（1784）の大武鑑のなかに、増山家第4代当主正賛（対馬守）と第5代当主正賢（河内守）に仕えた重臣としてその名前が見られる（註30）が、宝暦13年（1763）や寛政3年（1791）の大武鑑のなかには重臣としてその名前が見られない（註31）。

さて、増山家第6代当主増山正寧の生存年月は、本稿でこれまで史料Cの成立期と推測してきた宝暦期以降である。したがって、前述の「増山備中守」の記載は正寧が「備中守」を叙された享和元年（1801）以

降で、なおかつ安永2年(1773)の時点で第4代当主正賛の重臣だった「都筑茂右衛門」が、まだ生存していた時期までの間ということになる。そうするとNo.C-088の記載は追記としか理解することができず、史料Cは長期にわたって使用されてきたことが推測される。

同様の事例はNo.C-278とNo.C-012である。いずれも大名の家臣が師檀関係を結んでいる場合である。No.C-278の「たなま様(田沼様)」の事例は、家臣「桜井新十郎」の居屋敷が「木挽町田沼様御屋敷」となっているので、文化元年(1804)に木挽町屋敷から駒込屋敷、さらに文政2年(1819)に駒込屋敷から大名小路屋敷へ移る以前で、なおかつ史料Cの成立期と想定される宝暦頃とすると、この時の当主は遠江相良藩5万7千石田沼家初代当主の「田沼意次」(註32)(享保4年〔1719〕～天明8年〔1788〕)と推測される。

一方、No.C-012の「たなま御敷こまごめ」の事例は、家臣「高木金じ郎」が住む相良藩の屋敷が文化元年(1804)に木挽町屋敷から駒込屋敷へ移った後のことであるので(註33)、この時の当主は、遠江相良藩5万7千石田沼家3代当主の「田沼意正」(註34)(宝暦9年〔1759〕～天保7年〔1836〕)と推測される。以上の点から、史料Cは、宝暦期から、最長で文化期頃までのかなり長年にわたって使い続けられてきた檀那帳であったことがわかる。

5-1-3. 史料Bの分析から

史料Cが宝暦期に成立したとすると、史料Aの成立時期は第3章と第4章の分析結果をふまえやはり享保期であることは確実で、表題の年号記載が示すとおり享保3戊戌年(1718)か享保13戊申年(1728)のどちらかである。また、史料Aと史料Bは近接した時期の檀那帳で、史料Aが史料Bより先に成立していたと考えられ、さらに、史料A・史料Bの成立時期と史料Cの成立時期との間に多少の開きが推測され、以上を合わせて考えると、史料Bは享保後期から宝暦期の間、

しかもどちらかということと享保後期頃に成立したと考えられる。

次に、史料Bの成立時期についてそこに記載された大名から考察を進めていきたい。史料Bに記載されたNo.B-385の事例は大名本人が師檀関係を結んでいる場合である。この「松平安房守」は、実は「松平阿波守」の誤記であると推測される。「安房(あわ)」と「阿波(あわ)」の同音の官職号を衆徒が間違えて檀那帳に記したものである。それをうかがわせるのは、No.B-386に「松平安房守」の家臣として記載された「桜木代右衛門」の存在である。

前述の通り、「桜木代右衛門」は宝暦13年(1763)の大武鑑のなかにその名前が見られる。同年の大武鑑には松平(蜂須賀)阿波守として「蜂須賀重喜」(註35)の名前が見られ、さらにその嫡男の蜂須賀千松丸の重臣として「桜木代右衛門」(註36)の名前が見える。したがって、No.B-386の「松平安房守」は実は「松平阿波守」で、すなわち阿波淡路徳嶋藩25万石蜂須賀家の当主と考えられるのである。

ところで、前節で、史料Bが享保後期から宝暦期の間、しかもどちらかということと享保後期頃に成立したことを推測したが、そうすると史料Bに記載された「松平安房守(阿波守)」は、阿波淡路徳嶋藩蜂須賀家第7代当主の「蜂須賀宗英」か同家第8代当主の「蜂須賀宗鎮」のいずれかであると考えられる。宗英(貞享元年〔1684〕～寛保3年〔1743〕)は享保20年(1735)に家督を相続し、従四位下・阿波守に叙されており、宗鎮(享保6年〔1721〕～安永9年〔1780〕)は元文4年(1739)に家督を相続し阿波守に叙されている。いずれにしても、同家では、宗英より先代の当主のなかに、阿波守を叙されたものは一人もいないので、史料Bは宗英が阿波守を叙された享保20年(1735)以降でしかありえない。それも、享保期の成立と推測される史料Aと史料Bとの近接した関係、及びそれらとは内容的に若干差違が見られ、宝暦期の成立と推測される史料Cとの関係から判断すると、史料Bはまさに享保20年(1735)かその直後頃の成立でないかと

考えられる。この頃であれば史料Bに登場する桜木代右衛門が宝暦13年（1763）の大武鑑に登場しても、生存状況としては考えられうることである。むしろ長期に渡って歴代当主に仕えてきた家臣だったからこそ宝暦13年（1763）の時点で、藩主嫡男の養育者に適していたのであろう。

5-1-4. 史料Fの分析から

史料Fは天保10年（1839）の成立であるので、当時の大武鑑を使って、同檀那帳に登場する大名を特定していきたい。

【大名本人が師檀関係を結んでいる場合】

No.F-469の「伊藤（伊東）播磨守」は備中岡田藩1万3百43石伊東家第8代当主の「伊東長寛」（註37）である。長寛（明和元年〔1764〕～嘉永3年〔1850〕）は安永7年に家督を相続し、従五位下・播磨守に叙されている。なお長寛の継室は播磨赤穂藩2万石森家第6代当主の「森忠興」の娘である。

No.F-554の「片桐石見守」は大和小泉藩1万1千100石片桐家第8代当主の「片桐貞信」（註38）である。貞信（享和2年〔1802〕～嘉永元年〔1848〕）は文政5年（1822）に家督を相続し、従五位下・石見守に叙されている。

No.F-556の「森信濃守」は播磨赤穂藩2万石森家第10代当主の「森忠徳」（註39）である。忠徳（文政元年〔1818〕～明治14年〔1881〕）は文政7年（1824）に家督を相続し、天保6年（1835）に従五位下・信濃守に叙された。

No.F-559の「本多豊前守」は駿河田中藩4万石本多家第6代当主の「本多正寛」（註40）である。正寛（文化5年〔1808〕～万延元年〔1860〕）は文政8年（1825）に従五位下・豊前守に叙せられ、文政12年（1829）に家督を相続している。

No.F-597の「松平和泉守」は三河西尾藩6万石松平（大給）家第3代当主の「松平乗寛」（註41）である。乗寛（安永6年〔1777〕～天保10年〔1839〕

11月11日）は寛政5年（1793）に家督を相続し、従五位下・左衛門佐・和泉守に叙され、さらに文政5年から老中を勤めている。なお、大給松平家の第3代当主の松平乗寛・第4代当主の松平乗全と宝泉坊との関係は、拙著『近世立山信仰の展開』（註42）を参照のこと。

No.F-604の「松平河内守」は豊後杵築藩3万2千石松平（能見）家第9代当主の「松平親良」（註43）である。親良（文化7年〔1810〕～明治24年〔1891〕）は文政8年（1825）に家督を相続し、従五位下・河内守に叙されている。なお親良の妻は三河西尾藩6万石松平（大給）家第4代当主の「松平乗全」の娘である。

No.F-474の「市ヶ谷尾州御屋敷 御表様」は尾張名古屋藩61万9千500石徳川家第11代当主の「徳川斉温」（註44）である。斉温（文政2年〔1819〕～天保10年〔1839〕）は文政10年（1827）に家督を相続している。宝泉坊照円は尾張名古屋藩の市ヶ谷上屋敷にも出入りしていた。

No.F-476の「御本丸御年寄山のい様」は江戸城本丸の大奥女中で、江戸幕府第12代将軍徳川家慶付の御年寄「山のい」（註45）である。同僚には著名な姉小路などがいた。「山のい」については、嘉永6年（1853）の史料Gによると、天保後期（天保13年～天保14年頃）に何らかの理由で江戸城本丸（第12代将軍徳川家慶付）の御年寄の職を辞したようで、なぜか尾張名古屋藩の市ヶ谷上屋敷に奥女中としてその名前が見られる。東京都江戸東京博物館学芸員の畑尚子氏が「大奥向惣絵図」（『東京市史稿』）と「長局側割」（井伊家文書〔彦根城博物館蔵〕）を合わせて製作した「弘化度本丸奥図」には、「山のい」の名前が見られないのも、そのためであろう（註46）。

No.F-436の「松浦様」は肥前平戸藩6万7千700石第10代当主の「松浦熙」（註47）である。熙（寛政3年〔1791〕～慶応3年〔1867〕）は享和3年（1803）に将軍家斉に謁し従五位下・肥前守に叙され、文化3年（1806）に家督を相続した。妻は「松平定信」の

娘である。

【大名の家臣が師檀関係を結んでいる場合】

No.F-480の事例は紀伊和歌山藩の赤坂御殿に居する家臣と師檀関係を結んでいたことをうかがわせる。なお当時の紀伊和歌山藩55万5千石徳川家当主は第11代の「徳川斉順」(註48)(享和元年〔1801〕～弘化3年〔1846〕)である。

No.F-519の「松平下総守」は武蔵忍藩10万石松平(奥平)家初代当主の「松平忠堯」(註49)である。忠堯(享和2年〔1802〕～元治元年〔1864〕)は文化13年(1816)に従五位下・上野介を叙され、翌年従四位下・民部大介、後の文政4年(1821)に桑名10万石の家督を相続し、民部大介を改め下総守に叙され、さらに文政6年(1823)には忍への得替を命じられた。なお、忠堯の母は伊勢桑名藩10万石松平家第3代当主の「松平忠啓」の娘「周姫(顯徳院)」である。

No.F-541の「阿州様」は阿波淡路徳島藩25万(7千9百)石蜂須賀家第12代当主の「松平(蜂須賀)斉昌」(註50)である。斉昌(寛政7年〔1795〕～安政6年〔1859〕)は文化10年(1813)に家督を相続し、従四位下・侍従兼阿波守に除されている。

5-2. 檀那場を支えた旗本の信徒

まず、各史料に記載されたおもな旗本の信徒の状況を見ておきたい。

「河野長十郎」(註51)(No.D-025・No.F-513・No.G-113)。居屋敷：下谷練塀小路。禄高：650石。役職：文久2年(1862)に二丸留守居。本国：伊予。先祖：父は二丸留守居。

「深谷左源太」(註52)(No.F-570「深谷長治良」〔下谷佐竹様裏門通〕・No.G-115「深屋釜五郎」)。居屋敷：湯島靈雲寺前。禄高：500石。役職：安政5年(1858)5月29日に小姓組入。本国：武蔵。

「深屋釜五郎」(註53)(No.G-115)。居屋敷：下谷相生町新屋敷、200坪。拝領屋敷：本所石原元御蔵屋

敷跡、100坪。右は細工所同心植月良造へ貸置。役職：安政2年(1855)小普請戸川支配。

「新見内膳」(註54)(No.G-127「新見内膳」〔小石川富坂新町金剛寺坂〕)。居屋敷：小日向金剛寺坂。禄高：300石。役職：安政に大番本多組、慶応2年(1866)4月18日に大番から飛騨郡代となる。慶応4年(1868)4月24日に御役御免。本国：三河。

「石丸源五郎」(註55)(No.G-199)。居屋敷：深川森下町伊予橋角。禄高：600石。役職：安政に書院番花房組。

「小宮山利助」(註56)(No.G-239「小宮山鏝助」〔小石川西富坂上御掃除組屋敷内〕)。居屋敷：土手四番町。禄高：400石。本国：甲斐。

「永井禄之助」(註57)(No.G-278「永井禄之助直毅」〔本郷御弓町〕)。禄高：2000石。本国：三河。養祖父は永井太之丞(使番)で本郷御弓町に同居、彼の死後、御使番を勤める。養父は永井兵次郎で、彼の死後、御書院番を勤める。嘉永元年(1848)に養父永井兵次郎から家督を相続される。実の父は永井肥前守若年寄。

「永井太之丞」(註58)(No.G-278「永井禄之助直毅」〔本郷御弓町〕)。居屋敷：本郷御弓町。禄高：2000石。役職：文久3年12月15日に書院番より使番、慶応2年(1866)12月29日に御役御免、勤仕並寄合。

「布施弥一郎」(註59)(No.F-511「布施弥一郎」〔本郷本町水道橋近辺〕、No.G-126「布施弥市郎」〔浅草堀田原三間市蔵様同居〕)。居(拝領)屋敷：牛込末寺町。居(拝領)屋敷：小石川三百坂。禄高：150俵。役職：安政(1855)小姓組高木組。

「鈴木宗斉」(註60)(No.F-568「鈴木宗鉄」〔築地門跡裏備前橋〕・No.G-169「鈴木宗斉」〔築地門跡裏備前橋前〕)。大道寺権次郎(表坊主)、居屋敷：築地鉄砲洲。禄高：300石。役職：安政に小姓組水野組。本国：山城。

「大沢主馬」(註61)(No.F-596「神明大沢様」〔愛宕下簗小路〕・No.G-122「大沢主馬」〔愛宕下神保小路〕)。居屋敷：愛宕下神保小路。禄高：856石。役職：

元治元年（1864）に和学所書物御用手伝。本国：美濃。先祖：祖父は大沢相模守・西丸留守居、父は大沢豊前守・小姓。

以上、各史料には上記の旗本が記載されているが、そのうち、河野・深谷・布施・大沢・鈴木らは天保期には宝泉坊と師檀関係を結んでいたことがわかる。また、永井・新見・石丸・小宮山らは嘉永期頃から師檀関係を結んでいたことがわかる。この他、渡辺円斎（両国元矢ノ倉）は天保期以前からの檀家だが、その素性は不明である。

5-3. 檀那場を支えた商人の信徒

史料A～史料C・史料F・史料Gの5冊の檀那帳をそれぞれ対象として、特に江戸御府内の信徒のうち何人が屋号をもった商人であるのかを調べた。その結果は次の通りである。

史料Aは164名中132名（約80.5%）、史料Bは300名中223名（約74.3%）、史料Cは431名中284名（約65.9%）、史料Fは218名中133名（約61%）、史料Gは367名中169名（約46%）であった。前章で史料A～史料Gの成立順を指摘したが、それとこの結果をあわせて考えると、宝泉坊の江戸御府内の檀那場では時代が進むに連れて商人身分の信徒が減少し、その他の武士身分の信徒などが増加していることがわかった。

次に、史料に記載された商人の信徒のうち素性のわかるものについて、特に史料Fを中心に見ていきたい。

【幕府御用達職人】

No.F-438「家木弥四郎」（註62）（浅草茅町）は幕府御用達職人の御造花師である。

No.F-497「岩井源兵衛」（註63）（麴町平河町3丁目）は幕府御用達職人の御具足師である。

【両替屋】

No.F-442「堺屋重兵衛」（註64）（両替屋〔上野領〕、下谷車坂町良右衛門地借、安政6年〔1859〕2月家持トナル。重兵衛、万延元年〔1860〕4月倅次郎吉相続）。

No.F-573「堺屋治兵衛」（註65）（両替屋〔上野領〕、

池ノ端仲町家持）。

No.F-581「伊勢屋彦兵衛」（註66）（両替屋〔18番組〕、南本所石原町善四郎地借）。

【春米問屋】

No.F-525「三河屋善助」（註67）（春米屋〔5番組〕、桶町2丁目）。宝泉坊の慶応2年（1866）の東都檀那帳では、No.043三河屋善助（小網町2丁目）は茶店。

【脇店八ヶ所組米屋】

No.F-565「遠州屋喜助」（註68）（脇店八ヶ所組米屋〔芝3組〕、芝田町8丁目家持）。宝泉坊の慶応2年（1866）の東都檀那帳では、No.207遠州屋喜助（芝田町9丁目）は米店。

【雑穀仲買】

No.F-581「伊勢屋彦兵衛」（註69）（雑穀仲買、南本所石原町家持）（脇店八ヶ所組米屋の花川戸組、南本所石原町）。

【茶問屋】

No.F-450「西村屋嘉兵衛」（註70）（茶問屋〔1番組〕、小網町2丁目家持、嘉永6年〔1853〕2月地面売払伊右衛門地借）。宝泉坊の慶応2年（1866）の東都檀那帳では、No.034西村嘉兵衛（小網町2丁目）は茶店。

【呉服問屋】

No.F-506「丸屋平助」（註71）（呉服問屋）。宝泉坊の慶応2年（1866）の東都檀那帳では、No.152丸屋平助（小日向水道町）は呉服店となっている。

【麻苧問屋】

No.F-455「網屋三十郎」（註72）（船具問屋〔10組〕と麻苧問屋〔10組〕、南茅場町）。

【製菓（売菓）問屋】

No.F-483「米屋八兵衛」（註73）（製菓〔売菓〕）。宝泉坊の慶応2年（1866）の東都檀那帳では、No.283米屋八兵衛（四谷伝馬町1丁目表通）はたわし店となっている。

No.F-573「堺屋治兵衛」（註74）（本町組菜種問屋、安政元年〔1854〕12月仮組より加入、池ノ端仲町家持）。

【水油仲買】

No.F-249・No.F-572「野田屋四郎兵衛」(註75)
(水油仲買〔10組〕、No.F-249江戸上野仲町・No.F-572池之端中町)。

No.F-450「西村屋嘉兵衛」(註76)(下り水油問屋、水油仲買、小網町2丁目家持、嘉永5年(1852)4月改名・加右衛門、同月転宅・深川一色町新助地借)。

【炭薪仲買】

No.F-582「伊勢屋善四郎」(註77)(炭薪仲買〔15番組〕、南本所石原町家主、安政3年〔1856〕11月休業)。

【板材木問屋・熊野問屋組合】

No.F-466「泉屋七郎兵衛」(註78)(板材木問屋熊野問屋組合、本八丁堀2丁目、深川吉永町喜兵衛地借)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.314和泉屋七郎兵衛(深川中木場吉永町)は材木店。

No.F-512「山本屋喜兵衛」(註79)(板材木問屋熊野問屋組合、神田佐久間町2丁目家持)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.316山本屋喜兵衛(深川木場)は材木店。

【瀬戸物問屋】

No.F-250・No.F-433「中沢屋藤兵衛」(註80)(瀬戸物問屋〔(10組)、霊岸島町長八地借、霊岸嶋一之橋角)。

No.F-470「長沢屋藤七」(註81)(瀬戸物問屋、長沢屋由松〔本船町勘左衛門地借、後見・藤右衛門、元治元年十月後見病死・直名前トナル〕、藤七〔慶応3年11月養子半十郎相続〕)。

【小間物問屋】

No.F-450「西村屋嘉兵衛」(註82)(小間物問屋〔丸合組〕)。

【船具問屋】

No.F-455「網屋三十郎」(註83)(船具問屋〔10組〕と麻苧問屋〔10組〕、南茅場町)。

その他、『大武鑑』や『諸問屋名前帳 細目』、『江戸買物独案内』などに掲載されていない商人で、宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳から、その

職業がわかるものは次ぎ通りである。

【質店】

No.F-561「三河屋藤四郎」(三田1丁目)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.214三河屋藤四郎は質店。

No.F-562「万屋権兵衛」(芝伊皿子台町)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.210万屋権兵衛は質店・かいば店。

【茶店】

No.F-503「甲州屋市右衛門」(高田馬場)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.153甲州屋市右衛門は煎じ茶となっている。

No.F-573「堺屋治兵衛」(池ノ端仲町家持)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.093堺屋次兵衛は茶屋店。

No.F-614「和泉屋清兵衛」(麻布8丁目)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.204和泉屋清兵衛(芝田町8丁目)は茶店。

【呉服店】

No.F-539「徳嶋屋平助」(霊岸島中橋四日市町)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.388徳嶋屋平助(霊岸島四日市中ノ橋)は呉服店。

【足袋店・紺屋店】

No.F-486「福田屋新兵衛」(四谷伝馬町)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.281福田屋新兵衛(四谷伝馬町1丁目)は足袋紺屋店。

No.F-492「伊勢屋三郎兵衛」(四谷伝馬町2丁目伊賀町入口角)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.284伊勢屋三郎兵衛は足袋店。

【材木店】

No.F-578「増田屋次郎兵衛」(両国米沢町3丁目)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.004増田屋次郎兵衛は材木店となっている。

【やすり鍛冶店】

No.F-467「中屋幸助」(京橋柳町)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.044中屋幸助(京橋柳町)は鋸(やすり)鍛冶。

No.F-524「中屋五郎兵衛」(南鍛冶町2丁目)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.041中屋五郎兵衛は鮫(やすり)鍛冶。

【職業不明の有力檀家】

No.F-528「藤田藤左衛門」(中橋かん菊の茶屋のうら)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.039藤田藤左衛門(中橋富樫町2丁目)は職業未掲載。

No.F-575「乗物屋与兵衛」(上野下広小路大門町)。宝泉坊の慶応2年(1866)の東都檀那帳では、No.094乗物屋与兵衛は職業未掲載。

5-4. 本章のまとめ(各史料に記載された人物から)

史料Aは享保3年(1718)か享保13年(1728)のいずれかの年に成立したことが確定しているが、成立年代不明の史料B・史料Cについては、それらに記載された何人かの大名の官職号や重臣の名前などを、『武鑑』などの史料と照合し特定することで、成立年代や使用時期などを推定することができた。

史料Bについては、阿波淡路徳嶋藩第7代当主・蜂須賀宗英の「阿波守」の官職号(享保20年以降)と同家重臣の「桜木代右衛門」(宝暦13年の『武鑑』に名前が見られる)の記載などから、享保20年(1735)から宝暦13年(1763)頃までの間で、おそらく享保20年(1735)からほとんど時を経ずして成立したと推測される。

史料Cについては、備中松山藩第2代当主・板倉勝武の「美濃守」の官職号(宝暦元年～明和5年)や伊勢桑名藩第2代当主・松平忠刻の「下総守」の官職号(延享3年～明和8年)、伊勢長嶋藩第6代当主・増山正寧の「備中守」の官職号(享和元年～)、陸奥白川藩第2代当主・松平定邦の「近江守」の官職号、さらに、伊勢桑名藩松平家の重臣「生田図書」(延享5年から天明4年までの『武鑑』に名前が見られる)、伊勢長嶋藩増山家の重臣「都木(都筑)茂右衛門」(安永2年から天明4年までの『武鑑』に名前が見られる)の記載などから、宝暦元年(1751)から明和5年

(1768)の間で、おそらく宝暦13年(1763)頃に成立し、さらにそれは享和期頃まで使用され続けたと推測される。

さて、各史料に記載されている大名についてであるが、宝泉坊の檀那帳に江戸の檀那場で大名との師檀関係が見られるようになるのは、史料Bの享保後期から宝暦後期の間で、諸史料を管見する限り、阿波淡路徳嶋藩第7代当主「蜂須賀宗英」が最初である。

史料Cの宝暦後期以降になると、大名本人としては、陸奥白川藩第2代当主「松平定邦」や伊勢桑名藩第2代当主「松平忠刻」、日向延岡藩初代当主「内藤政樹」などが見られ、家臣が師檀関係を結ぶ者としては、紀州和歌山藩第7代当主「徳川宗将」や備中松山藩第2代当主「板倉勝武」、常陸府中藩第6代当主「松平頼濟」、武蔵川越藩初代当主「松平朝矩」、駿河田中藩第2代当主「本多正珍」もしくは第3代当主の「本多正供」、伊勢長嶋藩第6代当主「増山正寧」、遠江相良藩初代当主「田沼意次」あるいは第3代当主「田沼意正」らが見られる。

史料Fの天保10年(1839)には、大名本人としては、尾張名古屋藩第11代当主「徳川斉温」や備中岡田藩第8代当主「伊東長寛」、大和小泉藩第8代当主「片桐貞信」、播磨赤穂藩第10代当主「森忠徳」、駿河田中藩第6代当主「本多正寛」、三河西尾藩第3代当主「松平乗寛」・豊後杵築藩第9代当主「松平親良」、肥前平戸藩第10代当主「松浦熙」、さらに江戸幕府第12代将軍徳川家慶付の御年寄「山のい」(江戸城本丸の大奥御年寄)などが見られる。家臣が師檀関係を結ぶ者としては、紀州和歌山藩第11代当主「徳川斉順」や武蔵忍藩初代当主「松平忠堯」、阿波淡路徳嶋藩第12代当主「蜂須賀齊昌」などが見られる。

こうしてみると、阿波淡路徳嶋藩蜂須賀家や伊勢桑名藩松平家(後に武蔵忍藩松平家)、駿河田中藩本多家などが宝泉坊と師檀関係を結んだ大名の先駆けだったようである。

また、江戸時代後期の宝泉坊にとってもっとも有力な外護者であった三河西尾藩松平(大給)家は、文化

期から天保期の間、特に松平乗寛の時代に宝泉坊と師檀関係を持つようになったものと推測される。

ここで注目すべきは、上記の大名のうちの何名かは親戚関係をもっている点である。幾つかあげると、陸奥白川藩第2代当主「松平定邦」の婿養子である第3代当主「松平定信」の娘が肥前平戸藩10代当主「松浦熙」に嫁いでいる。備中岡田藩第8代当主「伊東長寛」の継室は播磨赤穂藩第6代当主「森忠興」の娘である。豊後杵築藩第9代当主「松平親良」の妻は三河西尾藩第4代当主「松平乗全」の娘である。このように、大名間の親戚関係が立山信仰を伝播させた可能性も指摘できよう。

次に各史料に記載されている旗本の信徒についてであるが、そのうち「河野氏」・「深谷氏」・「布施氏」・「大沢氏」・「鈴木氏」らは1000石以下の旗本で、天保期には宝泉坊と師檀関係を結んでいたことがわかる。また、「永井氏」・「新見氏」・「石丸氏」・「小宮山」氏らは嘉永期頃から宝泉坊と師檀関係を結んでいたことがわかる。この他、「渡辺円斎」は天保期以前からの檀家だが、その素性は不明である。なお、彼らのなかで2000石以上の旗本は「永井禄之助」だけである。

商人の信徒については、幕府御用達商人の「家木弥四郎」(御造花師)や「岩井源兵衛」(御具足師)をはじめ、問屋の種類は両替屋や米問屋、呉服問屋など様々である。

信徒のうち特筆すべきは水油仲買の「野田屋四郎兵衛」である。享保期から宝暦期の史料A～史料C、さらに文化期から天保期の史料D・史料Fにも見られ、檀家として代々続いており、商人の信徒なかでは中核的存在といえる。享保期から宝暦期に宝泉坊を支えた信徒は長者町の「糠屋清兵衛」、浅草聖天町の「油屋市郎兵衛」、富士前の「伊豆屋市兵衛」、新吉原京町の「鈴木屋た左衛門」、新吉原仲之町の「伊勢屋長右衛門」、「堺屋喜右衛門」、「伊勢屋久兵衛」、堺町の「結城屋善兵衛」、本所菊川町の「山崎五郎助」、大伝馬町2丁目の「板屋与兵衛」、小伝馬町3丁目の「あかがね屋半兵衛」、堺町の「仲屋半七」、かんさの河岸の「清水屋

三四郎)、亀島町の「松屋七郎兵衛」、「石橋屋喜兵衛」、木挽町4丁目の「紀伊国屋又七」、鉄砲洲船松町の「三河屋伊左衛門」、神田四間町の「ふじしろ屋四郎兵衛」、「丸屋久兵衛」、湯島天神三組町の「三河屋勘兵衛」、牛込の「万屋仁兵衛」、牛込七間町の「万屋権十郎」、小石川大塚町の「三河屋源兵衛」、伝通院前の「駿河屋善兵衛」、「川越屋勘右衛門」、高田馬場下六八幡戸塚村の「久四郎」、四谷堀町3丁目の「松葉屋半兵衛」、四谷鳴子町の「海老屋茂左衛門」、「加嶋屋半兵衛」、「田中権左衛門」、麻布龍土町の「相模屋仁兵衛」、御筆筈町の「丸屋平助」(呉服問屋)、以上42名である。宝暦期から文化期にかけては船具問屋と芋麻問屋を営んだ「網屋三重郎」や製菓問屋の「米屋八兵衛」などが檀那場の中核的な信徒として宝泉坊を支えた。

天保期に入ると、宝暦期から既に信徒だった瀬戸物問屋の「中沢屋藤兵衛」をはじめ、両替屋の「堺屋重兵衛」、「堺屋治兵衛」、瀬戸物問屋の「長沢屋由松」、足袋紺屋店の「福田屋新兵衛」などが中核となっていたようである。また新吉原については、享保期から宝暦期は京町の「鈴木屋た左衛門」、仲之町の「伊勢屋長右衛門」、「堺屋喜右衛門」、「伊勢屋久兵衛」、堺町の「結城屋善兵衛」らが中核であった。それが宝暦期頃からは会所四郎兵衛や葛屋太兵衛、尾張屋五兵衛、升屋七右衛門らが中核となっており顔ぶれが変化している。

ところで本章では、宝泉坊の江戸御府内の檀那場では時代が進むに連れて商人身分の信徒が減少し、その他の武士身分の信徒などが増加していることを指摘した。すなわち、屋号を所持する商人は、享保期の史料Aでは全信徒数の約80.5%であったが、嘉永6年(1853)の史料Gでは全信徒数の約46%であり、半数を下まわっている。

6. 宝泉坊衆徒照円

6-1. 照円の経歴

宝泉坊衆徒照円の経歴は、明治2年の「旧記 芦峯寺村宅蔵控」(註84)と「宝泉坊系統図 佐伯幸穂」(註85)の二冊の芦峯寺文書に詳しい。ただしこの二冊には、当主の歴代数や家督相続年など幾分異なる部分も見られる。そこでこれ以外の宝泉坊の家系譜に関わる古文書史料も援用し、各内容を吟味しながら、以下照円の経歴を検討してみた。

照円は、安永4年(1775)、芦峯寺宿坊家の佐伯武平覚照の次男忠永(第39代)として生まれた。幼名は亀丸であった。享和元年(1801)の春、27歳(数え年齢)で宝泉坊法円のもとへ養子に入った。照円が養子に入った直後の文化元年(1804)7月17日、法円が亡くなったので、照円は宝泉坊の家督を継いで第45代当主(註86)となり、文化2年(1805)から天保11年(1840)まで関東に配札にでかけるようになった。江戸の諸大名も帰依し、信施も多数集まった。天保13年(1842)2月29日に68歳で亡くなった(註87)。

照円の夫人は宝伝坊第36代快順の三女の未(すい)であった。16歳で宝泉坊照円に嫁ぎ、天保3年(1832)4月8日に40歳で亡くなった。照円と未(すい)の間には、実子として仙之助・只次郎・こけん・円龍の4名の男子がいたが(註88)、詳細は不明である。ただし史料によると、長男として沢円なる人物も存在したが、文政8年(1825)11月13日、享年15歳で亡くなった。この沢円は前掲の仙之助と同一人物の可能性はある。沢円が亡くなったあと、照円は末っ子の円龍に家督を継がせようとしたが、円龍は何か問題を抱えていたようで、芦峯寺一山の若僧組から除外され(註89)、宝泉坊の家督を継ぐことができなかった。

照円は妻の未が亡くなったのち、芦峯寺玉仙坊出身(父は第47代義宜)の菊と再婚した(註90)。菊は文化4年(1807)8月4日に誕生しており、天保4年(1833)に27歳で宝泉坊照円に嫁ぎ、明治14年

(1881)6月1日に亡くなった(註91)。照円と菊の間には、天保4年(1833)12月10日に長女宅(おたく)(照円が59歳の時・数え年齢)が誕生し、次いで天保7年(1836)8月18日に次女照(おてる)が誕生した。照は嘉永6年(1853)、18歳(数え年齢)の時に芦峯寺宮之坊良巖(宮之坊第45代本親)のもとへ嫁いでいる。後に宅蔵の家名を預かる。

天保12年(1841)、照円は、福泉坊澄音の次男で15歳(数え年齢)の少貳すなわちのちの泰音(少貳→大貳→泰音→智憲→左内、と改名)を養子に迎えた(註92)。当時泰音は15歳であった。照円が天保13年(1842)2月29日に68歳で亡くなったので(註93)、その家督を継いで宝泉坊第46代当主(註94)となり、廻檀配札を行うようになった。のちに泰音は照円の長女宅と結婚した(註95)。

照円の実弟である茂太夫(佐伯武平覚照の三男)は、天保8年(1837)に、信州佐久郡春日新町大日堂で廻檀配札中に75歳で病没している。

6-2. 照円に関する石造物

芦峯寺の村内には、照円に関する石造物が幾つか残っている。以下、それらを見ておきたい。

①閻魔堂参道脇の角柱

刻文に「求菩提下化衆生 宝泉坊照円立 天保十三寅年八月 石工善名村甚蔵」と記されている。照円の没年月日について「旧記 芦峯寺村宅蔵扣 明治二巳歳六月吉祥日」や「由緒書上帳 控 立山元東神職 明治六癸酉年一月」では天保13年(1842)2月29日とされているが、一方、照円の墓石である石造物B-180笠塔婆「金剛界大日(坐)」(『立山中宮寺跡石造物分布調査報告書』所収、85頁、富山県[立山博物館]、1993年3月)では、天保13寅年(1842)2月16日とされている。いずれにしても、天保13年(1842)2月に死去したとするので、同年8月の照円自身による建立は不自然である。照円の跡継ぎの泰音

が、父の威徳を称えて建てたのであろうか。

②富山県〔立山博物館〕まんだら遊苑の入口誘導路付近に建つ地藏菩薩立像

刻文に「地藏菩薩の種子カ（正面上段） 宝泉坊照圓（正面右側） 擬滅罪生（以下摩耗）（書面左側）」と記されている。

③三河西尾藩6万石松平（大給）家第4代当主の「松平乗全（松平和泉守）」が「宝泉坊第45代照円」に寄進した燈籠。

刻文に「奉造営守護尊 松平和泉守 擬御武運長久 御子孫繁昌 護持宝泉坊 天保十一年十一月十一日 現住照円七十歳」と見られる。松平乗全（註96）が、彼の父の松平乗寛（註97）が天保10年（1839）11月

11日に亡くなっているの、それに対して1周忌供養の意味、あるいは松平乗全が天保11年（1840）正月18日に家督を相続しているの、それに対する記念的な意味などで寄進したものであろう。また、照円の古稀（70歳）の祝いの意味も込められているようである。ただし前述の通り、照円の没年月日について「旧記 芦峯寺村宅蔵扣 明治二巳歳六月吉祥日」や「由緒書上帳 控 立山元東神職 明治六癸酉年一月」では天保13年（1842）2月29日とされている。そうすると、「天保十一年十一月十一日 現住照円七十歳」の刻文の内容と異なることになる。照円の没年と実際の年齢については、今後まだ検討の余地がある。

7. 天保後期～弘化期における江戸の檀那場での収益

宝泉坊が江戸の檀那場での廻檀配札活動で得た収益については、かつて、同坊の元治2年（1865）の江戸廻檀日記帳から検討したことがある。同帳の巻末には、諸祈祷による布施収入や品々の頒布による収入が集計されている。これによると、廻檀料・別祈祷料として、件数が66軒で27両1分1朱412文を、日月茶牌料として、14両3分3朱を、血盆経料として、頒布件数が50件で6両2分2朱403文を、経帷子料として頒布件数123件に対し179枚の頒布で65両1分を、諸大名（松平和泉守・松平安芸守・松平讃岐守他）や新吉原関係者、一般の信徒からの奉加として626両2分2朱399文と白銀1枚及び衣3枚を、すなわち総額740両3分1214文と白銀1枚及び衣3枚を記している。さらに、これ以外に初穂料や反魂丹料もはいるのであるから、江戸での廻檀配札活動による宝泉坊の収入がいかに多額であったことがわかる。

ただし、宝泉坊の元治2年（1865）の勸進活動は、その目的は明らかではないが、通常は行わない諸大名家への奉加が多く見られ、その金額が収益金の大半を占めており、その年だけは例年とは異なった特別な勸進活動を行っていたともとれる。

これとは別に、宝泉坊の明治元年（1868）の江戸廻檀日記帳の巻末の覚書によると、同坊は明治元年には初穂料を含まない収益として64両を芦峯寺に持ち帰ったことが確認でき、幕末期には、これぐらいの規模が同坊の廻檀配札活動による本来的な収益であると考えられる。

以上、幕末期頃の収益を見てきたが、宝泉坊には、同坊衆徒の泰音が養父照円の跡を継いで間もない天保13（1842）年から弘化4年（1847）にかけて、各年ごとに江戸の檀那場を対象とした以下の①～⑤の初穂集高控帳が残されており、それによって、当時の宝泉坊の収益の一部をうかがうことができる。

- ①『御初穂上り高控 宝泉坊泰音 天保十三壬寅年五月廿六日出立』（芦峯寺宝泉坊文書）。
- ②『御初穂之（以下欠損）控 天保十四癸卯年二月廿五日出立』（芦峯寺宝泉坊文書）。
- ③『御初穂受納帳 宝泉坊泰音 天保十五甲辰年四月』（芦峯寺宝泉坊文書）。
- ④『御初穂集高控 宝泉坊泰音 弘化二乙巳如月』（芦峯寺宝泉坊文書）。
- ⑤『御初穂歩金之覚 宝泉坊 弘化四丁未年無三月十

日』(芦峯寺宝泉坊文書)。

これらの帳面の内容は、泰音の廻檀配札活動によるものだが、しかし、ある意味では、時期的に照円から引き継がれたばかりであり、照円が長年培ってきたものを示しているともとれよう。

まず、帳面には具体的にどのようなかたちで記載されているのかを、上記5冊のうち、天保13年(1842)の『御初穂上り高控』を一例として見ていきたい。

【表紙】

天保十三壬寅年五月廿六日出立

御初穂上り高控

宝泉坊泰音

【本文】

一、金五百疋	松平和泉守様
一、金貳百疋	同、おの婦様
一、金五拾疋	同、松し満様
一、金百疋	松平河内守
一、金五拾疋 又五十疋	同
一、金五拾疋	森信濃守様
一、金壹朱	伊藤播磨様
一、金百疋	河野長十郎様
一、金壹朱	片桐石見守様
一、金壹朱	深谷長次郎様
一、金百疋	大沢主馬様
一、金五拾疋	野田屋四良兵衛
一、金百疋	中沢屋藤兵衛
一、壹銅三十疋	同
一、金五拾疋	堺屋重兵衛
一、金百疋	大沢主馬様 白帷子・血脈 ・初穂
一、金壹朱	堺屋九兵衛
一、金壹朱	同去年分
一、金壹朱	堺屋重兵衛去年分
一、金壹朱 又壹朱	乗物屋与兵衛
一、金貳百五十疋	吉原中世話人新助

一、金壹朱	虎屋徳右衛門
一、金壹朱	平野定兵衛様
一、金五十疋	布施弥一郎様
一、金壹朱	鈴木宗鉄様
一、金壹朱	伊勢屋与八
一、金五拾疋	長沢屋藤七
一、金壹朱	松浦持誓様
一、金五十疋	伊勢屋彦兵衛
一、金百疋	渡辺様
一、錢拾口、 ノ 七百四十八文	所々御初穂口也。
ノ 、金五兩貳歩壹朱ト錢拾四貫七百四拾八文。	
為金貳兩壹朱ト三百十貳文	
合 ノ 、金七兩貳歩貳朱ト、又壹分也、三百十貳文。右者江戸旦方御初穂御上り高。	
一、金貳兩三步貳朱ト四貫四百文	田舎旦方口々御初穂上り高。
為金貳歩貳朱ト廿四文	
惣合 ノ 、金拾壹兩貳朱ト、又壹分也、錢三百三十六文。右者江戸田舎共惣御初穂上り高。	
一、金壹兩貳歩	御経帷子之代六枚。
一、金壹歩	同壹枚之代 小阿ミ町
一、金壹歩	同壹枚之代 萬屋権兵衛
一、金貳兩 是者昨年分	同八枚之代 松浦持誓様
又合 ノ 金拾五兩貳朱ト又壹方也、三百三十六文	
内二月十一日	
金貳朱也。	梨子之代渡
三月廿五日	
金貳分貳朱	満助江戸出立之節渡。
金三分也、又壹分也	泰音房様江戸御出立之節渡。
金壹兩也	泰音様江戸御出立之節。別
段用意二渡。	
三百三十六文	羽錢之分御用人二渡。
引 ノ 、金拾貳兩貳分貳朱也。	
此分五月廿五日出、富山飛脚二差出申候。着之節御改御受取可被下候。	
一、御経帷子貳枚	浅草田原町尾張屋吉右衛門。
此分卯年二取戻し申候。	

一、同 壺枚 新吉原新助。
一、同 壺枚 堺屋重兵衛取次之分。
メ四枚、此分未タ代料参り不申候。此分卯年受取申候。
右之通御座候。以上。

上記の史料によると、宝泉坊泰音は江戸およびその近郊の信徒たちのうち、大名や幕臣を含む一部の有力な信徒たちから、初穂料として総額金12両2分2朱を得ており、それを富山飛脚を使って持ち帰ったことがわかる。

この帳面に登場する人物のうち素性が確認できる者をあげておきたい。

【大名及びその関係者】

「松平和泉守」（註98）（三河西尾藩6万石松平（大給）家第4代当主の松平乗全）。

「松平河内守」（註99）（豊後杵築藩3万2千石松平（能見）家第9代当主の松平親）。

「森信濃守」（註100）（播磨赤穂藩2万石森家第10代当主の森忠徳）。

「伊藤播磨守」（註101）（備中岡田藩1万3百43石伊東家第8代当主の伊東長寛）。

「片桐石見守」（註102）（大和小泉藩1万1千100石片桐家第8代当主の片桐貞信）。

「松浦持誓（寿信尼）」（註103）（肥前平戸藩6万7千700石第10代当主の松浦熙の近親者）。

【旗本】

「河野長十郎」（註104）（居屋敷：下谷練堀小路。禄高：650石。役職：文久2年に二丸留守居。本国：伊予。先祖：父は二丸留守居）。

「深谷長次郎」（註105）（深谷左源太の近親者か。深谷左源太については居屋敷：湯島霊雲寺前。禄高：500石。役職：安政5年5月29日に小姓組入。本国：武蔵）。

「大沢主馬」（註106）（居屋敷：愛宕下神保小路。禄高：856石。役職：元治元年に和学所書物御用手伝。本国：美濃。先祖：祖父は大沢相模守・西丸留守居、

父は大沢豊前守・小姓）。

「平野定兵衛」（尾張名古屋藩士。尾張名古屋藩の江戸大久保外山の下屋敷に居住している〔天保10年の宝泉坊照円の檀那帳No.F-479〕）。

「布施弥一郎」（註107）（No.F-511「布施弥一郎」〔本郷本町水道橋近辺〕、No.G-126「布施弥市郎」〔浅草堀田原三間市蔵様同居〕。居屋敷：牛込末寺町。居屋敷：小石川三百坂。禄高：150俵。役職：安政〔1855〕小姓組高木組。史料によって住所が異なり、同一人物か疑問も残る）。

「鈴木宗鉄」（註108）（No.F568「鈴木宗鉄」、No.G-169「鈴木宗斎」。鈴木宗斎は大道寺権次郎〔表坊主〕のことである。居屋敷：築地鉄砲洲。禄高：300石。役職：安政に小姓組水野組。本国：山城）。

【商人】

「野田屋四郎兵衛」（註109）（水油仲買〔10組〕）。

「中沢屋藤兵衛」（註110）（瀬戸物問屋〔10組〕）。

「堺屋九兵衛」（芦峯寺宝泉坊の檀那帳や他の史料などには見られず、住所が確認できないので、推定の域を出ないが、幕府御用達商人で御香具所の堺屋久兵衛〔芝口露月町〕の可能性もある）。

「堺屋重兵衛」（註111）（両替屋〔上野領〕）。

「伊勢屋与八」（註112）（地廻米穀問屋〔三番組之内附組、近郷陸附問屋〕か。三拾間堀8丁目。史料Dでは「芝口1丁目」の住所であり、別人の可能性もある。なお、宝泉坊の慶応2年〔1866〕の東都檀那帳に「伊勢屋与八」〔愛宕下秋田様御屋敷内〕として記載され、秋田安房守〔陸奥三春藩〕の商人であるとしている）。

「長沢屋藤七」（註113）（瀬戸物問屋。長沢屋由松：本船町勘左衛門地借、後見・藤右衛門、元治元年〔1864〕十月後見病死・直名前トナル、藤七。慶応3年〔1867〕11月養子半十郎相続）。

「伊勢屋彦兵衛」（註114）（両替屋〔18番組〕、雑穀仲買〔脇店八ヶ所組米屋の花川戸組〕）。

「万屋権兵衛」（宝泉坊の慶応2年〔1866〕の東都檀那帳では、No.210万屋権兵衛〔芝伊皿子台町〕は質

店・かいば店となっている)。

この他、新吉原などがあげられる。

さて、第6表は、上記5冊の帳面の内容を解説・整理し、一覧できるように示したものである。内容の詳細は表を参照していただくことにし、以下、表から初穂の実質的な獲得金額だけをあげておくと、天保14年(1843)の『御初穂之(以下欠損)控』では金17

兩2朱240文、天保15年(1844)の『御初穂受納帳』では金27兩、弘化2年(1845)の『御初穂集高控』では金18兩2朱84文、弘化4年(1847)の『御初穂歩金之覚』では金19兩といった金額を獲得している。このように、あくまでも一部の有力信徒からだけの、なおかつ初穂料だけの集計であるが、概ね18兩前後の金額のようである。

8. 本稿の研究成果と今後の課題

以上、芦崎寺宝泉坊の檀那帳など、複数の史料を分析し、まず成立時期が不明だった3冊の檀那帳についてはそれぞれの成立時期を推察し、次にこれら一連の檀那帳から宝泉坊の享保期から嘉永期にかけての江戸の檀那場の規模や御府内における信徒の地域的分布状況、信徒総数に対する屋号を持つ商人身分の信徒数とその他の身分の信徒数との割合などを検討した(第7表)。

その結果、享保期から嘉永期にかけては、いずれの時期も、江戸御府内の各地域のうち浅草・日本橋・京橋に比較的多くの信徒が分布していることがわかった。これについては、享保期に屋号を所持する商人が信徒総数の約80.5%を占めており、だからこそ、江戸の間屋商業の中心地である日本橋や御用達商人の拝領地がならぶ京橋に信徒が多く分布していたことで説明がつく。しかし、それ以上に浅草にはいずれの時期も一番多く信徒が分布していた。そしてその中核となっていたのは新吉原関係の信徒たちであった。娯尊信仰を基盤にもち、血盆経信仰や布橋大灌頂など女人救済信仰としての性格を前面に打ち出した立山信仰と、女性の苦界である新吉原との相性の良さが互いに惹きつけあうこととなり、同地に立山信仰がうまく根付いたのであろう。これらの3地域が他所に先駆けて江戸の檀那場の中核になったと考えられる。これを中核としながら芝や深川など、次第に他地域にも拡大していった。

宝泉坊にとっては早くから江戸の檀那場の中核であった新吉原だが、おそらく文政期に入った頃に、衆徒が

直接新吉原に出入りし本人が茶屋を個別に回って初穂を徴収する形態をとっていたのに対して、新たに新吉原のなかに立山講の組織が設けられ、世話人をたてて初穂の徴収を委託する形態に切り替わったものと考えられる。

享保期の信徒たちの身分を見ていくと、屋号をもつ商人が全信徒数の約80.5%を占めていたが、その後、享保後期から宝暦後期のあいだで諸大名やその家臣などと師檀関係を結ぶ事例が増えている。史料を管見する限り、享保後期の阿波淡路徳嶋藩第7代当主「蜂須賀宗英」がその最初であり、後の宝暦後期以降になると、大名本人が師檀関係を結ぶ者としては、陸奥白川藩第2代当主「松平定邦」や伊勢桑名藩第2代当主「松平忠刻」、日向延岡藩初代当主「内藤政樹」などが見られ、家臣が師檀関係を結ぶ者としては、紀州和歌山藩第7代当主「徳川宗将」や備中松山藩第2代当主「板倉勝武」、常陸府中藩第6代当主「松平頼濟」、武蔵川越藩初代当主「松平朝矩」、駿河田中藩第2代当主「本多正珍」もしくは第3代当主の「本多正供」、伊勢長嶋藩第6代当主「増山正察」、遠江相良藩初代当主「田沼意次」あるいは第3代当主「田沼意正」らが見られる。この頃から宝泉坊衆徒は諸大名をも含む武士身分の人々に対して積極的な勧進布教活動を展開し、旗本屋敷や諸藩の藩邸にも出入りするようになり、旗本や藩士、時には藩主本人とさえも師檀関係を結ぶことに成功したようである。

そうした宝泉坊歴代の江戸の上級身分者に対する意

欲的な勧進布教活動は、文化初期から天保後期に活躍した同坊衆徒の照円によってさらに拍車がかかった。照円は江戸の檀那場での旗本屋敷や諸藩邸巡りで築いた旗本や諸大名たちとの師檀関係に止まらず、江戸城内部にまで立山信仰を広めようとしていた。そしてこの頃が商人の信徒よりも武士の信徒が多くなるといった点で檀那場の大きな転換期であった。対象信徒の身分が商人主体から武士主体となっていく。ちなみに具体的にみていくと、屋号を所持する商人の信徒数は、享保期の檀那帳では信徒総数の約80.5%であったが、嘉永6年(1853)の檀那帳では、信徒総数の約46%となり、半数を下まわっている。こうした檀那場の信徒の身分的な推移状況のもと、この時期、三河国西尾藩第3代当主「松平乗寛」などの幕閣大名や江戸幕府第12代将軍徳川家慶付け御年寄山のい(江戸城本丸大奥老女)、徳川御三家のうち尾張・紀州徳川家なども師檀関係を結ぶことに成功した。なお、諸大名のあいだでは、大名家間の親戚関係から立山信仰が広まっていく場合もあったことが推測される。

さてこうした状況は、その後、立山信仰が江戸城内部にまで広まる契機となった。すなわち、立山信仰の存在が、江戸幕府第12代将軍徳川家慶から江戸幕府第15代将軍徳川慶喜までの歴代将軍や、その直下の幕閣大名、大奥老女など、最上級の身分の人々にまで認識されていたようである。

一方、早くから開かれていた新吉原の檀那場に対しては、照円は前述のとおり新たに立山講組織を構築したようである。ただし、新吉原は衆徒が勧進布教活動を展開していく際の中核になっていたとはいうものの、意外にもそこから徴収された初穂料はそれほど多額というわけでもなかった。利益は少ないが、その「場」としての安定性に意味があった。

宝泉坊は文化期以前から、御具足師の「岩井源兵衛」御造花師の「家木弥四郎」など、幕府御用達の商人とも師檀関係を結んでいたが、問屋や仲買を営む町人・商人との師檀関係の構築にも励んでいたようである。

ところで、照円が亡くなって間もなくの頃、すなわ

ち、照円の息子の泰音による江戸時代天保期から弘化期の江戸の檀那場からの勧進金額を見ていくと、江戸の檀那場におけるあくまでも一部の有力信徒からだけの、なおかつ初穂料だけの集計であるが、概ね18両前後の金額のようであり、それほど多額とはいえない。しかし、この泰音は幕末期になると毎年百両を超える膨大な金額を得るようになり、毎年、加賀藩寺社奉行に80両から100両を預け入れている。信徒の身分の上級化や多額な勧進金額などの面から、幕末の泰音の時代に立山信仰の世界が頂点を極めたと位置づけると、照円はその直前までに、江戸の檀那場での勧進布教活動のあらゆる基盤を確立させており、宝泉坊にとっては最も功労者と言うべき人物である。

さて、以下は今後の課題である。

今回、宝泉坊の檀那帳などの史料を題材とした一連の分析で、同坊が江戸で形成してきた檀那場の枠組みをある程度指摘することができた。今後この結果を基盤としながら、さらに宝泉坊衆徒の生々しい活動記録である廻檀日記帳などの史料を詳細に分析し、そのなかから、江戸の様々な身分の人々にとっての「立山信仰」とはいったいどのような内容で、そしてそれがどのような意味や価値をもつものであったのかを検討していきたい。江戸の人々のあいだでは、芦峯寺衆徒によって実際にどのような意識・目的でどのような勧進布教活動が行われていたのか、江戸の人々は立山信仰に具体的には何を願い、期待していたのか、まだまだ筆者の疑問は尽きない。

この課題とは別に、芦峯寺宿坊家の享保期から天保期にかけての江戸の檀那場における檀家の身分の極端な上級化が、加賀藩をはじめ、芦峯寺のライバルともいえる岩峯寺などに何らかの意識をもたらし、例えば加賀藩は、芦峯寺と岩峯寺の立山支配におけるバランスを考えた際に、それを好んだのかあるいは嫌ったのか、それともどうでもよかったのか、一方、岩峯寺との場合で言えば、芦峯寺と岩峯寺間の争論などに何らかの影響を及ぼしていたのか否かといった問題についても検討を進めていきたい。

註

- 註1) 福江充『立山信仰と立山曼荼羅－芦峯寺衆徒の勸進活動－』(岩田書院、1998年4月)。福江充『近世立山信仰の展開－加賀藩芦峯寺衆徒の檀那場形成と配札－』(岩田書院、2002年5月)。福江充「江戸城をめぐる立山信仰と立山曼荼羅－「宝泉坊本」と「吉祥坊本」の成立背景－」(真鍋俊照編『仏教美術と歴史文化』所収、511頁～530頁、法蔵館、2005年10月)。
- 註2) 福江充『立山信仰と立山曼荼羅』所収、213頁～335頁)。福江充『近世立山信仰の展開』所収、29頁～70頁、271頁～378頁)。
- 註3) 福江充『近世立山信仰の展開』所収、247頁～270頁)。
- 註4) 木版立山登山案内図「越中国立山禅定並略御縁起名所附図」(享保7年)。縦56.5cm×横40.7cm(富山県立図書館所蔵)。「享保七年五月吉日 江戸堺町 施主中屋半七郎」の文言が画面左下角に見られる。
- 註5) 福江充『近世立山信仰の展開』所収、247頁～270頁)。
- 註6) 福江充『立山信仰と立山曼荼羅』所収、213頁～277頁)。
- 註7) 花咲一男編『江戸買物独案内』(261頁、渡辺書店、1972年3月)。
- 註8) 花咲一男編『江戸買物独案内』(221頁・267頁)。
- 註9) 米屋八兵衛：製薬(売薬)問屋。花咲一男編『江戸買物独案内』(167頁)。
- 註10) 岩井源兵衛(麴町平河町3丁目)。橋本博編『大武鑑 第4巻』(享保3年の28頁、大洽社、1935年8月)、「▲御具足師 岩井與左衛門」(岩井源兵衛の名前は見られない)。『大武鑑 第4巻』(享保16年の10頁)、「▲御具足師 岩井與左衛門 春田播磨 岩井源兵衛」。『大武鑑 第4巻』(享保17年の31頁)、「▲御具足師 岩井與左衛門 春田播磨 岩井源兵衛」。橋本博編『大武鑑 第5巻』(宝暦11年の9頁、大洽社、1935年10月)、「▲御具足師 岩井與左衛門 春田播磨 岩井源兵衛」。橋本博編『大武鑑 第7巻』(天保9年の17頁、大洽社、1936年4月)、「▲御具足師 岩井與左衛門 春田播磨 岩井源兵衛」、児玉幸多・小西四郎・竹内理三監修『日本史総覧Ⅳ 近世1』(678頁・679頁、新人物往来社、1984年5月)。
- 註11) 中沢屋藤兵衛：瀬戸物問屋(10組)。霊岸島町長八地借。霊岸嶋一之橋角。『諸問屋名前帳 細目(4)』(2頁、国立国会図書館、1964年7月)。花咲一男編『江戸買物独案内』(337頁)。
- 註12) 板倉勝武(いたくら・かつたけ)。『日本史総覧Ⅴ 近世2』(36頁)。藩主人名事典編纂委員会『三百藩藩主人名事典 第4巻』(123頁、新人物往来社、1986年6月)。大武鑑では板倉美濃守勝久(本国三河)となっている。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の16頁)。
- 註13～15) 蜂須賀重喜(はちすか・しげよし)・蜂須賀千松丸(治昭)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の6頁)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(188頁～190頁)。『日本史総覧Ⅴ 近世2』(210頁)。
- 註16) 橋本博編『大武鑑 第6巻』(安永3年の3頁、大洽社、1936年3月)。
- 註17) 松平定邦(まつだいら・さだくに)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の7頁)。藩主人名事典編纂委員会『三百藩藩主人名事典 第1巻』(80頁、新人物往来社、1986年7月)。
- 註18) 松平忠刻(まつだいら・ただとき)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の7頁)。藩主人名事典編纂委員会『三百藩藩主人名事典 第3巻』(208頁、新人物往来社、1987年4月)。『日本史総覧Ⅴ 近世2』(97頁)。
- 註19) 『大武鑑 第5巻』(延享5年の3頁)。
- 註20) 『大武鑑 第6巻』(天明4年の4頁)。

註21) 『大武鑑 第6巻』(延享4年の6頁)。

註22) 『大武鑑 第6巻』(寛政3年の4頁)。

註23) 内藤政樹(ないとう・まさき)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(549頁)。『日本史総覧V 近世2』(191頁)。

註24) 松平頼濟(まつだいら・よりすみ)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の1頁)。『日本史総覧V 近世2』(36頁)。藩主人名事典編纂委員会『三百藩藩主人名事典 第2巻』(67頁、新人物往来社、1986年9月)。

註25) 徳川宗将(とくがわ・むねのぶ)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の1頁)。『三百藩藩主人名事典 第3巻』(271頁)。『日本史総覧V 近世2』(16頁・17頁)。

註26) 松平朝矩(まつだいら・ともりのり)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の2頁)。『日本史総覧V 近世2』(25頁)。『三百藩藩主人名事典 第1巻』(422頁)。『三百藩藩主人名事典 第3巻』(475頁・476頁)。

註27～28) 本多正珍(ほんだ・まさよし)・本多正供(ほんだ・まさとも)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の8頁)。『三百藩藩主人名事典 第2巻』(229頁～230頁)。『日本史総覧V 近世2』(239頁)。

註29) 増山正寧(ましやま・まさやす)。『日本史総覧V 近世2』(252頁・253頁)。『三百藩藩主人名事典 第3巻』(236頁)。『大武鑑 第7巻』(文化6年の10頁、文化9年の19頁)。

註30) 『大武鑑 第7巻』(安永2年の16頁)。

註31) 『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の19頁)。『大武鑑 第7巻』(文化6年の10頁)。

註32) 田沼意次(たぬま・おきつぐ)。『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の22頁)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(253頁～254頁)。

註33) 田沼家の江戸屋敷の所在地は、文化元年(1804)、意正の時、木挽町屋敷から駒込屋敷へり、さらに文政2年(1819)、駒込屋敷から大名小路屋敷に移っている。『藩史大事典 第4巻 中部編Ⅱ東海』

(166頁、雄山閣出版、1989年1月)。

註34) 田沼意正(たぬま・おきまさ)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(254頁)。

註35・36) 『大武鑑 第5巻』(宝暦13年の6頁)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(185頁～190頁)。『日本史総覧V 近世2』(210頁)。

註37) 伊東長寛(いとう・ながとも)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の9頁)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(106頁)。

註38) 片桐貞信(かたぎり・さだのぶ)。『三百藩藩主人名事典 第3巻』(562頁)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の11頁)。『日本史総覧V 近世2』(105頁)。

註39) 森忠徳(もり・ただのり)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の10頁)。『三百藩藩主人名事典 第3巻』(438頁)。『日本史総覧V 近世2』(288頁)。

註40) 本多正寛(ほんだ・まさひろ)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の4頁)。『三百藩藩主人名事典 第2巻』(331頁～232頁)。『日本史総覧V 近世2』(239頁)。

註41) 福江充『近世立山信仰の展開』(276頁～281頁)。

註42) 松平乗寛(まつだいら・のりひろ)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の7頁)。『三百藩藩主人名事典 第2巻』(329頁～330頁)。『日本史総覧V 近世2』(254頁)。

註43) 松平親良(まつだいら・ちかよし)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の7頁)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(368頁～369頁)。『日本史総覧V 近世2』(263頁)。

註44) 徳川斉温(とくがわ・なりはる)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の1頁)。『三百藩藩主人名事典 第2巻』(362頁・363頁)。『日本史総覧V 近世2』(15頁・16頁)。

註45) 「山のい」の実在と役職等については、東京都江戸東京博物館主任学芸員の畑尚子氏からご教示いただいた。

註46) 畑尚子『幕末の大奥 天璋院と薩摩藩』(24頁～29頁、岩波書店、2007年12月)。

註47) 松浦熙(まつうら・ひろむ)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の8頁)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(490頁)。『日本史総覧V 近世2』(274頁)。

註48) 徳川斉順(とくがわ・なりゆき)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の1頁)。『三百藩藩主人名事典 第3巻』(273頁)。『日本史総覧V 近世2』(16頁・17頁)。

註49) 松平忠堯(まつだいら・ただたか)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の4頁)。『三百藩藩主人名事典 第1巻』(409頁)。『日本史総覧V 近世2』(97頁)。

註50) 蜂須賀斉昌(はちすか・なりまさ)。『大武鑑 第7巻』(天保9年の3頁)。『三百藩藩主人名事典 第4巻』(190頁～191頁)。『日本史総覧V 近世2』(210頁)。

註51) 石井良助監修・小川恭一編著『江戸幕府旗本人名事典 第1巻』(544頁、原書房、1989年6月)。小川恭一編『寛政譜以降 旗本家百科事典(第2巻)』(903頁、東洋書林、1997年11月)。

註52) 石井良助監修・小川恭一編著『江戸幕府旗本人名事典 第3巻』(116頁、原書房、1989年10月)。小川恭一編『寛政譜以降 旗本家百科事典(第4巻)』(2332頁・2333頁、東洋書林、1998年5月)。

註53) 『寛政譜以降 旗本家百科事典(第4巻)』(2333頁)。

註54) 小川恭一編『寛政譜以降 旗本家百科事典(第3巻)』(1400頁、東洋書林、1997年12月)。

註55) 小川恭一編『寛政譜以降 旗本家百科事典(第1巻)』(269頁、東洋書林、1997年11月)。

註56) 『江戸幕府旗本人名事典 第1巻』(671頁)。『寛政譜以降 旗本家百科事典(第2巻)』(1134頁)。

註57) 小西四郎監修・熊井保・大賀妙子編集『江戸幕臣人名事典 第3巻』(144頁、新人物往来社、1990年3月)。『寛政譜以降 旗本家百科事典(第4巻)』(1933頁)。

註58) 『江戸幕臣人名事典 第3巻』(140頁)。『寛政

譜以降 旗本家百科事典(第4巻)』(1933頁)。

註59) 『寛政譜以降 旗本家百科事典(第4巻)』(2360頁)。

註60) 『寛政譜以降 旗本家百科事典(第3巻)』(1547頁)。

註61) 小西四郎監修・熊井保・大賀妙子編集『江戸幕臣人名事典 第1巻』(214頁、新人物往来社、1989年5月)。『江戸幕府旗本人名事典 第1巻』(323頁)。石井良助監修・小川恭一編著『江戸幕府旗本人名事典 第4巻』(111頁、原書房、1989年12月)。『寛政譜以降 旗本家百科事典(第1巻)』(528頁・529頁)。

註62) 『大武鑑 第4巻』(享保17年の31頁)、「▲御作花師 花や九左衛門 別春與一郎 家木作重」。『大武鑑 第5巻』(宝暦11年の9頁)、「▲御作花師 花や九左衛門 別春與一郎 家木作重」。『大武鑑 第7巻』(天保9年の18頁)、「▲御造花師 花屋九左衛門 深佐與市 家木弥四郎」。

註63) 註10参照。児玉幸多・小西四郎・竹内理三監修『日本史総覧IV 近世1』(678頁・679頁、新人物往来社、1984年5月)。

註64) 『諸問屋名前帳 細目(3)』(37頁・42頁、頁国立国会図書館、1963年3月)。

註65) 『諸問屋名前帳 細目(3)』(42頁)。

註66) 『諸問屋名前帳 細目(3)』(29頁)。

註67) 『諸問屋名前帳 細目(1)』(47頁、国立国会図書館、1961年3月)。

註68) 『諸問屋名前帳 細目(1)』(20頁)。

註69) 『諸問屋名前帳 細目(1)』(6頁・32頁)。

註70) 『諸問屋名前帳 細目(4)』(86頁、国立国会図書館、1964年7月)。

註71) 『諸問屋名前帳 細目(3)』(44頁、国立国会図書館、1963年3月)。『諸問屋名前帳 細目(4)』(70頁)。

註72) 網屋三十郎(南茅場町)。麻苧問屋(10組)。花咲一男編『江戸買物独案内』(267頁、渡辺書店、1972年3月)。

- 註73) 花咲一男編『江戸買物独案内』(167頁)。
註74) 『諸問屋名前帳 細目(3)』(85頁)。
註75) 野田屋四郎兵衛(上野元黒門町)。水油仲買(10組)。花咲一男編『江戸買物独案内』(261頁)。
註76) 『諸問屋名前帳 細目(3)』(63頁)。『諸問屋名前帳 細目(3)』(66頁)。『諸問屋名前帳 細目(3)』(98頁)。
註77) 『諸問屋名前帳 細目(2)』(103頁、国立国会図書館、1962年3月)。
註78) 『諸問屋名前帳 細目(2)』(106頁)。
註79) 『諸問屋名前帳 細目(2)』(107頁)。
註80) 『諸問屋名前帳 細目(4)』(2頁)。花咲一男編『江戸買物独案内』(337頁)。
註81) 『諸問屋名前帳 細目(4)』(3頁)。
註82) 『諸問屋名前帳 細目(4)』(86頁)。
註83) 網屋三十郎(南茅場町)。船具問屋(10組)。花咲一男編『江戸買物独案内』(221頁)。
註84) 「旧記 芦峯寺村宅蔵扣 明治二巳歳六月吉祥日」(芦峯寺雄山神社文書)。福江充『近世立山信仰の展開』(356頁～362頁)。

明治二巳己歳六月吉祥日

旧記

芦峯寺村宅蔵控

由緒書

仰当家之元祖者、稲谷入彦命苗裔越中之郡主佐伯左衛門尉越中頭有若之嫡男有頼公、大宝元辛丑年立山開峯之由、人王四拾二代文武天皇被為在奏聞候處、蒙勅命慶雲三年大宮若宮始七ヶ所七千坊伽藍等御建立被為在其節莫太也。賜 田領罷在申候。其後時二兵乱応仁之大乱迄二七ヶ所之伽藍等破壊仕僅残而、芦峯三拾八軒岩峯貳拾四軒都合六拾貳字相残り今二連綿たり。以前八富山城主佐々木陸奥守成政公御代芦峯本郷東西不入二被仰付、其後加賀太守御元祖利家公様より深ク思召ヲ以御神領五拾石外二御納所高等都而芦峯寺中へ被下置候處、自然与社寺寄与兩支配之姿二押移り来進高所持罷在候二付、前名宝泉坊六拾一世照円公八佐伯武平尉覚照ノ二男二而、貳拾九歳之時、干時文化元甲子年

(享和三癸一亥年) 宝泉坊六拾世秋清法円弟子与相成、法円師同七月十七日遷化被致、同二乙丑年り関東へ配札ニ罷出られ候處、前因果満之大徳ニして、東京配札之砌徳川家者じ免尾州公并二三州西尾城主松平和泉守乘全公等より、格別之被蒙御愁命候事諸人皆知る所也。干時天保四癸巳年十二月十日照円五拾九歳ニして一女出生シ照女与申。母八前名玉仙坊娘二而、天保四癸巳年貳拾七歳ニ而照円へ嫁き、二女出生いたし候二付、高方才許江百姓面老軒願達いたし候處、御聞届之上宝泉坊持高拾九石八斗九升六合之内九斗八升宅蔵分与して、外高二いたし度、右照女前名宮之坊良殿へ嘉永六丑年十八歳秋嫁き宅蔵名目のミ預リ置候處、今般王政御復古之折柄御一新丹付、当山千余年之御改革被仰付神仏混淆御廃止丹付、僧行相止復飾被仰付、尤雄山神社神勤可致旨被仰渡僧行之時も有頼公由緒を以、以前り妻帯地ニ御座候。然處御一之折柄丹付、御神領并御来進高等境界御立被下弁別仕候二付、別家宅蔵義明治二巳己年宝泉坊、後、宅蔵居屋敷相求メ家作新二いたし、御上之御定法堅ク相守可申候。村法者勿論隣ノ郷之者共等へも不法無之様可相心得候事。後代々之者時々披見いたし元祖等之御恩徳可敬可仰候事。

明治二巳己年

前名宝泉坊事

佐伯大貳

泰音誌シ

庚午二月大貳事左内智憲ト改名天保十三寅年二月廿九日照円公六拾八歳寂。同妻菊女六拾三歳、存生。佐伯大貳泰音四拾三歳ニ而復飾。同妻沢女三拾七歳。右宅蔵之宅一字八泰音妻沢女之字取沢蔵与いたし候得共、御上向八宅与申字ニ而書上申候事。尤泰音八前名福泉坊事佐伯音之進(音男与改名)産ニ而澄音次男也。母八伯(志鷹)新右衛門娘弓女与申、文化十一甲戌年十七歳秋澄音二歸、文政十年丁亥五月十六日朝六ツ時二出生シ天保十二辛丑年年十五歳之春宝泉坊へ參り、養父照円公天保十三寅年(二月廿九日)病死被致十六歳り家勢いたし候事。干時嘉永三庚戌年正月廿日嫡男出生幼名和三丸与申四才八月九日

二病死いたし候。嘉永五壬子年七月十三日二女出生直
与申安政三丙辰年四月晦日三女出生し、幼名床与申候
事又前名泉光坊事佐伯司馬長運次男丑丸、嘉永二己酉
年六月九日出生し、文久四甲子年拾六歳秋佐伯大貳泰
音之養子ト也、佐伯永丸与改。一、当家者天台宗二而
芦峯寺旦中二御座候得共御一新丹付復飾被仰付候丹付、
一山之院主り離旦状相願旦中之者任心底日中村真言宗
日置寺并一向宗米道村善入寺小又村禪宗龍光寺等へ相
願候付、宅藏義ハ未夕名目のミ丹付、主人等無之付、
隣村小又龍光寺へ相定置候事後代之者可相心得候者也。

明治二己年六月

一、明治二己巳年小家相建候得共、無人丹付佐伯左内
□（□は一字書き損じ）世話いたし置候事同年三月居
屋敷并御田地等割いたし候丹付宅藏居屋敷

宅藏屋敷

- 一、十間候西口
- 一、九間候東口
- 拾九間七
- 一、八間候北口
- 一、八間候南口
- 拾八間候
- 八拾歩

定

一、明治三年、人戸帳御調二付、佐伯宅藏名目而已丹
付、佐伯音男一女瀧養女与して左内方江貫請作。尤人
口帳二ハ宅藏妻与上置候事。一、明治六年十一月村方
地券法丹付、山畑山林究割立丹付、持高式升并二山割
不残相譲り候事。但シ従前林割字ナ堂後稲田ハ左内方
り代料相渡求置候事。一、持高 宅藏名目二而書上有
之候得共此高ハ左内次女床他家へ嫁付候得共万一離別
与有之候而ハ指支至廉も有之付其泰音方与して扣置事。
但シ是彼なく納り宅藏方ニ而も誠忠也。人々召つつ其
時宜二より何連共内輪互ニ真意ヲ以（以になっている
が致？）取斗遍く事。右家族一同示談之上取究祖先照
円始本家代々靈思頼奉仰候事也。家可た免候丹付、□
（□は一字難読）轉也。うごきな求家張礎五百千尋底
津岩根尔、可た免せんと有。左内。

明治六年十一月廿九日

佐伯智憲

親類

佐伯弘澄

佐伯武極

佐伯一学

佐伯司宮治

佐伯源五郎

佐伯宅藏

たき江

たき生年月日、嘉永二年五月生ル。父佐伯音男弘澄、
母ハ志鷹新右衛門娘。明治十一年、たき義、音男方へ
復籍病身（丹付）為致、俗名三九郎次男市三郎へ宅藏
家名相譲り申候也。

【本冊に挟み込まれた一紙文書（その1）】

高祖父、宝泉坊出生法円、文化元甲子年七月、七十一
歳病死。

高祖母、富山藩松井甚六娘、文政八乙酉九月病死。

父、佐伯武平二男、天保十三壬寅二月、六十八歳病死。

母、玉仙坊娘菊、六十三歳存生。

其身、佐伯大貳泰音、四十三歳。

妻、宝泉坊娘、三十七歳、沢女。

倅、和三丸、嘉永六癸丑年八月四歳病死。

娘、直女十八歳。

妹、床女十四歳

□（□は一字難読）、佐伯司馬出里。二十三歳。

【本冊に挟み込まれた一紙文書（その2）】

武平事

文化十三丙子年正月五日、春達妙證沙弥尼、覚照女ヲ
ヨツ事。

嘉永六癸丑年八月十五日、寛心贈法師。

佐伯武平覚照三男茂太夫遺、天保八酉信州佐久郡春日
新町大日堂染衣同寺二而七十五歳病死。

天保十三壬寅年二月廿九日、宝泉坊弘徳照円六十八歳、
佐伯武平覚照二男病死。

註85)「宝泉坊系統図 佐伯幸穂」（芦峯寺大仙坊文
書）。

四十四代法円（ハウイン）。文化元甲子年七月十七日寂。

四十五代照円（シヤウイン）。天保十三壬寅年二月二十九日寂。行年六十八歳。

四十六代智憲（トモノリ）泰音事御一新二付明治二巳春四十三才二而復飾被仰付。

四十四代 法円 妻名ハ玉女 文政八乙酉九月十七日行年七十二歳死 富山前田家藩中松井甚六二女。

一女 元権教坊四十二代泰明至ル年号不詳

二女 元善道坊四十四代廓音二至ル。名ハ金通。名佐伯美那登僧二十八佐伯寛徴也。

三女 法円息女名ハ種女享和三癸亥年六月十三日行年拾六歳死。

四拾五代照円 佐伯武平三十九代忠永コト。安永四年出生。

直覚照次男児名亀丸ト。享和元辛酉春二十七歳ニテ当家法円養子ト成ル。

文化元甲子ヨリ天保十一庚子年迄関東配札江戸諸侯方帰依ニ付信施多有之。

年二月二十九日行年六〔空白〕歳死。

妻ハ前宝伝坊三十六代快順三女。名ハ未（スイ）十六歳ニテ照円妻ト成ル。

天保三壬辰年四月八日四十歳死。

長男沢円。文政八乙酉年十一月十三日行年拾五歳死。

後室元玉仙坊四十七代義宜一女名ハ菊。文化四丁卯八月四日朝生。天保四癸巳年二十七歳ニテ当家照円ニ至ル。尤二女元相榮坊苗清妻名ハヨシ三女ハ元三学坊本応妻キヨ。

一女。息女名ハ宅。天保四癸巳年十二月十日生。

二女。名ハ照（テル）。天保七丙申年八月十八日朝生。嘉永六丑年拾八歳ニテ元宮之坊四十五代本親ニ至ル。

四拾六代。泰音事復飾元祖、智憲（左内ト改ム）。元福泉坊四十二代澄音次男只治丸文政十丁亥五月十六日朝六ツ時生。改名小貳千付。

天保十二辛丑年拾五歳ニテ当家照円養子ト成ル。明治二巳春四十三復飾。佐伯音男ノ弟。

註86)「由緒書上帳 立山芦嶮寺事東神職 明治六年二月」（廣瀬誠編『越中立山古記録 第3巻』所収、241頁、立山開発鉄道株式会社、1991年10月）。（部分）

四十四代 法円 文化元甲子年七月十七日寂

四十五代 照円 天保十三壬寅年二月二十九日寂

右由緒之儀ハ前段ニ書上申候

二月 四十六代佐伯左内

註87) 松平和泉守（松平乗全）が宝泉坊（照円）に寄進した燈籠には「天保十一年十一月十一日 現住照圓七十歳」と刻文が見られ、これにもとづくと、照円は古稀まで生存し、その後、天保13年に72歳で亡くなったことになる。

註88)「長官様長帳 芦嶮寺中郎武兵衛 同等覚坊 文化拾四丑年八月吉日」（廣瀬誠編『越中立山古記録 第2巻』所収、67頁・68頁・71頁・72頁・74頁、立山開発鉄道株式会社、1990年4月）。「宝泉坊孫 宝円子 照円。同年金三両一山請取。照円当ル名主指除筈。右金子文化十一年戌十一月取」（以上67頁）、「（文化七午年）宝泉坊孫 照円子 仙之助」（以上68頁）、「（文政十亥十一月十五日）切替 宝泉坊孫 照円子 只次郎。宝泉坊孫 照円子 こけん」、「（文政十一年子十一月十五日）宝泉坊孫 照円子 円龍」（以上71頁）、「天保五午年 長官相真坊御年五十五才。一 宝泉坊孫 照円子 おたく。右只次郎相勤ルニ付蔵帳ニ相成候」（以上72頁）、「天保十一子年十一月十五日 宝泉坊孫 照円子 おてる」（以上74頁）。

註89)「当山若僧定書帳 芦嶮寺若僧中 天保三辰八月吉日」（『越中立山古記録 第2巻』42頁）。

文政十二丑六月朔日入 宝泉坊

天保五午十一月十五日 円龍（印）

円龍義不行跡ニ付宝泉坊リ願出候。若僧相省キ被下候段申候ニ付相省置候。尤一山永帳等も外帳ニ御座候。

註90) 註85の「宝泉坊系統図 佐伯幸穂」（芦嶮寺大仙坊文書）を参照。

註91) 石造物B-170角石標「佐伯照円妻喜久」(『立山中宮寺跡石造物分布調査報告書』所収、84頁)。

註92) 註85の「宝泉坊系統図 佐伯幸穂」(芦峯寺大仙坊文書)を参照。

註93) 照円の没年月日について「旧記 芦峯寺村宅蔵扣 明治二巳歳六月吉祥日」では天保13年(1842)2月29日とされているが、一方、照円の墓石である石造物B-180笠塔婆「金剛界大日(坐)」(『立山中宮寺跡石造物分布調査報告書』所収、85頁、富山県[立山博物館]、1993年3月)では、天保13寅年2月16日とされている。

註94) 註86の「由緒書上帳 立山芦峯寺事東神職 明治六年二月」(『越中立山古記録 第3巻』所収、241頁)。

註95) 「戸籍人員詳細取調書上帳 第壹区四番組芦峯村 立山元東神職佐伯左内扣 明治五年」(芦峯寺一山会所蔵)。

越中新川郡第壹区四番組芦峯村

実父元福泉坊澄音亡次男 立山元東神職 養父照

円亡 佐伯左内智憲 四拾六歳

同村元玉仙坊義宣亡長女

母 きく 六拾六歳

妻 たく 四拾歳

実父同村佐伯司馬光長次男

長男 永丸 二拾四歳

長男妻 な越 二拾一歳

註96) 『三百藩藩主人名事典 第2巻』(330頁)。『日

本史総覧V 近世2』(254頁)。

註97) 註42参照。

註98) 註96参照。

註99) 註43参照。

註100) 註39参照。

註101) 註37参照。

註102) 註38参照。

註103) 註47参照。

註104) 註51参照。

註105) 註52参照。

註106) 註61参照。

註107) 註59参照。

註108) 註60参照。

註109) 註75参照。

註110) 註80参照。

註111) 註64参照。

註112) 『諸問屋名前帳 細目(1)』(8頁)。

註113) 註81参照。

註114) 註66・註69参照。

第1表 史料A(享保期)の内容

掲載順	祀地	信託名	人数	宿数	寄当同郡区	B	C	D	E	F	G
001	江戸品川浜川町	吉田武兵衛	1		存原郡	1	1				
002	浜川町	五平治	1		存原郡	1	1				
003	浜川町	五郎兵衛	1		存原郡	1	1				
004	浜川町	長谷川五郎兵衛	1		存原郡	1					
005	御林町6丁目	小池五兵衛	1		存原郡	1	1				
006	御林町6丁目	五月屋吉兵衛	1		存原郡	1					
007	御林町6丁目	米屋長右衛門	1		存原郡	1	1				
008	御林町6丁目	吉田半兵衛	1		存原郡	1	1				
009	御林町5丁目	越前屋平兵衛	1		存原郡	1					
010	御林町5丁目	松本伊右衛門	1		存原郡	1					
011	御林町4丁目	大船彦兵衛	1		存原郡	1					
012	御林町4丁目	神山市郎左衛門	1		存原郡	1	1				
013	海雲寺門前	吉田又三郎	1		存原郡	1	1				
014	海雲寺門前	三河屋喜兵衛	1		存原郡	1					
015	海雲寺門前	花屋清右衛門	1		存原郡	1					
016	海雲寺門前	米屋佐五兵衛	1		存原郡	1					
017	南島川2丁目	伏見屋半右衛門	1		存原郡	1					
018	宝前寺門前(法禪寺)	八兵衛	1		存原郡	1					
019	大井村芝	材木崎治郎右衛門	1		存原郡	1					
020	大井村芝	神山九兵衛	1		存原郡	1					
021	大井 榎	市船源左衛門	1		存原郡	1	1				
022	内原	安田庄右衛門	1		存原郡	1					
023	江戸池ノ者た(池之端)	野田屋四郎兵衛	1	1	下谷区	1	1	1		1	
024	江戸池ノ者た(池之端)	左衛門	1		下谷区	1					
025	飛・加うじ(広小路)	米屋半兵衛	1		下谷区	1					
026	飛る加うじ(広小路)	大根屋清右衛門	1		下谷区	1					
027	長者町	藤屋清兵衛	1		下谷区	1	1				
028	徳大寺横町	ひもの屋八兵衛	1		下谷区	1					
029	寺町	米屋長兵衛	1		下谷区	1					
030	寺町	麻呂屋四郎左衛門	1		下谷区	1					
031	浅草新堀路北寺町	米屋又兵衛	1		浅草区	1					
032	寺町	からかみ屋三右衛門	1		下谷区	1					
033	寺町	酒屋吉右衛門	1		下谷区	1					
034	御具足町(御具足町)	山田屋勘七	1		下谷区	1					
035	さかもと2丁目(坂本)	米屋伊右衛門	1		浅草区	1					
036	あざとめ町(浅留町)	石屋権作	1	1	浅草区	1					
037	あざとめ町(浅留町)	材木屋佐兵衛	1		浅草区	1					
038	御門せき前(寒本陣寺門前)	山田屋加兵衛	1		浅草区	1					
039	浅草なみき町(並木町)	花屋理助	1		浅草区	1					
040	浅草なみき町(並木町)	安兵衛	1		浅草区	1					
041	浅草なみき町(並木町)	給師五兵衛	1		浅草区	1					
042	浅草なみき町(並木町)	しもと屋治郎助	1		浅草区	1					
043	春わ町(諏訪町)	花屋弥四郎	1		浅草区	1					
044	浅草山の宿	流物屋方右衛門	1		浅草区	1					
045	浅草山の宿	酒井屋次兵衛	1		浅草区	1					
046	浅草山の宿	権兵衛	1		浅草区	1					
047	浅草花川戸町	土屋彦兵衛	1		浅草区	1					
048	浅草花川戸町	土屋五兵衛	1		浅草区	1					
049	今度町(今戸町)	治右衛門	1		浅草区	1					
050	浅草 志やうてん町横町 浅草 聖天町	油屋市郎兵衛	1		浅草区	1	1				
051	富士前	伊豆屋市兵衛	1		神田区	1	1				
052	高原さう町(高原京町) さうやのうら	八兵衛	1		浅草区	1					
053	高原さう町(高原京町)	鈴木徳左衛門	1		浅草区	1	1				
054	高原さう町(高原京町)	紙屋 俊彦兵衛	1		浅草区	1					
055	中の町之加と(仲之町)	宇村 辰兵衛	1	1	浅草区	1					
056	中の町(仲之町)	伊勢屋長右衛門	1		浅草区	1	1				
057	中の町2丁目(仲之町)	さかい屋喜右衛門	1		浅草区	1	1				
058	中の町2丁目(仲之町)	伊勢屋八郎右衛門	1		浅草区	1					
059	中の町2丁目(仲之町)	伊勢屋久兵衛	1		浅草区	1	1				
060	中の町2丁目(仲之町)	五郎屋五兵衛	1		浅草区	1					
061	すいとん之志(水原尻)	ふじ屋五兵衛	1		浅草区	1					
062	堺町	真屋九兵衛	1		浅草区	1					
063	堺町	碓屋彦兵衛	1		浅草区	1	1				
064	堺町	すまもと屋五兵衛	1		浅草区	1					
065	堺町	伊勢屋久兵衛	1		浅草区	1					
066	堺町	松屋半七	1		浅草区	1					
067	新町	茗荷屋半右衛門	1		浅草区	1					
068	新町	いより屋全兵衛	1		浅草区	1					
069	新町四ツめかじ	権兵衛	1		浅草区	1					
070	浅 堀町	伊勢屋与右衛門	1		浅草区	1					
071	浅 塚田町	武蔵屋伊兵衛	1		浅草区	1					
072	浅 塚田町	真屋平兵衛	1		浅草区	1					
073	本庄稲いおい三ツ目(相生町)	真屋与右衛門	1		本所区	1					
074	本庄稲いおい三ツ目両加わ(相生町)	御屋 門 衛	1		本所区	1					
075	本庄稲 いおい三ツ目(相生町)	竹内徳兵衛	1		本所区	1					
076	本庄菊川町向4丁目	山崎五郎助	1		本所区	1	1				
077	深川八束人町(深川八幡町)	からし屋三郎兵衛	1		本所区	1					
078	本庄一目	喜右衛門	1		本所区	1					
079	まツ加町(松賀町)	油屋勘左衛門	1		深川区	1					
080	三加くやしき(三角屋敷)	米屋徳兵衛	1		深川区	1					
081	石木町1丁目 目加町	油屋勘右衛門	1		深川区	1					
082	あみ町2丁目	ななへ平三郎	1		深川区	1					
083	両新本り横町(両新堀横町)	とら屋勘兵衛	1		京橋区	1					
084	京橋ふし加者	綱屋五郎兵衛	1		京橋区	1					
085	い 石橋(伊豫石橋)	伊勢屋彦八	1		深川区	1					
086	若 くら町3丁目(馬喰町)	常陸屋加兵衛	1		日本橋区	1					
087	若 くら町3丁目(馬喰町)	常陸屋加右衛門	1		日本橋区	1					
088(1)	へつい加し(蕨河岸)	万屋清八	1		日本橋区	1					
089	大伝馬町2丁目	坂屋与兵衛	1		日本橋区	1	1				
090	てんく町	大工久左衛門	1		日本橋区	1					
091	小伝馬町3丁目	赤加屋半兵衛	1		日本橋区	1	1				
092	小船町1丁目	石橋清兵衛	1	1	日本橋区	1					
093	ほりとめ町(堀留町)	伊勢屋彦重郎	1		日本橋区	1					

施設順	祀礼地	俗徒名	人数	宿数	該当国郡区	B	C	D	E	F	G
094	ほりとめ町(堀留町)	山住八郎兵衛	1		日本橋区	1					
095	ふ 袋町1丁目(堀江町)	伊勢屋長兵衛	1		日本橋区	1					
096	ふ 袋町1丁目(堀江町)	伊勢屋三郎兵衛	1		日本橋区	1					
097	ふり袋町4丁目(堀江町)	伊勢屋三郎兵衛	1		日本橋区	1					
098①	へつい加し(轟河岸)	万屋八●	0		日本橋区	1					
099	堀町	仲屋半七	1		日本橋区	1	1				
100	かんさのかし	清水屋三四郎	1		日本橋区	1	1				
101	小あみ町2丁目(小網町)	紀伊屋辰喜九郎	1		日本橋区	1					
102	小あみ町3丁目(小網町)	甚九郎	1		日本橋区	1					
103	ひたちやうら	ななへ平三郎(伊勢屋三右衛門店)	1		日本橋区	1					
104	大川番'た(大川端)	伝馬屋三郎兵衛	1		京橋区	1					
105	れいがん嶋長さき町(轟岸島長崎町)	和泉屋仁左衛門	1		本所区	1					
106	島崎町	松屋七郎兵衛	1		日本橋区	1	1				
107	島崎町	石橋屋真兵衛	1		日本橋区	1	1				
108	本小だわら町あんちん町(本小田原町安針町)	ふ ツと屋甚 兵衛	1		日本橋区	1	1				
109	本船町2丁目 酒井屋八良右衛門店	船嶋勝衛門	1		日本橋区	1					
110	本材木町橋二面 道心町地蔵橋1丁目大通	伊豆屋善右衛門	1		日本橋区	1					
111	さなない町(佐内町)	三河屋八兵衛 拍屋店	1		日本橋区	1					
112	日本橋 南2丁目	鎌倉屋伊 兵衛	1		日本橋区	1					
113	小松町 理兵衛店	三ツ屋五兵衛	1		日本橋区	1					
114	ごふ 町1丁目(呉服町)	中村真兵衛	1		日本橋区	1					
115	京若しくわんぜんたな	大工伝兵衛	1	1	京橋区	1					
116	京若し南3丁目(京橋)	兼屋權重郎	1		京橋区	1					
117	弓町とらげのうら	大工平助	1		京橋区	1					
118	やうや町 本すきや町4丁目	大工伝五郎	1		日本橋区	1					
119	やざい門町(弥左衛門町)	大工勘三郎	1		京橋区	1					
120	やまじろ加し(山越河岸)	補屋全左衛門	1		京橋区	1					
121	さいわい橋(幸橋) 丸や町(丸屋町)	山崎屋九郎兵衛	1		京橋区	1					
122	ふた者'町(二葉町)	屋屋清右衛門	1	1	芝区	1	1				
123	木挽町2丁目	上田屋真兵衛	1		京橋区	1					
124	木挽町4丁目	紀伊四郎又七	1	1	京橋区	1	1				
125	木挽町4丁目	伊勢屋 佐郎兵衛	1		京橋区	1					
126	ていぼつ舟松町(鉄砲洲船松町)	三河屋 伊左衛門	1		區橋	1	1				
127	本神田白加年町3丁目	指物屋伊兵衛	1		神田区	1					
128	神田 お加ざけしを町	花屋作十郎	1		神田区	1					
129		穴蔵屋長右衛門	1		不明						
130	神田橋大工町	玉屋八左衛門	1		神田区	1					
131	神田立大工町	いび屋忠五右衛門	1		神田区	1					
132	神田更うくわん町	こんやく屋忠兵 衛	1	1	神田区	1					
133	替川町3丁目	常立坊	1		神田区	1					
134	川原町(笹屋町)	船田 辰三郎兵衛	1		神田区	1					
135	神田多町1丁目	和泉屋清三郎	1		神田区	1					
136	神田多町2丁目	ふ 船	1		神田区	1					
137	神田四間町	富士白屋四郎兵衛	1		神田区	1	1				
138	神田四間町	丸屋久兵衛	1		神田区	1	1				
139	正平橋之前(昌平橋)	升田屋又兵衛	1		神田区	1					
140	筋かいのそと御用地 平のや伊兵衛店	与兵 衛	1		神田区	1					
141	遊嶋天神見具み町(満島天神三組町)	三河屋勘 兵衛	1		本郷区	1	1				
142	遊嶋天神見具み町(満島天神三組町)	伊勢屋安兵衛	1		本郷区	1					
143	柳原	船田屋四郎三郎	1		神田区	1					
144	柳原	船田屋源六	1		神田区	1					
145	牛込見付之内	梶井喜之助	1		牛込区	1					
146	牛込見付之内	御家老佐々木長右衛門	1		牛込区	1					
147	牛込さ加なたな(牛込香瀬)	名主中村八十右衛門	1		牛込区	1					
148	牛込	万屋仁兵衛	1		牛込区	1	1				
149	牛込	大黒屋庄右衛門	1		牛込区	1					
150	牛込	橋町七兵衛	1		牛込区	1					
151	牛込通寄町	補儀市兵衛	1		牛込区	1					
152	牛込天徳院前	松屋伍兵衛	1		牛込区	1					
153	牛込七間町	万屋長右衛門	1		牛込区	1					
154	牛込七間町	万屋権十郎	1		牛込区	1	1				
155	小・日南水道町大六天前御組付	村山武右衛門	1		牛込区	1					
156	水道町水くるま	のしり餅屋俊兵衛	1		牛込区	1					
157	水道町水くるま	野島屋半之助	1		牛込区	1					
158	小石川大塚町	中嶋屋真兵衛	1		小石川区	1					
159	小石川大塚町	八百屋寛左衛門	1		小石川区	1					
160	小石川大塚町	伊勢屋仁兵衛	1		小石川区	1					
161	小石川大塚町	三河屋源兵衛	1		小石川区	1	1				
162	小石川大塚町	中嶋屋次兵衛	1		小石川区	1					
163	小石川大塚町	を野屋彦右衛門	1		小石川区	1					
164	小石川どひ坂中さし町(中富坂中興差町)	野田屋八左衛門	1		小石川区	1					
165	伝通院前	駿河屋真兵衛	1		小石川区	1	1				
166	伝通院前櫻水	川越屋勘右衛門	1		小石川区	1	1				
167	牛込天神町	八百屋五兵衛	1		南豊島郡	1					
168	高田馬場下六八幡戸塚村	久四郎	1		南豊島郡	1	1				
169	市谷七間町	志野屋俊兵衛門	1	1	牛込区	1					
170	四ツ谷御堀者'た(四谷御堀端)	うるし屋伊兵衛	1	1	四谷区	1					
171	四谷堀町2丁目	加嶋屋三郎兵衛	1		四谷区	1					
172	四谷堀町2丁目	す屋半左衛門	1		四谷区	1					
173	四谷堀町3丁目	松葉屋半兵衛	1		四谷区	1	1				
174	四谷忍町	香屋権左衛門	1		四谷区	1					
175	四ツ谷内藤新宿	恵比須屋忠兵衛	1	1	南豊島郡	1					
176	四ツ谷内藤新宿	ふちう屋六兵衛	1		南豊島郡	1					
177	四ツ谷内藤新宿	甲州屋安右衛門	1		南豊島郡	1					
178	四ツ谷内藤新宿	せんこんざ右狭屋市郎右衛門	1	1	南豊島郡	1					
179	四ツ谷鴨子町	海老屋茂左衛門	1		四谷区	1	1				
180	四ツ谷鴨子町	万屋権左衛門	1		四谷区	1					
181	四ツ谷鴨子町	加 嶋 将 衛	1		区橋	1	1				
182	四ツ谷鴨子町	田中権左衛門	1		四谷区	1	1				
183	あざぶ龍土町(麻布龍土町)	伏見屋五兵衛	1		麻布区	1					
184	あざぶ龍土町(麻布龍土町)	相模屋仁兵衛	1		麻布区	1	1				
185	四塚多町2丁目(芝田町)	一兵坊	1		芝区	1					
186	水戸町せきうち外門	城屋虎右衛門	1		牛込区	1					
187	糸ぬぎ町(練木町)	班屋喜左衛門	1		牛込区	1					

掲載順	配祀地	信徒名	人数	宿数	該当郡区	B	C	D	E	F	G
188	御たんす町(御蔵町)	丸屋平助	1		小石川区	1	1				
189	御たんす町(御蔵町)	丸屋市兵衛	1		小石川区	1					
190	御たんす町(御蔵町)	八百屋庄左衛門	1		小石川区	1					
191	御たんす町(御蔵町)	八百屋九兵衛	1		小石川区	1					
192	駒込竹町	三河屋安兵衛	1		本郷区	1					
193	本江並分駒込加代町通の角	神戸屋次兵衛	1		本郷区	1					
194	清水村	権右衛門	1		北多摩郡	1					
195	拾袋村	平兵衛	1	1	北多摩郡	1					
196	拾袋村	善四郎	1	1	北多摩郡	1					
197	拾袋村	権重郎	1		北多摩郡	1					
198	拾袋村	権右衛門	1		北多摩郡	1					
199	拾袋村	くざい坊	1		北多摩郡	1					
200	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	名主勘左衛門	1	1	北多摩郡	1					
201	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	文右衛門	1		北多摩郡	1					
202	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	茂兵衛	1		北多摩郡	1					
203	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	八郎兵衛	1		北多摩郡	1					
204	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	伊左衛門	1		北多摩郡	1					
205②	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	市郎右衛門●	1		北多摩郡	1					
206	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	半七	1		北多摩郡	1					
207	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	五兵衛	1		北多摩郡	1					
208	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	忠兵衛	1		北多摩郡	1					
209③	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	七郎左衛門●	1		北多摩郡	1					
210③	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	七郎左衛門●	0		北多摩郡						
211●	武州玉之郡山口駅やげ通村(山口駅宅部村)	市郎右衛門●	0		北多摩郡	0					
212	武蔵国いるま郡山口駅ほだいざ村(武蔵国入間郡山口駅菩提木村)	理兵衛	1		埼玉県入間郡	1					
213	武蔵国いるま郡山口駅ほだいざ村(武蔵国入間郡山口駅菩提木村)	加兵衛	1		埼玉県入間郡	1					
214	武州玉之郡見田りさわいや村(沢井村)	一い郎	1		西多摩郡	1					
215	武州玉之郡見田りさわいや村(沢井村)	文右衛門	1		西多摩郡	1					
216	武州玉之郡見田りさわいや村(沢井村)	与三左衛門	1		西多摩郡	1					
217	ゆぎ村(柚木村)	十郎兵衛	1		南多摩郡	1					
218	ゆぎ村(柚木村)	弥兵衛	1		南多摩郡	1					
219	ゆぎ村(柚木村)	六左衛門	1		南多摩郡	1					
220	ゆぎ村(柚木村)	市郎左衛門	1		南多摩郡	1					
221④	ゆぎ村(柚木村)	茂兵衛●	1		南多摩郡	1					
222	ゆぎ村(柚木村)	文兵衛	1		南多摩郡	1					
223	ゆぎ村(柚木村)	半左衛門	1		南多摩郡	1					
224	ゆぎ村(柚木村)	卯右衛門	1		南多摩郡	1					
225	ゆぎ村(柚木村)	武兵衛	1		南多摩郡	1					
226	ゆぎ村(柚木村)	芳兵衛	1		南多摩郡	1					
227	ゆぎ村(柚木村)	包次郎	1		南多摩郡	1					
228	ゆぎ村(柚木村)	房之丞	1		南多摩郡	1					
229	ゆぎ村(柚木村)	邦次郎	1		南多摩郡	1					
230	ゆぎ村(柚木村)	弁之助	1		南多摩郡	1					
231	ゆぎ村(柚木村)	馬之助	1		南多摩郡	1					
232	ゆぎ村(柚木村)	弥助	1		南多摩郡	1					
233	ゆぎ村(柚木村)	寛兵衛	1		南多摩郡	1					
234④	ゆぎ村(柚木村)	茂兵衛●	0		南多摩郡						
235	ゆぎ村(柚木村)	角兵衛	1		南多摩郡	1					
236	ゆぎ村(柚木村)	(雑記)	1		南多摩郡	1					
237	ゆぎ村(柚木村)	幾右衛門	1		南多摩郡	1					
238	ゆぎ村(柚木村)	計四郎	1		南多摩郡	1					
239	ゆぎ村(柚木村)	半之丞	1		南多摩郡	1					
240	ゆぎ村(柚木村)	卯左衛門	1		南多摩郡	1					
241	ゆぎ村(柚木村)	芳之	1		南多摩郡	1					
242	ゆぎ村(柚木村)	房次郎	1		南多摩郡	1					
243	ゆぎ村(柚木村)	邦右衛門	1		南多摩郡	1					
244	ゆぎ村(柚木村)	虎助	1		南多摩郡	1					
245	ゆぎ村(柚木村)	源左衛門	1		南多摩郡	1					
246	ゆぎ村(柚木村)	計右衛門	1		南多摩郡	1					
247	ゆぎ村(柚木村)	助右衛門	1		南多摩郡	1					
248	ゆぎ村(柚木村)	和右衛門	1		南多摩郡	1					
249	ゆぎ村(柚木村)	善左衛門	1		南多摩郡	1					
250	ゆぎ村(柚木村)	広右衛門	1		南多摩郡	1					
251	ゆぎ村(柚木村)	当右衛門	1		南多摩郡	1					
252	ゆぎ村(柚木村)	藤兵衛	1		南多摩郡	1					
253	ゆぎ村(柚木村)	茂兵衛	1		南多摩郡	1					
254	ゆぎ村(柚木村)	助郎	1		南多摩郡	1					
255	ゆぎ村(柚木村)	和右衛門・平	1		南多摩郡	1					
256	ゆぎ村(柚木村)	左右衛門	1		南多摩郡	1					
257	ゆぎ村(柚木村)	清四郎店	1		南多摩郡	1					
258	本所加川村本町(福町)	ちや舟平三郎	1		本郷区	1					
259	武州多摩郡杉川村	兼兼八郎左衛門	1		北多摩郡	1					
					255	15					
						192	45	1	0	1	0

凡例

本表は、史料Aの本文を解説し、その内容をデータベース化したものである。さらには史料Aに掲載された全信徒の、史料B～史料Gに対する掲載の有無を示したものである。表中、掲載順の項目の丸で囲った番号は同一人物を示すものである。その際、同番号は同一人物を示す。信徒名の項目の「●」印は本文中において同一人物が見られる場合を示す。史料B～史料Gの項目の「●」印は、史料Aに記載された信徒が同一名及び同一住所で史料B～史料Gに見られる場合を示す。史料B～史料Gの項目の「○」印は、史料Aに記載された信徒が代替わりや転居で、同一名であるが住所は異なる、あるいは住所が一致し姓や屋号も一致するが代替わりや転居で名前が異なる場合などを示す。

第2表 史料Cの内容

掲載順	配札地	信徒名	人数	宿数	該当郡区	A	B	D	E	F	G
001	西保四つじ(西久保町) 御くら町	おうや万兵衛	1		芝区						
002	本所三目	半兵衛	1		本所区						
003①	おがわ町ひけし敷(小川町)	くんべい幸次郎●	1		神田区						
004	未掲載	有馬伊勢大輔様 宮様	1		不明						
005	未掲載	尾上殿	1		不明						
006	未掲載	お里七殿	1		不明						
007	未掲載	お遊宮殿	1		不明						
008②	たなま様御敷の内(田沼様御敷の内(駒込か?))	高木全次郎●	1		本郷区						
009①	おがわ町ひけし屋敷(小川町)	幸次郎●	0		神田区						
010	おがわ町ひけし屋敷(小川町)	桜部源右衛門	1		神田区						
011③	おがわ町ひけし屋敷(小川町)	桜井新十郎●	1		神田区						
012②	たなま御敷こまごめ(田沼御敷・駒込〔上屋敷〕)	高木全次郎●	0		本郷区						
013	本上三ツめやしき(本所)	保し吉治郎	1		本所区						
014	木挽町近江守様	近江守様	1		京橋区						
015	木挽町近江守様	浦上弥五左衛門	1		京橋区						
016	つきじかしの屋敷 カリニバー(築地河岸)	かんの市右衛門	1		京橋区						
017	正平権手前(昌平橋)	升屋又兵衛	1		神田区						
018	神田佐久間町	大工喜四郎	1		神田区						
019	松永町	重辰勘七	1		神田区						
020	松永町	島居長兵衛	1		神田区						
021	松永町	清兵衛	1		神田区						
022	神田加ち町1丁目(鍛冶町)	浜田辰十兵衛	1		神田区						
023	神田四軒町	藤城辰四郎兵衛	1		神田区						
024	白銀町3丁目	万屋治郎兵衛	1		牛込区						
025	神田4丁目	丸屋久兵衛	1		神田区						
026	本所い勢敷	平野権八	1		本所区						
027	神田ミナ川町2丁目(啓川町)	家主大工 宮崎権六	1		神田区						
028	神田ミナ川町4丁目(啓川町)	秋田辰與五郎	1		神田区						
029	神田ミナ川町4丁目(啓川町)	若井辰庄七	1		神田区						
030	神田とままつ町蔵地(常松町)	中村長兵衛	1		神田区						
031	神田まつさ町(松枝町)	鍛冶辰助左衛門	1		神田区						
032	神田豊嶋町 今八たを花丁新道 小そろじの近処	自性院(正林)	1		神田区						
033	池之端中町(池之端仲町)	野田辰四郎兵衛	1		下谷区						
034	池之端中町(池之端仲町)	菅河辰吉左衛門	1		下谷区						
035	池之端中町(池之端仲町)	鍛屋権左衛門	1		下谷区						
036	池之端広小路	山形辰権左衛門	1		下谷区						
037	池之端広小路	伊勢辰吉右衛門	1		下谷区						
038	池之端広小路	ふち辰伊兵衛	1		下谷区						
039	池之端広小路	川越辰権八	1		下谷区						
040	池之端広小路	万屋辰左衛門	1		下谷区						
041	大門町(上野南・北大門町)	三文字辰嘉兵衛	1		下谷区						
042	竹町	田中辰万次郎	1		下谷区						
043	上野町	米屋八兵衛	1		下谷区						
044	下谷長者町	藤屋清兵衛	1		下谷区						
045	下谷七間町近所小嶋丁(小島町)	糸 彌弥四郎	1		下谷区						
046	坂本4丁目	藤屋権蔵	1		下谷区						
047	浅草すわ町(諏訪町) (貼紙の下) 浅草春わ町	大仏師孝音 (貼紙の下) 鍋木辰次郎助	1		浅草区						
048	なみき町(並木町)	とら辰	1		浅草区						
049	浅草新寺町 万福寺門前	吉田辰六兵衛	1		浅草区						
050	浅草寺町 泉源寺門前	野田辰四郎三郎	1		浅草区						
051	浅草町	伊勢辰権作	1		浅草区						
052	浅草町	材木辰兵衛	1		浅草区						
053	かや者町入口(茅場町)	清水辰権治郎	1		本所区						
054	全羅山下山谷堀	浅屋半兵衛	1		浅草区						
055	くわん音前(浅草寺観音堂前)	のり 辰佐助	1		浅草区						
056	くわん音前(浅草寺観音堂前)	長八	1		浅草区						
057	聖天町	鈴木良庵	1		浅草区						
058	聖天橋丁	油屋市郎兵衛	1		浅草区						
059	浅草ふじ前	伊豆辰市兵衛	1		浅草区						
060	浅草八軒町	全兵衛	1		浅草区						
061	浅草田町	相模辰次郎兵衛	1		浅草区						
062	浅草田町	小嶋三智	1		浅草区						
063	浅草田町	増屋内伝助	1		浅草区						
064	浅草砂利場	新屋喜兵衛	1		浅草区						
065	浅草山の宿(山之宿町)	岩屋金八	1		浅草区						
066	浅草さんや町(山谷町)	山田辰小十右衛門	1		浅草区						
067	浅草さんや町(山谷町)	増屋八右衛門	1		浅草区						
068	浅草さんや町(山谷町)	中村辰新八	1		浅草区						
069	浅草さんや町(山谷町)	尾張辰忠三郎	1		浅草区						
070	浅草さんや町(山谷町)	鍛屋権八	1		浅草区						
071	浅草さんや町(山谷町)	八百辰谷右衛門	1		浅草区						
072	浅草さんや町(山谷町)	長八	1		浅草区						
073	浅草さんや町(山谷町)	おきよ	1		浅草区						
074	浅草新町権平店	鑿野文右衛門	1		浅草区						
075	小嶋町	家主六左衛門	1		浅草区						
076	小嶋町	こう助	1		浅草区						
077	小嶋町	指屋清右衛門	1		浅草区						
078	小嶋町	升屋源六	1		浅草区						
079	山徒じ之三又	堀屋辰吉	1		不明						
080	みのわ町(三之輪町)	内殿坊	1		下谷区						
081	みのわ町(三之輪町)	海老屋利右衛門	1		下谷区						
082	みのわ町(三之輪町)	万字辰次助	1		下谷区						
083	みし間門前(三島西蔵院門前)	中屋作兵衛	1		浅草区						

掲載順	配札地	信徒名	人数	宿数	該当国郡区	A	B	D	E	F	G
084	くろ舟町かや寺 門前 (黒船町)	霧坂四郎三郎	1		浅草区						
085	くろ舟町大ち (黒船町)	柳屋登次郎	1		浅草区						
086	くろ舟町黒船町	たず兵衛	1		浅草区						
087	くろ舟町 (黒船町)	泉屋重兵衛・た七	2		浅草区						
088	もとさくらだ塚山偏中 森 (外桜田町〔上 辰敷])	御家老都木 (ツツキ) 成右衛門	1		麹町区						
089	吉原中 町	松原与兵衛	1		浅草区						
090	吉原中 町	中 村屋庄次郎	1		浅草区						
091	吉原中 町	近江屋嘉兵衛	1		浅草区						
092	吉原中 町	須崎屋久三郎殿 須崎屋久兵衛	1		浅草区						
093	吉原中 町	巴辰半七	1		浅草区						
094	吉原中 町	中 川屋久右衛門	1		浅草区						
095	吉原中 町	長崎屋小兵治	1		浅草区						
096	吉原中 町	伊勢屋長右衛門	1		浅草区	1●	1●				
097	吉原中 町	伊勢 辰次兵衛	1		浅草区		1●				
098	吉原中 町	松原屋半治郎	1		浅草区						
099④	吉原中 町	巴辰仁兵衛●	1		浅草区						
1 00	吉原中 町	かわ辰庄兵衛	1		浅草区						
101	吉原大門	ますた辰半二郎	1		浅草区						
102	吉原中 町	若松屋孝助	1		浅草区						
1 03	吉原中 町	近江屋八兵衛	1		浅草区		1●				
1 04	吉原中 町	豊乾右衛門	1		浅草区						
105	吉原中 町	藤原兵衛	1		浅草区						
106	吉原中 町	松原庄兵衛	1		浅草区		1●				
107	吉原中 の町	根本屋喜兵次	1		浅草区						
108	吉原中 町	才頭辰伊右衛門	1		浅草区						
109	吉原中 町	海老屋新九郎	1		浅草区						
110	吉原中 町	海老屋源三郎	1		浅草区						
111	吉原中 町	万字屋与左衛門	1		浅草区						
112	吉原中 町	堺! 嘉右衛門	1		浅草区	1●	1●				
1 13⑤	吉原中 町	会所四郎兵衛●	1		浅草区				1●	1●	1●
114	吉原中 町	伊 藤久兵衛	1		浅草区	1●	1●				
115	吉原中 町	兼原喜兵衛	1		浅草区						
116	吉 原中 町	伊勢屋八五郎	1		浅草区						
117	吉原中 町	真原清七	1		浅草区						
118	吉原中 町	若狭屋半四郎	1		浅草区						
119	吉原中 町	万字屋冠居所	1		浅草区						
120	吉原中 町	万字屋与左右衛門	1		浅草区						
121	吉原中 町	萬原太兵衛	1		浅草区			1●	1●	1●	
122	吉原中 町	伊勢屋惣兵衛	1		浅草区						
123	吉原中 町	伊勢屋半三郎	1		浅草区						
124	吉原中 町	尾張屋五兵衛	1		浅草区			1●	1●	1●	
125	吉原中 町	住吉屋庄兵衛	1		浅草区						
126	吉原中 町	松本屋五兵衛	1		浅草区						
127	吉原中 町	丁ふ辰長五郎	1		浅草区						
128	吉原中 町	万原伊兵衛	1		浅草区						
1 29	吉原中 町	吉貝辰伊兵衛	1		浅草区						
1 30	吉原中 町	住吉屋庄三	1		浅草区						
131	吉原中 町	桐原屋平四郎	1		浅草区						
1 32	吉原中 町	井筒 孫藏	1		浅草区						
133⑥	吉原中 町	升屋七右衛門●	1		浅草区				1●	1●	1●
1 34⑥	吉原中 町	升屋右 四●	0		浅草区				0●	0●	0●
135	吉原中 町	萬原辰兵衛	1		浅草区						
1 36⑦	吉原中 町	近江屋権兵衛●	1		浅草区						
137	吉原中 町	露宮太夫	1		浅草区						
138	吉原中 町	一中 太夫	1		浅草区						
139	吉原中 町	金太夫	1		浅草区						
140	吉原中 町	伊豆辰孫四郎	1		浅草区						
141	吉原湯屋町	碓城屋善兵衛	1		浅草区	1●	1●				
142	吉原 湯屋町	碓城屋善四郎	1		浅草区						
143	吉原湯屋町	巴屋源兵衛	1		浅草区						
144	吉原中 の町	和泉原与市	1		浅草区		1●				
145	吉原中 の町	井筒屋茂兵衛	1		浅草区						
146	吉原中 の町	伊勢屋善兵次	1		浅草区		1●				
1 47	吉原中 の町	尾張屋七郎兵衛	1		浅草区						
148	吉原中 の町	現金屋弥栄	1		浅草区						
149	吉原中 の町	山形屋忠治郎	1		浅草区						
150	吉原中 の町	萬原辰右衛門	1		浅草区		1●				
151	吉原中 の町	永楽屋伊兵衛	1		浅草区					1○	1○
152	吉原中 の町	菊屋丞兵衛	1		浅草区						
153	吉原角町	山口辰与兵衛	1		浅草区						
154	吉原角町	大黒辰久四郎	1		浅草区						
155	吉原角町	茗荷屋善右衛門	1		浅草区						
156	吉原角町	萬原五兵衛	1		浅草区						
1 57	吉原角 町	四ツ目屋権兵衛	1		浅草区		1●				
1 58	吉原角 町	万字辰長八	1		浅草区		1●				
159	吉原角町	万字屋治郎兵衛	1		浅草区						
160	吉原角 町	近江屋善二郎	1		浅草区						
161	吉原角 町	太田屋善右衛門	1		浅草区						
162	吉原角町	布川辰惣八	1		浅草区						
163	吉原江戸町	万字屋善兵衛	1		浅草区		1●				
164	吉原江戸町	尾布辰仁左衛門	1		浅草区						
1 65	吉原江戸町	万字辰右衛門	1		浅草区						
1 66	吉原江戸町	万字辰与市	1		浅草区						
167	吉原江戸町	万字辰長八	1		浅草区		1●				
168	吉原江戸町	すさき辰半兵衛	1		浅草区						
1 69	吉原江戸町	海老屋吉兵衛	1		浅草区						
170	吉原江戸町	松原屋半左衛門	1		浅草区						
171	吉原江戸町	かいばみ屋左兵治	1		浅草区						
172	吉原新町	髪結屋右衛門	1		浅草区						

掲載順	祀礼地	信徒名	人数	宿数	該当国郡区	A	B	D	E	F	G
173	吉原新町	木村屋善八	1		浅草区						
174	吉原新町	丸屋藤助	1		浅草区						
175	吉原新町	萬屋久右衛門	1		浅草区						
176	吉原新町	桐萬屋権兵衛	1		浅草区						
177	吉原新町	班前屋喜兵衛	1		浅草区						
178	吉原新町	足袋屋吉右衛門	1		浅草区						
179	吉原新町	正月屋市左衛門	1		浅草区						
180	吉原新町2丁目	名主佐兵衛	1		浅草区						
181	吉原新町2丁目	桐屋庄次郎	1		浅草区						
182	吉原新町2丁目	家田屋太左衛門	1		浅草区						
183	吉原新町2丁目	丁ふ屋長十郎	1		浅草区						
184	吉原京町	接交屋半左衛門	1		浅草区						
185	吉原京町	伊勢屋甚左衛門	1		浅草区						
186	吉原京町	鈴木屋太左衛門	1		浅草区	1●	1●				
187	吉原京町	三浦屋四郎左衛門	1		浅草区						
188	吉原京町	丁ふ屋隠居	1		浅草区						
189(5)	吉原中町	会所四郎兵衛●	0		浅草区				0●	0●	0●
190(4)	吉原中町	巴屋仁兵衛●	0		浅草区						
191	吉原中町	和泉屋孫次郎	1		浅草区						
192(7)	吉原中町	近江屋権兵衛●	0		浅草区						
193	神田と嶋町3丁目め(豊島町)	後藤久志	1		神田区						
194	やげんぼり(茶研堀町)	柳屋武兵衛	1		日本橋区						
195	志んさかな町(新谷町)	中屋与四郎	1		京橋区						
196	志んさかな町(新谷町)	中嶋八右衛門	1		京橋区						
197	お老し中寿	金屋ひん天	1		不明						
198	新宿(内藤新宿)	こしや	1		両豊島郡						
199(8)	新宿(内藤新宿)	伊勢屋善兵衛●	1		両豊島郡						
200(9)	新宿下之町(内藤新宿下町)	太右衛門●	1		両豊島郡						
201	新宿下之町(内藤新宿下町)	鳴子利左衛門	1		両豊島郡						
202	新宿下之町(内藤新宿下町)	権兵衛	1		両豊島郡						
203	堀江町1丁目	中村屋善右衛門	1		日本橋区						
204	堀江町2丁目	常陸屋五郎八	1		日本橋区		1●				
205	堀江町1丁目	谷木繁之助	1		日本橋区						
206	高砂町橋店	大和屋平兵衛	1		日本橋区						
207	高砂町	石見屋喜右衛門	1		日本橋区						
208	新才木町(新材木町)	伊勢屋伊兵衛	1		日本橋区		1●				
209	ふきや丁かし(養慶町)	山田屋武兵衛	1		日本橋区						
210	ふきや丁かし(養慶町)	鯉屋吉三郎	1		日本橋区						
211	大坂丁(大坂町)	小笠原右衛門	1		日本橋区						
212	大坂丁(大坂町)	市村羽左衛門	1		日本橋区						
213	大坂丁(大坂町)	住吉屋平右衛門	1		日本橋区						
214	大坂丁(大坂町)	梅屋弥兵衛	1		日本橋区						
215	大坂丁(大坂町)	物屋権兵衛	1		日本橋区						
216	大坂丁(大坂町)	源次郎 八百屋七郎次	1		日本橋区						
217	さかい丁(堺町)	仲屋長右衛門	1		日本橋区						
218	さかい丁 仲屋かし 住吉町源辰たな(堺町)	仲屋半七	1		日本橋区	1●	1●				
219	さかい丁(堺町)	清水屋三四郎	1		日本橋区	1●	1●				
220	さかい丁(堺町)	鯉屋長十郎	1		日本橋区						
221	さかい丁 阿たらし橋 米屋(堺町)	三河屋半七	1		日本橋区						
222	さかい丁(堺町)	箱山安兵衛	1		日本橋区		1●				
223	さかい丁(堺町)	和泉屋勘十郎	1		日本橋区		1●				
224	伊勢町	内田桑四郎	1		日本橋区						
225	老漢丁(浜町)	今一衛門	1		日本橋区						
226	いつみ丁(和泉町)	勘助	1		日本橋区						
227	いつみ丁新屋(和泉町)	五郎	1		日本橋区						
228	高砂町角	ひさの屋安右衛門	1		日本橋区		1●				
229(0)	通つ徒いかし(難河岸)	赤金半兵衛●	1		日本橋区	1●	1●				
230(0)	通つ徒いかし(難河岸)	赤金屋半兵衛●	0		日本橋区	0●	0●				
231	通つ徒いかし(難河岸)	吉田屋隠居	1		日本橋区		1●				
232	通油町新道	伊勢屋十兵衛	1		日本橋区						
233	本石町1丁目	土屋源三郎	1		日本橋区		1●				
234	大伝馬町2丁目	板屋与兵衛	1		日本橋区	1●	1●				
235	小伝馬町3丁目橋丁	伊勢屋文次郎	1		京橋区						
236	小伝馬町3丁目	赤金屋半兵衛	1		京橋区						
237	小伝馬町1丁目	上総屋藤兵衛	1		京橋区						
238	日本老しひ良松町(平松町)	豊屋藤兵衛	1		日本橋区						
239	日本橋小田原町	ふつと屋加兵衛	1		日本橋区	1○	1○				
240	日本橋小田原町	三九郎	1		日本橋区						
241	日本橋安針町	金子吉六	1		日本橋区						
242	日本橋西かし(西河岸町)	粟田屋喜四郎	1		日本橋区						
243	日本橋北さや丁(北新町)	中川兵四郎	1		日本橋区						
244	小船町1丁目(小舟町)	村田治兵衛	1		日本橋区						
245	日本橋西川岸(西河岸町)	中川次郎兵衛	1		日本橋区						
246	茶場丁坂本(坂本町)	中川兵衛	1		日本橋区						
247	八丁堀	本目又次郎	1		京橋区						
248	八丁堀	本目善内	1		京橋区						
249	小田原町	貝野屋喜十	1		日本橋区						
250	中若し上松丁(中橋上松町)	池田屋左衛門	1		京橋区						
251	中橋当橋町	家主 勘兵衛	1		京橋区						
252	中橋当橋町	与三郎	1		京橋区						
253	京橋銀座1丁目	志徳屋藤兵衛	1		京橋区						
254	京橋天馬町新道(南伝馬町)	中川加兵衛	1		京橋区						
255	京橋	大工作兵衛	1		京橋区						
256	京橋弓町	大工 喜兵衛	1		京橋区						
257	京橋弓町	刀屋 藤人	1		京橋区						
258	京橋弓町北橋丁市兵衛店	大工長右衛門	1		京橋区						
259	春きや町(数寄屋町)	大工由兵衛	1		日本橋区						
260	山王路じ(山王町)	桶屋全左衛門	1		京橋区		1●				
261	加賀町	釜倉屋弥兵衛	1		京橋区						

招載順	配札地	信徒名	人数	宿数	該当国郡区	A	B	D	E	F	G
262	加賀町	松本又兵衛	1		京橋区						
263	幸橋二廻町	島屋清兵衛	1		芝区	1	0				
264	幸橋二廻町	桶屋清兵衛	1		芝区						
265	銀座2町	とこ山	1		京橋区						
266	銀座2町	なかつ	1		京橋区						
267	銀座2町	若井忠助	1		京橋区						
268	銀座2町	ぬけ百蔵	1		京橋区						
269	銀座2町	おわん屋孫四郎	1		京橋区						
270	尾町春さや町4丁目(数寄屋町)	大 工利八	1		日本橋区						
271	木挽町4丁目広小路	若井源兵衛	1		京橋区		1	0		1	1
272	木挽町3丁目	和泉屋利助	1		京橋区						
273	木挽町3丁目	大坂屋半次郎	1		京橋区						
274	木挽町3丁目 き志や家角	三輪仁兵衛	1		京橋区						
275	小1丁目(木挽町)	大 之屋源右衛門	1		京橋区						
276	木挽町3丁目	喜兵衛	1		京橋区						
277	木挽町3丁目	紀伊屋新又七	1		京橋区	1	1	0			
278(3)	木挽町田沼様御屋敷(上屋敷)	桜井新十郎	0		京橋区						
279	木挽町5丁目	森田勘弥	1		京橋区						
280	木挽町2丁目	河内屋八郎兵衛	1		京橋区						
281	木挽町2丁目	河内屋又左衛門	1		京橋区						
282	木挽町6丁目	近江屋又七	1		京橋区						
283	木挽町7丁目	三河屋常右衛門	1		京橋区		1	0			
284	尾張町	飯屋藤兵衛	1		京橋区						
285	尾張町新道	籠屋口(1字親蔵)兵衛	1		京橋区						
286	中者し おけ町(福町)	籠屋藤七	1		京橋区						
287	尾張町	丹屋嘉右衛門	1		京橋区						
288	尾張町	大工太郎兵衛	1		京橋区						
289	尾張町新道	ひな屋庄助	1		京橋区						
290	三十間堀新道	指物屋全十郎	1		京橋区						
291	八丁堀中の橋辺り	大坂 屋郎兵衛	1		京橋区						
292	桑地民部卿御屋敷	我沢せん之丞	1		京橋区						
293	四ツ谷越込	与九郎	1		四谷区						
294	北八丁堀同崎町	森小弥太	1		京橋区						
295	北八丁堀同崎町	藤崎屋	1		京橋区						
296	芝くがい丁 芝六月町新道二而	湯屋 平野屋喜十郎	1		芝区						
297	芝口	糸屋弥兵衛	1		芝区						
298	芝口	鳥羽屋辰兵衛	1		芝区						
299	芝口	ふるや万蔵	1		芝区						
300	芝口	提灯屋安兵衛	1		芝区						
301	芝口	宮やけ善蔵	1		芝区						
302	芝口	あひ平太夫	1		芝区						
303	芝口	車屋勤兵衛	1		芝区						
304	芝者まつ3丁目(浜松町)	ひさし屋五郎兵衛	1		芝区						
305	芝口	万屋左兵衛	1		芝区						
306	芝口	万屋伊兵衛	1		芝区						
307	善右衛門町	伊勢屋平七	1		芝区						
308(0)	善右衛門町3丁目	松坂屋吉右衛門	1		芝区						
309(0)	善右衛門町3丁目	松坂屋吉右衛門	0		芝区						
310	芝源助町	増田屋又右衛門	1		芝区						
311	芝露月町	兼物屋四郎兵衛	1		芝区						
312	芝得盛殿橋キハ	八王子屋弥兵衛	1		芝区						
313	本芝2丁目	伊勢屋文右衛門	1		芝区						
314	三田芝たかのわ	三田屋久兵衛	1		芝区						
315(0)	芝金形さかみ根うら門前	浅草屋忠右衛門	1		芝区						
316(0)	芝金形	浅草屋忠右衛門	0		芝区						
317(0)	芝金形	浅草屋忠右衛門	0		芝区						
318	芝金形	山崎屋三右衛門	1		芝区						
319	御蔵3丁目 西久保城山 芝ふたば町(二葉町)	伊勢屋藤右衛門	1		芝区						
320	芝高ヶ輪(高輪)	がんぎつる屋十蔵	1		芝区						
321	西久保四つじ御蔵町 泉覚寺門前	みの屋奥右衛門	1		芝区		1	0			
322(0)	西保四ツ辻江入(西久保町) 蔵町3丁目	大 羅兵衛	1		芝区						
323	芝二本榎高野寺	大 工源兵衛	1		芝区						
324(0)	西保四ツ辻江入(西久保町) 蔵町3丁目	大 屋藤兵衛	0		芝区						
325	大 井村	市船源左衛門	1		荏原郡		1	0			
326	大 井村	三五郎	1		荏原郡			1	0		
327	大 井村	柴崎次郎右衛門	1		荏原郡						
328	北品川(北品川宿)	百姓長次郎	1		荏原郡						
329	法禪寺門前	八兵衛	1		荏原郡			1	0		
330	南品川天王宮門前	百姓治郎右衛門	1		荏原郡						
331	御林町2丁目 越前屋	吉田又三郎	1		荏原郡		1	0			
332	御林町2丁目 かや寺門前	又吉	1		荏原郡						
333	御林町2丁目	越前屋十次郎	1		荏原郡						
334	御林町2丁目	米屋十右衛門	1		荏原郡						
335	御林町4丁目	神山市郎左衛門	1		荏原郡		1	0			
336	御林町4丁目 神山市良左衛門かど	甚八	1		荏原郡						
337	御林町4丁目 志やり屋	大 船彦兵衛	1		荏原郡			1	0		
338	御林町5丁目 かんや寺町	越前屋平十(平右衛門)	1		荏原郡						
339(0)	御林町6丁目	吉田半兵衛	1		荏原郡		1	0			
340	御林町6丁目	米屋長右衛門	1		荏原郡		1	0			
341(0)	御林町6丁目	吉田半兵衛	0		荏原郡		0	0			
342	御林町6丁目	さかな屋吉兵衛	1		荏原郡						
343	御林町6丁目	小池五兵衛	1		荏原郡		1	0			
344	品川浜かわ(品川浜川)	吉田武兵衛	1		荏原郡		1	0			
345	品川浜かわ(品川浜川)	五平治	1		荏原郡		1	0			
346	品川浜かわ(品川浜川)	五郎兵衛	1		荏原郡		1	0			
347	茅場丁坂本(坂本町)	中田半助	1		日本橋区						
348	茅場丁坂本(坂本町)	与七	1		日本橋区						
349	神田お澤け橋丁	伊勢屋六兵衛	1		神田区						
350	四つや越	辻与九郎	1		四谷区						

掲載順	祀札地	信徒名	人数	宿数	該当国郡区	A	B	D	E	F	G
351	四 つや越	辻又八郎	1		四 谷区						
352	本郷	末吉三童郎	1		本郷区						
353	本郷	辻文一郎	1		本郷区						
354	本郷本五つけ店	坂船祖右衛門	1		本郷区						
355	本郷	四がら半右衛門	1		本郷区						
356	青山いも坂	坂田祐蔵	1		赤坂区						
357	青山牛込さかなたな (牛込寄店)	中升孫四郎	1		牛込区						
358	青山牛込さかなたな (牛込寄店)	巻数屋 末吉五兵衛	1		牛込区						
359	青山牛込さかなたな (牛込寄店)	小林市左衛門	1		牛込区						
360	青山牛込さかなたな (牛込寄店)	中井大治郎	1		牛込区						
361	青山富坂	寛川清治郎	1		赤坂区						
362	湯嶋天神中坂	猶原五左衛門	1		本郷区						
363	湯嶋天神中坂 ゆや	松尾七郎兵衛	1		本郷区						
364	湯島天神三組町	三河辰助兵衛	1		本郷区	1●	1●				
365	湯島天神三組町	伊勢 康兵衛	1		本郷区						
366	牛込あいきやういなり前	伊勢屋伊兵衛	1		牛込区						
367	牛込さかな店 (牛込寄店)	万屋仁兵衛	1		牛込区	1●	1●				
368	牛込さかな店 た香こや (牛込寄店)	中村八十右衛門	1		牛込区		1●				
369	牛込山ふし町 (牛込山伏町)	大原四郎右衛門	1		牛込区						
370	牛込福路町 (牛込袋町)	三河辰助兵衛	1		牛込区						
371⑤	牛込水清町	丸屋平助●	1		牛込区	1●	1○				
372	牛込通寺町	小泉屋善八	1		牛込区						
373	長崎村	長右衛門	1		北豊島郡						
374	小島町やなぎ町	松平備前敷内長八	1		不明						
375	天徳院門前七軒町	万屋権十郎	1		牛込区	1●	1●				
376	松かい丁新町 (松賀町)	万屋 深川いし八源右衛門	1		深川区						
377⑤	牛込水戸川 (水道町)	丸屋平助●	0		牛込区	0●	0○				
378	小石川こたん春町 (御車寄町)	丸屋六兵衛	1		小石川区						
379	おがわ町 (小川町)	田地三源反	1		神田区						
380	おがわ町いな里 (小川町)	丸屋林右衛門	1		神田区						
381	おがわ町 (小川町)	海野左門	1		神田区						
382	安藤下や敷と甲	岡村才平	1		不明						
383	小石川伝通院前	駿河屋善兵衛	1		小石川区	1●	1●				
384	榎森水	川越屋勘右衛門	1		小石川区	1●	1●				
385	榎森水	坂い戻た七	1		小石川区						
386	小石川大塚町	木崎屋善兵衛	1		小石川区						
387	小石川大塚町	三河屋源兵衛	1		小石川区	1●	1●				
388	小石川大塚町	中嶋屋次兵衛	1		小石川区		1●				
389	てんぼず いなりパー	中屋清吉	1		京橋区						
390	穴八幡前	又兵衛	1		牛込区						
391	高向高場	三河辰吉兵衛	1		牛込区						
392	高向高場	山城屋左右衛門	1		牛込区						
393	高向高場	藤四郎	1		牛込区						
394	高向高 場下町	甲州屋市右衛門	1		牛込区					1●	
395	高向高 場下町	無藤仁右衛門	1		牛込区						
396	高向高 場下町	無藤勢右衛門	1		牛込区						
397	高向高 場下町	採消判読不能	1		牛込区						
398	高向高 場下町	桑名屋全兵衛	1		牛込区						
399	三百坂越	矢野庄太夫	1		小石川						
400	三百坂越 水戸藩守録御屋敷 (松平頼済の上屋敷)	小松原仲右衛門	1		小石川						
401	穴八幡下戸塚村	岡田圭水	1		南豊島郡						
402	穴八幡下戸塚村	無藤善右衛門	1		南豊島郡						
403	穴八幡下戸塚村	無藤次兵衛	1		南豊島郡						
404	穴八幡下戸塚村	久四郎	1		南豊島郡	1●	1●				
405	穴八幡下戸塚村	勘右衛門	1		南豊島郡		1●				
406	穴八幡下戸塚村	善兵衛	1		南豊島郡		1●				
407	下戸塚村	万屋新兵衛	1		南豊島郡		1●				
408	四 ツ谷法蔵寺前	辰根屋文右衛門	1		四 谷区						
409	四 ツ谷橋町1丁目	谷田屋四郎兵衛	1		四 谷区				1○	1○	
410	四 ツ谷伝馬町1丁目	高嶋源右衛門	1		四 谷区						
411	四 ツ谷伝馬町1丁目	森屋孫八	1		四 谷区						
412	四 ツ谷橋町1丁目	富山屋小左衛門	1		四 谷区						
413	四 ツ谷橋町1丁目	勝山久兵衛	1		四 谷区						
414	四 ツ谷橋町3丁目	松原屋半兵衛	1		四 谷区	1●	1●				
415	四 ツ谷橋町3丁目	京州屋伊左衛門	1		四 谷区						
416	四 ツ谷橋町3丁目	岩井友七	1		四 谷区						
417	四 ツ谷橋町3丁目	大坂屋善兵衛	1		四 谷区						
418	四 ツ谷市谷七軒町	吉野屋佐兵衛	1		四 谷区	1○	1●				
419	四 ツ谷市谷七軒町	辰根屋善兵衛	1		四 谷区						
420	四 ツ谷市谷七軒町下	菊屋久兵衛	1		四 谷区						
421	四 ツ谷市谷七軒町下	大工源四郎	1		四 谷区						
422	四 ツ谷市谷七軒町下	苗屋善五郎	1		四 谷区						
423	四 ツ谷市谷七軒町下	吉田屋善兵衛	1		四 谷区						
424	四 ツ谷竹町	三田屋佐兵衛	1		四 谷区						
425	四 ツ谷北町 (伊賀町)	伊勢屋こう兵衛	1		四 谷区						
426	四 谷大蔵 府中町	吉村平七郎	1		四 谷区						
427	四 谷大蔵 府中町	千葉重太郎	1		四 谷区						
428	寛井村	十右衛門	1		北多摩郡						
429	小金井村	儀右衛門	1		北多摩郡						
430	四 ツ谷内藤新宿	惣七 兼仲兵衛	1		南 豊島郡		1●				
431	四 ツ谷内藤新宿	河原源兵衛	1		南豊島郡						
432	四 ツ谷内藤新宿	伊勢屋吉右衛門	1		南豊島郡						
433	四 ツ谷内藤新宿	浜 藤次兵衛	1		南豊島郡		1○				
434	内藤新宿	樽物屋忠兵衛	1		南豊島郡		1●				
435	内藤新宿	松原孫右衛門	1		南豊島郡		1●				
436	内藤新宿	長兵衛	1		南豊島郡		1●				
437	内藤新宿	次兵衛	1		南豊島郡		1●				
438	内藤新宿	季助	1		南豊島郡		1●				
439	千田ヶ谷 (千駄ヶ谷村)	若狭屋市右衛門	1		南豊島郡						

掲載順	祀札地	信徒名	人数	宿数	該当国郡区	A	B	D	E	F	G
440	千田ヶ谷新 辰敷(千駄ヶ谷村)	大森大助	1		両豊島郡						
4 41	芝田町4丁目	中田屋小右衛門	1		芝区						
442	芝金 杉加たはらまち4丁目	上総辰彦右衛門	1		芝区						
443	なるこ	加嶋辰半兵衛	1		四谷区	1	1				
444	なるこ	海老屋茂左衛門	1		四谷区	1	1				
445	なるこ	田中権左衛門	1		四谷区	1					
446	なるこ	中野 藤兵衛	1		四谷区						
447	なるこ	町田辰清兵衛	1		四谷区						
448(8)	新宿(内藤 新宿)	伊勢 辰吉兵衛	0		両豊島郡						
449	新宿(内藤 新宿)	こーや	1		両豊島郡						
450(9)	新宿下之町(内藤 新宿下町)	太右衛門	0		両豊島郡						
451	なるこ	利左衛門	1		四谷区						
452	なるこ	権兵衛	1		四谷区						
453	あたご山 下(愛 宕山下)	ひなた当安	1		芝区						
454	紀州御敷之内	かはた半兵衛	1		不明						
455	外桜田	坂倉美濃 守 浦尾	1		麹町区						
456	二本榎	松平大和守 岩井	1		芝区						
457	二本榎	松平大和守 相泉	1		芝区						
458(0)	本所口 □ 2字雑談) 徒町	駒井善三郎	1		本所区						
459	あを山ごんだわら町(寄山 権田原町)	おくぼ左吉	1		赤坂区						
460(3)	西 保かじ(西 久保町)	大家 藤兵衛	0		芝区						
461	松平下総守(松平忠刻)	松平下総守	1		不明						
462	松平下総守(松平忠刻)	家 老生田園雲	1		不明						
463	松平下総守(松平忠刻)	黒屋宗太夫	1		不明						
464	松平下総守(松平忠刻)	白木三太夫	1		不明						
465	松平下総守(松平忠刻)	藤田七兵衛	1		不明						
466	ないとび 前守様御敷	遠山 次兵衛	1		不明						
467(7)	ないと飛 前之守	川名	0		麻 布区						
468	麻 蔵敷町	大坂屋市右衛門	1		麻 布区						
469(7)	麻 布蔵敷町	川名 伝右衛門	0		麻 布区						
470	麻布蔵敷町	川名 伊右衛門	1		麻 布区						
471	麻布蔵敷町	小出 伊藤 辰	1		麻 布区						
472	麻布蔵敷町	泉	1		麻 布区						
473	麻 蔵敷町	法泉	1		麻布区						
474	麻 蔵敷町	法泉 妻いね	1		麻 布区						
475	麻 鳩六本木	内藤備 後守	1		麻 布区						
476(7)	内藤 尾前守御敷内	河名 伝右衛門	1		麻 布区						
477	麻 布蔵 1戸町(藤土町)	相模屋辰兵衛	1		麻布区	1	1				
478	□□(2字雑談) 宮松町	こんにやく屋三郎	1		不明						
479(0)	本所口□□(2字雑談) 徒町	駒井善三郎	0		本所区						
480	本所口 □□(2字雑談) 徒町	神山忠兵衛	1		本所区						
481	富田町(本所富田町)	かま嶋辰三郎兵衛	1		本所区						
482	菊川14丁目	山 孫郎助	1		本所区	1					
483	右衛門様御屋敷	小笠 頼左衛門	1		不明						
484	右衛門様御屋敷	東城弥助	1		不明						
485	松平阿波守様(蜂須賀千松丸) 御家中	桜木代右衛門(蜂須賀千松丸家 臣)	1		不明		1				
486	松平本田さいの守様御敷	かかみの 士与助	1		不明						
487	松平本田 徳の守様御敷	北村吉重	1		不明						
488	鉄砲舟松丁(鉄砲洲船松町)	三河屋伊左衛門	1		京橋区	1	1				
489	雲岸嶋長崎町	中屋助四郎	1		京橋区						
490	嶋嶋(嶋島町)	松 辰七郎兵衛	1		日本橋区	1	1				
491	雲岸嶋町角といやの 前	中沢藤兵衛	1		京橋区				1	1	
492	雲岸嶋町角といやの 前	石橋屋善兵衛	1		京橋区	1	1				
493	大 川端	天沼屋三郎兵衛	1		京橋区		1				
494	ふか川くまい町おふほり(深川煎 井町大塚)	大坂屋權四郎	1		深川区						
495	ふか川くまい町おふほり(深川煎 井町大塚)	山 辰半 兵衛	1		深川区						
496	深川さか町(深川佐 賀町)	内田喜七	1		深川区						
497	今川町子代かし	与八	1		深川区						
498	海辺大工町	大工清助	1		深川1区						
499	あさくさ霊妙寺	村田伊兵衛	1		浅草区						
500	日本橋3丁目	五兵衛店	1		日本橋区						
501	日本橋3丁目	柳屋重右衛門	1		日本橋区						
502	日本橋3丁目	さかな屋平兵衛	1		日本橋区						
503	日本橋3丁目	泉屋原右衛門	1		日本橋区						
504	日本橋3丁目	万屋か七	1		日本橋区						
505(0)	比ら松町(平町町)	田舎辰左七	1		日本 橋区						
506	日本橋町	駿河屋半兵衛	1		日本橋区						
5 07	日本橋町	足袋屋平次郎	1		日本橋区						
508	かやば町 さか本町(坂本町)	下坂市之丞	1		日本橋区						
509	村松町2丁目たばこ屋	清水た一	1		日本橋区						
510	かやば町(茶場町)	網屋三重郎	1		京橋区			1		1	
511	運かん志ま 雲岸嶋	坂本茂兵衛	1		京橋区						
512	雲岸嶋新道	原祐栄木	1		京橋区						
513	松平運之助様御下屋敷 広尾禅宗寺前	安住弥兵衛	1		麻 布区						
514	日本橋裏町	長やく重右衛門	1		日本橋区						
515(0)	日本橋2町	田全屋辰七	0		日本橋区						
516	日本橋4町目 三春やの うら	住吉辰千助	1		日本橋区						
517	岩崎町(岩 倉町)	とくら辰喜兵衛	1		日本橋区						
518	尾州町ふなきたな(尾 張町)	大工利八	1		京橋区						
519	尾州町三十けんぼり新道通り(尾 張町)	深辺丹吉	1		京橋区					1	1
520	さないこまつ 町(左内小松町)	家主左七	1		日本橋区						
			500	0		45	92	4	4	13	8

凡例

本表は、史料Cの本文を解説し、その内容をデータベース化したものである。さらには史料Cに掲載された全信徒の、史料A・史料B、史料D～史料Gに対する掲載の有無を示したものである。表中、掲載順の項目の丸で囲った番号は同一人物を示すものである。その際、同番号は同一人物を示す。信徒名の項目の「●」印は本文中において同一人物が見られる場合を示す。史料A・史料B、史料D～史料Gの項目の「●」印は、史料Cに記載された信徒が同一名及び同一住所で史料A・史料B、史料D～史料Gに見られる場合を示す。史料A・史料B、史料D～史料Gの項目の「○」印は、史料Cに記載された信徒が代替わりや転居で、同一名であるが住所は異なる、あるいは住所が一致し姓や屋号も一致するが代替わりや転居で名前が異なる場合などを示す。

第3表 史料D (文化11年) の内容

掲載順	信徒住所	信徒名	人数	尚	分	宗	文	正	香銅 (正)	(香銅 銅)	(白布 反)	(白銀 枚)	(烏目)	南高 (片)	(備考)
001	池之端仲町	野田屋四郎兵衛	1	5											
002		岩井源兵衛	1												
003		片岡三郎兵衛	1	10											
004	霧岸崎町	中江源兵衛	1												
005	本村末町3丁目	嶋屋平八	1												
006△		大坂屋平三郎	1								5				成年、内三反上ル
007		ふじ	1								10				成年三上ル
008		大坂屋むいね	1								3				成年同断
009		大坂屋 よし	1						20		数無				成年、當領寺十疋上
010		山崎屋佐七	1								5				成年、三反上ル
011		早州屋喜兵衛	1						10						
012	日本橋新右衛門町	前川六左衛門	1								5				成年上ル
013		前川六左衛門 やす	1								5				
014		米屋八兵衛	1								3				
015		米屋八兵衛 とと	1								1				成年、巻反上ル
016		若田屋又右衛門	1	5											成年、内三反上ル
017		若田屋又右衛門内 か	1								数無				
018	日本橋通3丁目	若原次郎	1					100							成年上ル
019		大森大三郎	1								1				成年上ル
020		高嶋孫右衛門	1								5				成年、内三反上ル
021		藤田藤左衛門	1												
022	神田三川町1丁目	丸屋伊兵衛	1								1				成年、巻反上ル
023	同(神田三川)朝一 橋久右衛門町蔵地	丸屋伊助	1					200							成年上ル
024		庄内屋全兵衛	1						500						
025		河野長十郎	1								2				成年上ル
026		河野長十郎 母	1								1				成年、巻反上ル
027		河野吉五郎	1								1				成年、巻反上ル
028		河野吉五郎 妻	1								1				同断
029		河野吉五郎 娘	1								1				同断
030		河野長十郎家栄 大 坂清兵衛	1								1				同断
031		小山供養	1								1				同断
032	由国元町	阿本屋定兵衛	1					100							成年上ル
033	日本橋南油町	若村重吉	1					100							成年上ル
034		若村重吉 母	1					100							成年、内巻反上ル
035		若村重吉内 やす	1								数無				
036		中野山四郎	1					100							
037		花屋三十郎	1					100							成年上ル
038		花屋三十郎 母	1								1				同断
039		花屋三十郎 ばし	1					100							同断
040		和家屋七郎兵衛	1					200							同断
041		もん	1					100							同断
042		いさ	1								1				同断
043		田中伊助	1					20							同断
044		南部厚徳助	1					100							同断
045		伊勢屋長右衛門	1					100							同断
046	坂本町1丁目	長沢孝蔵	1								3				
047		長沢文蔵	1								2				
048		綱屋三十郎	1					200							成年上ル
049		綱屋三十郎家 満満	1					200							同断
050		坂本屋あき	1								2				同断
051		綱屋なつ	1												
052	浅草山谷町	山崎屋久三郎	1								5				
053		中村屋よし	1								1				成年、巻反上ル
054		藤本八右衛門	1								5				成年上ル
055		藤本麻吉	1												
056		藤本吉兵衛	1												
057		藤本ゆふ	1												
058	しんばし	中嶋屋平七	1								3				成年、巻反上ル
059		宮崎源平次	1					10							成年上ル
060		伊賀屋基右衛門	1					20							同断
061		井上八兵衛	1					20							同断
062		蒲上谷市郎	1								5				成年上ル
063		蒲上谷市郎内 惣野	1					20							同断
064		蒲上谷市郎内 於木 仲左衛門	1					20							同断
065		保し賢物	1								1				同断
066	京ばし	辻村平兵衛	1										1		成年上ル
067		大和田安兵衛	1										3		成年上ル
068		大和田安兵衛 とり	1										2		
069	西国	柳屋兵三郎	1										1		成年上ル
070		柳屋兵三郎 母	1										3		同断
071		江坂昌永	1					100							
072		江坂昌永 飛御	1												
073		江坂昌永 きせ	1												
074		堀江喜重兵衛	1					20							成年上ル
075	日本橋新右衛門町	丸岡重兵衛	1										1		同断
076	福町2丁目	信濃屋八兵衛	1						20						成年上ル
077	福町2丁目	松本茂兵衛	1						20						同断
078	を(ガ)2丁目	中村屋清五郎	1										1		同断
079	霧岸崎丁	富田屋助兵衛	1					100							同断
080	霧岸崎南新川	三河屋文七	1					100							同断
081	霧岸崎丁	若せ川真右衛門	1					100							同断
082	霧岸崎丁	加賀屋利兵衛	1					100							同断
083	新堀竹川町	石田政衛門	1								1				成年上ル
084	新堀竹川町	松本孫市	1												成年上ル
085	新堀竹川町	長沢千吉	1												成年上ル
086	銀座三丁目新屋休百 屋敷	大工松六	1					100							成年、内巻反上ル
087		常陸屋吉兵衛	1					100							成年上ル
088	深川松井町	野田屋四郎三郎	1												
089	深川菅田町	堂本兵右衛門	1								1				成年上ル
090		堂本兵右衛門	1					100							同断
091		堂本兵右衛門 理衛	1										1		同断
092		堂本忠七	1										1		同断
093		堂本忠七 妻	1												同断
094		広引や兵衛	1										1		成年上ル

掲載順	信徒住所	信徒名	人数	尚	分	米	文	疋	青銅 (正)	青銅 (銅)	白布 (反)	白銀 (枚)	鳥目	南高片	(備考)
095	紀州御屋敷	川端文之助	1												成年上ル
096	紀州御屋敷	川端文之助 妻	1												
097		川端實成	1												
098		川端實成 妻	1												
099		堀田屋忠八	1						20						成年上ル
100		和泉屋清兵衛	1							2					同断
101		伊州屋市右衛門	1							1					同断
102		鈴木孫市	1												
103		松田 母	1							1					成年上ル
104		松田 母	1							1					成年上ル
105		中村田右衛門	1					300							同断
106		村山清七	1					100							同断
107		中村まお	1												
108		中村平兵衛	1												
109		中村まぢ	1												
110		中村その	1												
111		新見権之丞	1					100							成年上ル
112		大和屋久左衛門	1							5					同断
113		大和屋久四郎	1												
114		虎屋平六	1					200							同断
115		虎屋平六 母	1					100							
116		虎屋平六 利喜	1												
117		家木弥四郎	1							2					成年上ル
118		家木弥四郎 紫山女	1							1					同断
119		大坂屋久次郎	1					100							同断
120		大坂屋久次郎 幸ひ	1								1				同断
121		伊世屋与八	1	2											同断
122		伊世屋与八 母	1					100							同断
123		湯や藤次郎	1					100							同断
124		棚田庄助	1					100							同断
125		菊屋市郎兵衛	1					100							同断
126		大沢氏	1							5					同断
127		遠州屋半蔵	1					100							成年上ル
128		千代倉次郎兵衛	1					100							成年上ル
129		玄氣屋兵衛	1					200							同断
130		播州赤堀	1						200						同断
131		鹿嶋赤堀	1										200銅		同断
132		丸屋六兵衛	1					100							同断
133		丸屋六兵衛 勝吉	1				2								同断
134		嶋池左四郎	1					200							同断
135		板上□□ (2字雑談) 衛門	1					200							同断
136		小四郎赤堀	1					200							同断
137		松兼赤堀	1					200							同断
138		藤利赤堀	1					200							成年上ル
139		□□ (2字雑談) 赤堀	1					200							同断
140		藤店赤堀	1					200							同断
141		嶋五赤堀	1					200							同断
142		山長赤堀	1					200							同断
143		阿弥赤堀	1					200							同断
144		広屋吉右衛門	1												同断
145		野田□ (1字欠損) 五郎	1					100							同断
146		野田内 あさ・さよ	2					50							同断
147		堀屋孫兵衛	1					100							同断
148		会沢七郎兵衛	1					100							成年上ル
149		□□□ (3字雑談) 喜八	1						500						同断
150	北新川	□ (1字雑談) 和兵衛	1					200							成年上ル
151		伊勢屋 (1字欠損) 兵衛	1												
152		(3字欠損) 久右衛門	1												
153		畑中五兵衛 母	1					100							成年上ル
154		宇井松寿院	1							1					
155		平井氏・安東氏・辻本氏	3												
156		吉田七兵衛	1					300							成年、一全式百疋上ル
157	上州上屋敷様・鯨頭御屋敷様	長井様	1	1	2						1				
158		初江様	1												
159		よす□ (1字雑談) 様	1												
160		福山様	1												
161		高江様	1												
162		関屋様	1												
163		住しの様	1												
164		お (二字欠損) 様	1												
165		お初様	1												
166		妙善院	1					100							
167		木村夜校	1					200							
168		木村夜校 母	1												
169	京橋新谷町	伊勢屋忠八	1					100							
170	芝口老丁目	伊勢屋与八 内	1												1
171	芝口老丁目	山田屋太郎兵衛	1												1
172	小石川	貞真	1												1
173		桑井御屋敷	1								2				
174		桑井御屋敷御典中	1					200							
			159	23	2	2	2100	6000	870	500	97	13	200	15	

第4表 宝泉坊の新吉原の檀那場を対象とした初穂集高帳（文政9年～安政元年）

集金年月日（和暦）	集金額
文政 9年（1826） 3月20日	金2分2朱と錢300文
文政10年（1827）	記載なし
文政11年（1828）	記載なし
文政12年（1829）	記載なし
文政13年（1830） 4月15日	金2分2朱と錢300文
天保 2年（1831） 7月11日	金2分2朱と錢300文
天保 3年（1832）	未集
天保 4年（1833） 6月 9日	金2分2朱
天保 5年（1834） 4月28日	金2分2朱と錢100文
天保 6年（1835）	記載なし
天保 7年（1836）	金2分2朱と錢100文
天保 8年（1837）	記載なし
天保 9年（1838）	記載なし
天保10年（1839） 4月 7日	金2分2朱と錢100文
天保11年（1840） 4月 3日	金2分2朱と錢100文
天保12年（1841） 4月11日	金2分2朱と錢100文
天保13年（1842） 4月20日	金2分2朱と錢100文
天保14年（1843）	記載なし
弘化 1年（1844）	記載なし
弘化 2年（1845） 2月24日	金2分2朱と錢100文
弘化 3年（1846）	記載なし
弘化 4年（1847）	記載なし
嘉永 1年（1848）	記載なし
嘉永 2年（1849）	記載なし
嘉永 3年（1850）	記載なし
嘉永 4年（1851） 3月27日	金200疋
嘉永 5年（1852）	金200疋
嘉永 6年（1853）	金200疋
安政 1年（1854）	金200疋

第5表 史料F (天保10年) の内容

宅数順	配札地	信徒名	人数	宿数	名主	該寺郡区	A	B	C	D	E	G
001	神谷村	長左衛門	1	1		信濃国須摩郡						
002	金 塚村	彦治郎	1			信濃国須摩郡						
003	古辰堂村 (古宿村)	半右衛門	1	1		信濃国須摩郡						
004	稲核村	和平	1			信濃国須摩郡						
005	稲核村	市右衛門	1			信濃国須摩郡						
006	稲核村	作之丞	1			信濃国須摩郡						
007	大池村	橋爪茂左衛門	1	1		信濃国須摩郡						
008	大池中村	和助	1			信濃国須摩郡						
009	大池中村	字忠太	1			信濃国須摩郡						
010	大池中村	平兵衛	1			信濃国須摩郡						
011	麻績村	越右衛門	1	1		信濃国須摩郡						
012	麻績村	次次衛門	1			信濃国須摩郡						
013	麻績村	越右衛門	1			信濃国須摩郡						
014	麻績村	王 蔵	1			信濃国須摩郡						
015	麻績村	吉蔵	1			信濃国須摩郡						
016	麻績村	白太郎	1			信濃国須摩郡						
017	麻績村	八左衛門	1			信濃国須摩郡						
018	麻績村	逸 (以下欠損)	1			信濃国須摩郡						
019	小宮部村	九郎右衛門	1			信濃国須摩郡						
020	小宮部村	徳三郎	1			信濃国須摩郡						
021	小宮部村	七右衛門	1	1		信濃国須摩郡						
022	小宮部村	七郎右衛門	1			信濃国須摩郡						
023	小宮部村	作左衛門	1			信濃国須摩郡						
024	小宮部 ⁰²⁴	徳右衛門	1			信濃国須摩郡						
025	小宮部 ⁰²⁵	市左衛門	1	1		信濃国須摩郡						
	小宮部 ⁰²⁶	庄三郎	1			信濃国須摩郡						
	小宮部 ⁰²⁷	喜左衛門	1			信濃国須摩郡						
028	小宮山村	平太夫	1	1		信濃国佐久郡						
029	入沢村	伊三次	1	1		信濃国佐久郡						
030	入沢村	長九郎	1	1		信濃国佐久郡						
031	入沢村	彦五郎	1			信濃国佐久郡						
032	入沢村	喜右衛門	1			信濃国佐久郡						
033	岩村田村	兼兵衛	1	1		信濃国佐久郡						
034	岩村田村	新五郎	1	1		信濃国佐久郡						
035	岩村田村	勇三郎	1			信濃国佐久郡						
036	岩村田村	重左衛門	1			信濃国佐久郡						
037	和田村	武右衛門	1	1		信濃国佐久郡						
038	和田村	権右衛門	1			信濃国佐久郡						
039	和田村	市右衛門	1			信濃国佐久郡						
040	和田村	重左衛門	1			信濃国佐久郡						
041	和田村	五左衛門	1			信濃国佐久郡						
042	和田村	源太夫	1			信濃国佐久郡						
043	和田村	作 (以下欠損)	1			信濃国佐久郡						
044	和田村	善 (以下欠損)	1			信濃国佐久郡						
045	和田村	孝三 (以下欠損)	1			信濃国佐久郡						
046	和田村	太郎兵衛	1			信濃国佐久郡						
047	和田村	八郎右衛門	1			信濃国佐久郡						
048	横川村	与一郎	1			上野国碓氷郡						
049	松井田宿	藤五郎	1	1		上野国碓氷郡						
050	松井田宿	同辰	1			上野国碓氷郡						
051	松井田宿	同辰	1			上野国碓氷郡						
052	郷原村	六三郎	1	1		上野国碓氷郡						
053	郷原村	お見世	1	1		上野国碓氷郡						
054	郷原村	与兵衛	1			上野国碓氷郡						
055	人見村	源兵衛	1	1		上野国碓氷郡						
056	人見村	兼吉	1			上野国碓氷郡						
057	人見村	清左衛門	1			上野国碓氷郡						
058	原村	五郎右衛門	1			上野国碓氷郡						
059	新寺村 (上磯部村)	乙次郎	1	1		上野国碓氷郡						
060	新寺村 (上磯部村)	与市	1			上野国碓氷郡						
061	新寺村 (上磯部村)	観音寺	1			上野国碓氷郡						
062	黒岩村	久米次郎	1	1		上野国甘藷郡						
063	黒岩村	頼松	1			上野国甘藷郡						
064	黒岩村	茂吉	1			上野国甘藷郡						
065	黒岩村	万吉	1			上野国碓氷郡						
066	黒岩村	乙次郎	1	1		上野国碓氷郡						
067	黒岩村	平右衛門	1			上野国碓氷郡						
068	黒岩村	佐右衛門	1			上野国碓氷郡						
069	尾崎村	喜兵衛	1			上野国碓氷郡						
070	尾崎村	幸七	1			上野国碓氷郡						
071	下磯部村	嘉右衛門	1	1		上野国碓氷郡						
072	下磯部村	宗五郎	1	1		上野国碓氷郡						
073	下磯部村	宗三郎	1	1		上野国碓氷郡						
074	下磯部村	宇兵衛	1			上野国碓氷郡						
075	下磯部村	助右衛門	1			上野国碓氷郡						
076	原市村	藤兵衛	1			上野国碓氷郡						
077	原市村	佐右衛門	1			上野国碓氷郡						
078	原市村	佐右衛門	1	1		上野国碓氷郡						
079	原市村	清五郎	1	1		上野国碓氷郡						
080	土塚村	兼助	1			上野国碓氷郡						
081	土塚村	源助	1			上野国碓氷郡						
082	土塚村	佐之助	1			上野国碓氷郡						
083	土塚村	兼八	1			上野国碓氷郡						
084	土塚村	兼八	1			上野国碓氷郡						
085	土塚村	松五郎	1			上野国碓氷郡						
086	土塚村	留八	1			上野国碓氷郡						
087	土塚村	兼太	1			上野国碓氷郡						
088	土塚村	弥太郎	1	1		上野国碓氷郡						
089	土塚村	太吉	1			上野国碓氷郡						
090	土塚村	米松	1			上野国碓氷郡						
091	土塚村	作次郎	1	1		上野国碓氷郡						
092	増田村	名主	1	1		上野国碓氷郡						
093	増田村	五郎兵衛	1	1		上野国碓氷郡						

招起順	配札地	信託名	人数	宿数	名三	該当国郡区	A	B	C	D	E	G
094	埴田村	馬兵衛	1			上野国碓氷郡						
095	埴田村	平治郎	1			上野国碓氷郡						
096	埴田村	素治郎	1			上野国碓氷郡						
097	埴田村	菊治郎	1	1		上野国碓氷郡						
098	埴田村	源次郎	1			上野国碓氷郡						
099	埴田村	安兵衛	1			上野国碓氷郡						
100	埴田村	増五郎	1			上野国碓氷郡						
101	埴田村	伊勢兵衛	1			上野国碓氷郡						
102	埴田村	徳治郎	1			上野国碓氷郡						
103	埴田村	留八	1			上野国碓氷郡						
104	埴田村	勘蔵	1			上野国碓氷郡						
105	埴田村	孫治郎	1			上野国碓氷郡						
106	水沼村	安右衛門	1	1		上野国碓氷郡						
107	岩水村(岩郡村)	半右衛門	1			上野国碓氷郡						
108	岩水村(岩郡村)	市郎右衛門	1			上野国碓氷郡						
109	岩水村(岩郡村)	市左衛門	1			上野国碓氷郡						
110	岩水村(岩郡村)	清兵衛	1			上野国碓氷郡						
111	蘭沢村	七右衛門	1	1		不明						
112	蘭沢村	周治郎	1			不明						
113	上三ノ倉村(三野倉村)	林蔵	1			上野国群馬郡						
114	横田村	次郎兵衛	1			上野国群馬郡						
115	下三ノ倉村(三野倉村)	庄左衛門	1			上野国群馬郡						
116	高崎在	常右衛門(香之助)	1	1		上野国群馬郡						
117	高崎在	勘右衛門	1			上野国群馬郡						
118	井出村	四郎右衛門	1	1		上野国群馬郡						
119	井出村	熊治郎	1			上野国群馬郡						
120	井出村	弥平治	1			上野国群馬郡						
121	新田中泉村	淺右衛門	1			上野国群馬郡						
122	新田中泉村	鶴松	1			上野国群馬郡						
123	中泉村	喜七	1			上野国群馬郡						
124	中泉村	兵右衛門	1			上野国群馬郡						
125	前橋諏訪町	端治左兵衛	1			上野国群馬郡						
126	新蔵寺村	政右衛門	1	1		上野国群馬郡						
127	石井村	寛右衛門(万五郎)	1			上野国群馬郡						
128	下ノ堂村	武右衛門	1			上野国群馬郡						
129	下小堂村	龍吉	1			上野国群馬郡						
130	下小堂村	武左衛門	1			上野国群馬郡						
131	八崎村	友右衛門	1			上野国群馬郡						
132	堀村	喜兵衛	1			上野国群馬郡						
133	堀村	平八	1			上野国群馬郡						
134	宮田村	勘右衛門	1			上野国群馬郡						
135	宮田村	茂八	1			上野国群馬郡						
136	見沼呂木村(深呂木村)	寛左衛門	1			上野国群馬郡						
137	麻村(原之郷村)	仲右衛門	1			上野国群馬郡						
138	不動堂村	佐六	1			上野国群馬郡						
139	下瀧野村	十兵衛	1			不明						
140	飯倉村	清治郎	1	1		上野国那波郡						
141	飯倉村	庄五郎	1			上野国那波郡						
142	飯倉村	清右衛門	1			上野国那波郡						
143	飯倉村	忠右衛門	1			上野国那波郡						
144	飯倉村	多吉	1			上野国那波郡						
145	飯倉村	留吉	1			上野国那波郡						
146	飯倉村	六郎左衛門	1			上野国那波郡						
147	飯倉村	庄太郎	1			上野国那波郡						
148	飯倉村	おさん	1			上野国那波郡						
149	河井村(川井村)	藤太	1	1		上野国甘栗郡						
150	河井村(川井村)	佐治(以下欠損)	1			上野国甘栗郡						
151	河井村(川井村)	吉五郎	1			上野国甘栗郡						
152	河井村(川井村)	周治郎	1			上野国甘栗郡						
153	河井村(川井村)	佐六	1			上野国甘栗郡						
154	藤木村	重治郎	1	1		上野国甘栗郡						
155	藤木村	澤治郎	1	1		上野国甘栗郡						
156	藤木村	利左衛門	1			上野国甘栗郡						
157	藤木村	熊太郎	1			上野国甘栗郡						
158	藤木村	濃太郎	1			上野国甘栗郡						
159	藤木村	金蔵	1			上野国甘栗郡						
160	忍保村	平右衛門	1			武蔵国児玉郡						
161	忍保村	喜兵衛	1			武蔵国児玉郡						
162	忍保村	弥五左衛門	1			武蔵国児玉郡						
163	忍保村	吉重郎	1			武蔵国児玉郡						
164	本庄入口町	主膳藤与吉	1			武蔵国児玉郡						
165	原野郷村(原ノ郷村)	源蔵	1	1		武蔵国幡豆郡						
166	原野郷村(原ノ郷村)	小 郎	1			武蔵国幡豆郡						
167	玉井村	忠右衛門	1			武蔵国幡豆郡						
168	玉井村	伊右衛門	1			武蔵国幡豆郡						
169	玉井村	宇左衛門	1			武蔵国幡豆郡						
170	玉井村	茂左衛門	1			武蔵国幡豆郡						
171	玉井村	勘左衛門	1			武蔵国幡豆郡						
172	玉井村	三五郎	1			武蔵国幡豆郡						
173	上奈良村	平太郎	1	1		武蔵国幡豆郡						
174	玉井村	鏡五郎	1			武蔵国幡豆郡						
175	玉井村	政治郎	1			武蔵国幡豆郡						
176	玉井村	孫四郎	1			武蔵国幡豆郡						
177	玉井村	安兵衛	1			武蔵国幡豆郡						
178	玉井村	千蔵	1			武蔵国幡豆郡						
179	行原村	金蔵	1			不明						
180	行原村	梅三	1			不明						
181	行原村	半治郎	1			不明						
182	久保ヶ原	宇兵衛	1	1		武蔵国大里郡						
183	原島村	源蔵	1	1		武蔵国大里郡						
184	柿沼村	兵 衛門	1			武蔵国幡豆郡						
185	中奈良村	政 衛門	1			武蔵国幡豆郡						
186	中奈良村	金衛門	1			武蔵国幡豆郡						
187	新堀東新田村	善右衛門	1			武蔵国幡豆郡						
188	新堀東新田村	喜兵衛	1			武蔵国幡豆郡						
189	新堀東新田村	忠右衛門	1			武蔵国幡豆郡						

掲載順	配札地	信徒名	人数	宿数	名主	該当国郡区	A	B	C	D	E	G
190	新堀裏新田村	半次郎	1			武蔵国幡羅郡						
191	新堀裏新田村	健五郎	1			武蔵国幡羅郡						
192	東ノ新西村	九右衛門	1			武蔵国幡羅郡						
193	葛和田村	幸吉	1			武蔵国幡羅郡						
194	白鳩村	傳兵衛	1			武蔵国幡羅郡						
195	上根村	常兵衛	1			武蔵国幡羅郡						
196	上根村	忠右衛門	1			武蔵国幡羅郡						
197	上根村	ま右衛門	1			武蔵国幡羅郡						
198	上根村	勘右衛門	1			武蔵国幡羅郡						
199	上根村	市兵衛	1			武蔵国幡羅郡						
200	上根村	茂左衛門	1			武蔵国幡羅郡						
201	上根村	伊左衛門	1			武蔵国幡羅郡						
202	上根村	長五郎	1			武蔵国幡羅郡						
203	久保庵村	要七	1			武蔵国幡羅郡						
204	上川原村	清右衛門	1			武蔵国幡羅郡						
205	上川原村	清治郎	1			武蔵国幡羅郡						
206	上押切村	庄兵衛(才吉)	1			武蔵国大里郡						
207	上押切村	清吉(五郎兵衛)	1			武蔵国大里郡						
208	上押切村	宇兵衛(おた郎)	1			武蔵国大里郡						
209	下押切村	徳左衛門	1			武蔵国大里郡						
210	下押切村	万吉	1			武蔵国大里郡						
211	下押切村	政右衛門	1			武蔵国大里郡						
212	樋之口村(樋ノ口村)	利右衛門	7	1		武蔵国大里郡						
213	樋之口村(樋ノ口村)	彦太郎	1			武蔵国大里郡						
214	樋之口村(樋ノ口)	宝丹老	1			武蔵国大里郡						
215	熊谷宿	讀成なし	0			武蔵国大里郡						
216	才田村吉原(佐谷田村か?)	兼(瀬)	1			武蔵国大里郡						
217	久下村橋町	信右衛門	1			武蔵国大里郡						
218	申新田村	兼吉	1	1		不明						
219	申新田村	乙次郎	1			不明						
220	申新田村	伊兵衛	1			不明						
221	井川村	直吉	1	1		武蔵国足立郡						
222	井川村	松五郎	1			武蔵国足立郡						
223	井川村	市右衛門	1			武蔵国足立郡						
224	井川村	ひ吉	1			武蔵国足立郡						
225	井川村	宗兵衛	1			武蔵国足立郡						
226	大戸村	親重郎	1			武蔵国足立郡						
227	麻村(麻倍)	山中辰忠藏	1			武蔵国足立郡						
228	前砂村	辰治郎	1			武蔵国足立郡						
229	桶川在下加納村	清右衛門	1	1		武蔵国足立郡						
230	桶川在下加納村	金五郎	1			武蔵国足立郡						
231	戸田村	熊治郎	1			武蔵国足立郡						
232	清水村(清水新田村)	權右衛門	1			武蔵国足立郡						
233	清水村(清水新田村)	金藏	1			武蔵国足立郡						
234	清水村(清水新田村)	八左衛門	1			武蔵国足立郡						
235	清水村(清水新田村)	宇右衛門	1			武蔵国足立郡						
236	清水村(清水新田村)	半兵衛	1			武蔵国足立郡						
237	清水村(清水新田村)	弥五兵衛	1			武蔵国足立郡						
238	清水村(清水新田村)	辰左衛門	1			武蔵国足立郡						
239	清水村(清水新田村)	紋四郎	1			武蔵国足立郡						
240	上十袋村	太左衛門	1	1		武蔵国豊島郡						
241	上十袋村	西音寺	1			武蔵国豊島郡						
242	上十袋村	太右衛門	1			武蔵国豊島郡						
243	下十袋村	兵四郎(万右衛門)	1			武蔵国豊島郡						
244	下十袋村	兵右衛門	1			武蔵国豊島郡						
245	下十袋村	勘兵衛	1			武蔵国豊島郡						
246	下十袋村	友吉	1			武蔵国豊島郡						
247	下十袋村	新四郎	1			武蔵国豊島郡						
248	福付村	幸左衛門	1			武蔵国豊島郡						
249●	江戸上野仲町	野田辰四郎兵衛	0			下谷区			0●	0●		
250●	雲井權老之橋角	中沢辰扇兵衛	1			京橋区			1●			1●
251●	両国元矢倉	渡辺円治	1			日本橋区			1●			1●
252	江戸在矢口村	万屋嘉右衛門	1			武蔵国程原郡						
253	矢向村	平左衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
254	矢向村	喜兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
255	小倉村	佐太郎	1	1		武蔵国檜蓑郡						
256	小倉村	宗兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
257	小倉村	清左衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
258	小倉村	彦三郎(彦三)	1			武蔵国檜蓑郡						
259	小倉村	六郎左衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
260	北加瀬村	山崎善藏	1			武蔵国檜蓑郡						
261	南加瀬村	四郎兵衛(名主)	1	1		武蔵国檜蓑郡						
262	南加瀬村	和助	1			武蔵国檜蓑郡						
263	南加瀬村	政右衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
264	南加瀬村	源藏	1			武蔵国檜蓑郡						
265	南加瀬村	四郎兵衛(隠居)	7			武蔵国檜蓑郡						
266	南加瀬村	金右衛門	1	1		武蔵国檜蓑郡						
267	南加瀬村	泉右衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
268	南加瀬村	五兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
269	南加瀬村	孫三郎	1			武蔵国檜蓑郡						
270	南加瀬村	兵右衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
271	南加瀬村	清吉	1			武蔵国檜蓑郡						
272	南加瀬村	清三郎	1			武蔵国檜蓑郡						
273	南加瀬村	宗兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
274	高田村	又兵衛	1			武蔵国都筑郡						
275	馬嶽村	源兵衛	1	1		武蔵国都筑郡						
276	馬嶽村	倉之助	1			武蔵国都筑郡						
277	高田村の内 赤沼	伊兵衛	7			武蔵国都筑郡						
278	大曾根村	三右衛門	1			武蔵国都筑郡						
279	駒岡村	長左衛門	1			武蔵国都筑郡						
280	駒岡村	清兵衛	1			武蔵国都筑郡						
281	駒岡村	庄左衛門	1			武蔵国都筑郡						
282	駒岡村	源太郎	1			武蔵国都筑郡						
283	上獅子ヶ谷村	佐五兵衛(源藏)	1			武蔵国都筑郡						
284	師岡村	新右衛門	1	1		武蔵国都筑郡						
285	太尾村	権六	1			武蔵国都筑郡						

掲載順	配礼地	信徒名	人数	宿数	名主	該当国郡区	A	B	C	D	E	G
286	太尾村	平治郎	1			武蔵国橋本郡						
287	太尾村	松五郎	1			武蔵国橋本郡						
288	大豆漬村 (大豆戸村)	高兵衛	1			武蔵国橋本郡						
289	西寺尾村	扇右衛門	1			武蔵国橋本郡						
290	西寺尾村	扇三郎	1	1		武蔵国橋本郡						
291	西寺尾村	栄蔵	1			武蔵国橋本郡						
292	神奈川新宿	久左衛門	1	1		武蔵国橋本郡						
293	神奈川新宿	乾治兵衛	1	1		武蔵国橋本郡						
294	神奈川新宿	岩治郎	1			武蔵国橋本郡						
295	神奈川新宿	岩治郎	1			武蔵国橋本郡						
296	神奈川新宿	勘助	1			武蔵国橋本郡						
297	神奈川新宿	七五郎	1			武蔵国橋本郡						
298	神奈川新宿	辰五郎	1			武蔵国橋本郡						
299	神奈川新宿	長治郎	1			武蔵国橋本郡						
300	神奈川新宿	伊助	1			武蔵国橋本郡						
301	神奈川新宿	見之助	1			武蔵国橋本郡						
302	神奈川新宿	九右衛門	1			武蔵国橋本郡						
303	神奈川新宿	安左衛門	1			武蔵国橋本郡						
304	神奈川新宿	治郎吉	1			武蔵国橋本郡						
305	神奈川新宿	五右衛門	1			武蔵国橋本郡						
306	神奈川新宿	花屋宗兵衛	1			武蔵国橋本郡						
307	藤沢村	西村源八郎	1			相模国高座郡						
308	南湖村	四郎右衛門	1			相模国高座郡						
309	下町辰村	増右衛門	1			相模国高座郡						
310	下町辰村	源兵衛	1			相模国高座郡						
311	下町辰村	甚左衛門	1			相模国高座郡						
312	下町辰村	利右衛門	1	1		相模国高座郡						
313	平塚新宿	次大夫	1			相模国大住郡						
314	豊田本郷村	三郎兵衛	1			相模国大住郡						
315	豊田本郷村	佐五左衛門	1	1		相模国大住郡						
316	南金目村	文左衛門	1			相模国大住郡						
317	南金目村	権三衛門	1			相模国大住郡						
318	南金目村	光明寺	1			相模国大住郡						
319	南金目村	吉左衛門 (友右衛門)	1			相模国大住郡						
320	南金目村	金兵衛 (新右衛門)	1			相模国大住郡						
321	南金目村	元右衛門	1			相模国大住郡						
322	南金目村	兵左衛門	1			相模国大住郡						
323	南金目村	平左衛門	1			相模国大住郡						
324	南金目村	義左衛門	1			相模国大住郡						
325	南金目村	寂庵寺	1			相模国大住郡						
326	南金目村	安右衛門	1			相模国大住郡						
327	南金目村	大右衛門	1			相模国大住郡						
328	南金目村	五郎右衛門	1			相模国大住郡						
329	南金目村	平五郎	1			相模国大住郡						
330	南金目村	三郎兵衛 (仙之助)	1			相模国大住郡						
331	南金目村	作右衛門 (七兵衛)	1			相模国大住郡						
332	南金目村	三郎兵衛 (半右衛門)	1			相模国大住郡						
333	南金目村	与左衛門	1			相模国大住郡						
334	南金目村	久左衛門	1			相模国大住郡						
335	南金目村	善兵衛	1			相模国大住郡						
336	南金目村	太郎左衛門	1			相模国大住郡						
337	矢名村中尾	善三郎	1			相模国大住郡						
338	矢名村中尾	平兵衛	1			相模国大住郡						
339	矢名村小南	四郎兵衛	1			相模国大住郡						
340	矢名村平内久保	八郎右衛門	1			相模国大住郡						
341	矢名村平内久保	与三兵衛	1			相模国大住郡						
342	矢名村平内久保	市左衛門	1			相模国大住郡						
343	南矢名村比久保	増右衛門 (伊平治)	1	1		相模国大住郡						
344	南矢名村比久保	八左衛門 (三郎兵衛)	1			相模国大住郡						
345	小竹町	彦三郎	1	1		相模国足柄下郡						
346	羽屋村	半蔵	1			相模国足柄下郡						
347	曾我岸村	佐五右衛門	1			相模国足柄下郡						
348	曾我岸村	仙治郎	1			相模国足柄下郡						
349	曾我岸村	寛左衛門	1			相模国足柄下郡						
350	曾我岸村	彌蔵	1			相模国足柄下郡						
351	曾我岸村	紺屋安蔵	1			相模国足柄下郡						
352	曾我岸村	松右衛門	1			相模国足柄下郡						
353	野田村	弥五右衛門 (仁兵衛)	1			相模国足柄下郡						
354	野田村	善右衛門 (清五郎)	1			相模国足柄下郡						
355	野田村	半右衛門 (勝五郎)	1			相模国足柄下郡						
356	松田村	清兵衛	1			相模国足柄上郡						
357	金井島村	酒屋甚右衛門 (弥太郎)	1			相模国足柄上郡						
358	金井島村	珠七 (源右衛門)	1			相模国足柄上郡						
359	富田島村	善兵衛	1			相模国足柄上郡						
360	牛島村	善右衛門	1			相模国足柄上郡						
361	竹松村	幸内	1	1		相模国足柄上郡						
362	貫比村	広吉	1			相模国足柄上郡						
363	貫比村	与右衛門	1			相模国足柄上郡						
364	東 福山村	佐右衛門	1	1		相模国足柄上郡						
365	駒形村	兵右衛門	1			相模国足柄上郡						
366	塚原村	兵衛 (惣五郎)	1			相模国足柄上郡						
367	駒形村	清右衛門 (清五郎)	1			相模国足柄上郡						
368	塚原村	善六	1			相模国足柄上郡						
369	塚原村	増左衛門 (流之助)	1			相模国足柄上郡						
370	塚原村	善右衛門 (寛兵衛)	1	1		相模国足柄上郡						
371	府川村	利左衛門	1			相模国足柄下郡						
372	府川村	小左衛門	1			相模国足柄下郡						
373	府川村	彌蔵	1			相模国足柄下郡						
374	府川村	佐五右衛門	1			相模国足柄下郡						
375	三竹山村	仙右衛門 (田右衛門)	1			相模国足柄上郡						
376	三竹山村	弥右衛門 (弥三右衛門)	1			相模国足柄上郡						
377	三竹山村	金右衛門	1			相模国足柄上郡						
378	三竹山村	利八 (水右衛門)	1			相模国足柄上郡						
379	三竹山村	重右衛門	1			相模国足柄上郡						
380	久野村	小左衛門	1	1		相模国足柄下郡						
381	久野村	伝兵衛	1			相模国足柄下郡						

掲載順	配札地	信徒名	人数	宿数	名主	該当国郡区	A	B	C	D	E	G
382	久野村	仁左衛門	1			相模国足柄下部						
383	久野村	与五左衛門	1			相模国足柄下部						
384	久野村	市郎右衛門	1			相模国足柄下部						
385	久野村	与兵衛(源八)	1			相模国足柄下部						
386	久野村	安右衛門(源八)	1			相模国足柄下部						
387	久野村	八左衛門	1			相模国足柄下部						
388	久野村	平八(長重)	1			相模国足柄下部						
389	久野村	源左衛門	1			相模国足柄下部						
390	北深村	与七	1			相模国足柄下部						
391	下久野村	才兵衛	1			相模国足柄下部						
392	久野村	弥五右衛門	1			相模国足柄下部						
393	久野村	次左衛門	1			相模国足柄下部						
394	久野村	致威	1			相模国足柄下部						
395	小田原須藤町	熊沢辰喜兵衛	1	1		相模国足柄下部						
396	中新宿町(中宿町)	菓子屋久一 威	1			相模国足柄下部						
397	宮前町	熊沢治郎兵衛	1			相模国足柄下部						
398	一町田町	熊沢辰久 吉米	1			相模国足柄下部						
399	山三原村	三兵衛	1			相模国足柄下部						
400	山三原村	要威	1			相模国足柄下部						
401	山三原村	仙威	1			相模国足柄下部						
402	弁細田村	油屋政郎右衛門	1			相模国足柄下部						
403	多古村	源威	1			相模国足柄下部						
404	多古村	市左衛門	1			相模国足柄下部						
405	多古村	九威	1			相模国足柄下部						
406	多古村	仙右衛門	1			相模国足柄下部						
407	飯来村	徳右衛門	1			相模国足柄下部						
408	成田村	源左衛門	1			相模国足柄下部						
409	鶴宮村	小八	1	1		相模国足柄下部						
410	酒匂村	平沢辰林威	1			相模国足柄下部						
411	國府津村	神田原治兵衛(栄威)	1			相模国足柄下部						
412	前川村	長兵衛	1			相模国足柄下部						
413	前川村	安右衛門	1			相模国足柄下部						
414	前川村	善助	1			相模国足柄下部						
415	瀬田村	助右衛門	1	1		武蔵国檜蓑郡						
416	瀬田村	善五兵衛	1	1		武蔵国檜蓑郡						
417	瀬田村	六右衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
418	瀬田村	勘兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
419	瀬田村	忠右衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
420	瀬田村	利兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
421	瀬田村	喜左衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
422	瀬田村	忠兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
423	瀬田村	善兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
424	瀬田村	文威	1			武蔵国檜蓑郡						
425	瀬田村	太七	1			武蔵国檜蓑郡						
426	瀬田村	佐左衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
427	瀬田村	徳兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
428	瀬田村	与右 衛	1			武蔵国檜蓑郡						
429	瀬田村	太兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
430	瀬田村	藤兵衛	1			武蔵国檜蓑郡						
431	瀬田村	平左衛門	1			武蔵国檜蓑郡						
432	川所宿	ふその屋忠七	1			武蔵国檜蓑郡						
433●	江戸雲居馬喰橋角	中沢厚隆兵衛	0			京橋区			0●			0●
434●	兩國元矢倉	渡辺丹次	0			日本橋区			0●			0●
435	浅草御蔵前藤原町2丁目	三升辰清助	1			浅草区						1●
436	両国	磯木松浦珠居辰敷之内持菅尼御取持二而	1			日本橋区						
437	浅草山谷出はづれ	久三郎	1			浅草区						
438	浅草山谷新鳥越4丁目角	家木弥四郎	1			浅草区				1●		
439	浅草田原町3丁目	尾形辰吉右衛門	1			浅草区						
440	浅草阿部川町	山形辰兵衛	1			浅草区						1●
441	浅草寺町	伊勢辰太右衛門	1			浅草区						
442	下谷重坂町	堺屋真兵衛	1			下谷区						1●
443	浅草並木町	虎屋市之丞	1			浅草区						1○
444	浅草阿部川町	亀田辰兵衛	1			浅草区						1●
445	三味線地	佐藤心助	1			下谷区						
446	馬喰町芝丁目	谷道生	1			日本橋区						
447	馬喰町芝丁目	伏見辰兵衛	1			日本橋区						
448	堺町	高橋辰金兵衛	1			日本橋区						
449	本材木町2丁目	中崎辰平右衛門	1			日本橋区						1●
450	小網町2丁目	西村高兵衛	1			日本橋区						1●
451	本材木町芝丁目	伊勢辰右衛門	1			日本橋区						
452	茅場町茶師前	伊勢辰太兵衛	1			京橋区						1●
453	茅場町	木島辰三郎	1			京橋区						
454	両茅場町	山崎辰角兵衛	1			京橋区						
455	両茅場町	綱辰三郎	1			京橋区			1●	1●		
456	裏茅場町	長沢文威	1			京橋区						
457	裏茅場町	鈴木龍舟	1			京橋区						1○
458	八丁堀	三村喜兵衛	1			京橋区						
459	本湊町2丁目	丸辰弥吉	1			京橋区						1●
460	本湊町2丁目	貴田辰善平治	1			京橋区						
461	本湊町2丁目	下野辰金威	1			京橋区						
462	本湊町2丁目	井筒辰大次郎	1			京橋区						
463	鉄砲臺本湊町	河内辰伊助	1			京橋区						1○
464	鉄砲臺本湊町	樋之口方言	1			京橋区						
465	本八丁堀4丁目	花辰三十郎	1			京橋区					1●	
466	本八丁堀2丁目	泉辰七郎兵衛	1			京橋区					1●	
467	京橋町	中辰栄助	1			京橋区						1●
468	志んば中通り平松町	武蔵辰長兵衛	1			日本橋区						
469	おが町(大塚町)	伊藤辰隆兵衛	1			京橋区						
470	本船町江戸橋爪	長沢辰七	1			日本橋区						1○
471	志んばし竹川町	岡田辰佐兵衛	1			京橋区						1●
472	市ヶ谷左内坂	池田辰源右衛門	1			牛込区						
473	市ヶ谷左内坂	池田辰源右衛門隠居	1			牛込区						
474	市ヶ谷(尾州)御辰敷	御表楼	1			牛込区						1●
475	市ヶ谷(尾州)御辰敷	御表楼	1			牛込区						1●
476	御本丸	御年寄山のお様	1			麹町区						1●
477	尾州様	於さい様(御世話人)	1			牛込区						1●

掲載順	配札地	信徒名	人数	宿数	名主	該当行政区	A	B	C	D	E	G
478	尾州礎	磯次親(御世話人)	1			牛込区						1●
479	尾州戸山屋敷之内	平野定兵衛	1			牛込区						
480	尾州御殿敷之内 赤坂口より	岡本五左衛門	1			赤坂区						1○
481	四ッ谷佐馬町	谷田屋又右衛門	1	1		四谷区			1○	1●		
482	四ッ谷佐馬町	若ノ崎又右衛門隠居所	1			四谷区						
483	四ッ谷佐馬町	堀八兵衛	1			四谷区		1○	1○	1○		
484	四ッ谷佐馬町	高橋孫市	1			四谷区						
485	四ッ谷佐馬町	近江屋源次	1			四谷区						1●
486	四ッ谷佐馬町	福田屋新兵衛	1			四谷区						1●
487	四ッ谷佐馬町新志丁目	金子理兵衛	1			四谷区						
488	四ッ谷佐馬町	石ふっん屋	1			四谷区						
489	四ッ谷新橋入口	三河屋代助	1			武蔵国南豊島郡						
490	四ッ谷新橋入口	三河屋源兵衛	1			武蔵国南豊島郡						
491	北伊賀町	伊勢屋市右衛門	1			四谷区						
492	四谷佐馬町2丁目いが町入口角	伊勢屋三郎兵衛	1			四谷区						
493	赤坂田町4丁目	大坂屋源三郎	1			赤坂区						
494	赤坂5丁目	星野清泰	1			赤坂区						1○
495	中殿町	大森大三郎	1			赤坂区						1○
496	麹町天神前	伊坂正宗	1			麹町区						
497	麹町5丁目	岩井源兵衛	1			麹町区		1○	1○			1●
498	麹町5丁目	寺	1			麹町区						
499	麹町5丁目	堀田屋忠八	1			麹町区					1●	
500	麹町5丁目	山崎屋彦右衛門	1			麹町区						
501	湯町御前段	石川兵衛	1			麹町区						
502	高田馬場	無藤仁右衛門	1			牛込区						
503	高田馬場	甲州屋市右衛門	1			牛込区				1●	1●	
504	落合村	清右衛門	1			武蔵国南豊島郡						
505	下落合村	三之助	1			武蔵国南豊島郡						
506	小日向水道町	丸屋平助	1			小石川区	1○	1○				
507	岡心町	後藤善右衛門	1			小石川区						
508	小石川前坂(高坂)新町	神明権之進	1			小石川区						
509	小石川前坂(高坂)新町御殿敷之内	池田氏	1			小石川区						
510	小石川下宿坂(高坂)町	川越屋平助	1			小石川区						
511	本郷本町水道橋近辺	布施弥一郎	1			本郷区						1●
512	神田佐久馬町2丁目	山本屋喜兵衛	1			神田区						1●
513	下谷赤り通 小路	河野兵十郎様	1			下谷区				1●		1●
514	下谷赤り通 小路屋敷之内	加藤武右衛門	1			下谷区						1●
515	下谷赤り通 小路屋敷之内	土岐源次	1			下谷区						
516	外神田三河町2丁目新道	高屋茂兵衛	1			神田区						
517	三河町1丁目	丸屋伊兵衛	1			神田区						
518	三河町1丁目	庄内屋金兵衛	1			神田区						
519	西御丸下松平下総守屋敷之内	岡本邦成	1			麹町区						
520	西御丸下土井大炊頭屋敷之内	奥田可男助	1			麹町区						
521	雲原崎長崎町1丁目	中屋勘四郎	1			京橋区						1●
522	雲原崎長崎町1丁目	上総屋長三郎	1			京橋区						
523	兩筋治町2丁目せん通の杉蔭所	武蔵屋金治郎	1			京橋区						1●
524	兩筋治町2丁目	中屋五郎兵衛	1			京橋区						1●
525	禰町2丁目	三河屋善助	1			京橋区						1●
526	南大工町	伊勢屋徳助	1			京橋区						
527	本石町1丁目	丁子屋長兵衛	1			日本橋区						
528	中橋かしの茶屋のうら	藤田藤左衛門	1			日本橋区				1●		1●
529	中橋	藤原三郎兵衛	1			日本橋区						
530	馬喰町2丁目	山形屋庄兵衛	1			日本橋区						
531	本町四郎後屋の通り	田中 金六	1			日本橋区						
532	日本橋通1丁目	遠州屋平蔵	1			日本橋区				1●		
533	日本橋	筑後屋	1			日本橋区						
534	日本橋通3丁目	ことぶき	1			日本橋区						1○
535	八丁堀金六町 古藪	佐野屋守兵衛	1			京橋区						
536	八丁堀金六町	近江屋 孫衛	1			京橋区						
537	八丁堀金六町近 辺	藤田平八	1			京橋区						
538	雲原崎長崎町1丁目	上 徳米兵衛	1			京橋区						
539	雲原崎中橋通四丁目町	徳橋屋平助	1			京橋区						1●
540	雲原崎町	東又兵衛	1			京橋区						
541	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	長 貞次郎	1			京橋区						
542	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	三宅 丹下	1			京橋区						
543	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	武谷	1			京橋区						1○
544	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	福岡	1			京橋区						1○
545	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	鈴木	1			京橋区						
546	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	長浜	1			京橋区						1○
547	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	長谷川次兵衛	1			京橋区						
548	南八丁堀5丁目 阿州様御屋敷之内	松嶋	1			京橋区						
549	南八丁堀本多下総守屋敷之内	松井鐘次郎	1			京橋区						1○
550	金六町京橋きんちやう	住吉屋利川助	1			京橋区						
551	南紺屋町	阿波屋文左衛門	1			京橋区						1●
552	勘骨町	伊勢屋 清八	1			京橋区						
553	さか草町二而御世話被成	木村	1			京橋区						
554	阿たご下	片桐石見 陸	1			芝区						1●
555	伊所未汲藪	蒲田	1			不明						
556	芝神明町益信守屋敷之内	益信源守様	1			芝区						1●
557	芝神明町益信守屋敷之内	勝川貞	1			芝区						1●
558	芝神明町益信守屋敷之内	田中好五郎	1			芝区						1○
559	外神田三河町	本多豊前守様	1			神田区						
560	外神田三河町	松野何右衛門	1			神田区						
561	三田1丁目	三 河家源四郎	1			芝区						1●
562	いざごう代町(伊皿子台町)	万屋徳兵衛	1			芝区						1●
563	いざごう代町(伊皿台町)	万屋安五郎	1			芝区						1●
564	芝田町5丁目	万屋市右衛門	1			芝区						
565	芝田町8丁目	濱川屋善助	1			芝区						1●
566	芝金杉橋きんちや	三河屋長助	1			芝区						1●
567	木挽町5丁目芝井の裏通	蒲上宇三郎	1			京橋区						
568	月津門跡うらびせん橋(築地門跡裏備前橋)	鈴木宗鉄	1			京橋区						1○
569	下谷2丁目	澤田致久	1			下谷区						
570	下谷佐竹様うら門通	深谷長治郎	1			下谷区						
571	下谷佐竹様うら門通	小田徳門太	1			下谷区						
572●	池之端中 町	野田屋四郎兵衛	1			下谷区	1●	1●	1●	1●		

掲載順	配札地	信徒名	人数	宿数(名主)	該当旧郡区	A	B	C	D	E	G
573	深谷中町	堀屋清兵衛	1		下谷区						1●
574	深谷4丁目	内田源之助	1		本郷区						
575	上野下瓜小路北大門町	妻物屋与兵衛	1		下谷区						1●
576	筋加い橋	炭間屋	1		神田区						
577	浅草平右衛門町	松本佐右衛門	1		浅草区						
578	両国米尺町3丁目	増田辰次郎兵衛	1		日本橋区						1●
579	両国1丁目	近江屋	1		日本橋区						
580	両国元町	岡本屋竹皮店	1		日本橋区				1○		
581	南本所石原町	伊勢屋彦兵衛	1		本所区						1●
582	南本所石原町	伊勢屋善四郎	1		本所区						
583	浅草春わ町	岡田屋	1		浅草区						1○
584	芝之口1丁目	伊勢屋与左衛門	1		芝区						
585	芝之口3丁目	伊勢屋与兵衛	1		芝区						
586	芝之口3丁目	伊勢 房右衛門	1		芝区						1●
587	芝之口3丁目横町	加志 母屋安五郎	1		芝区						
588	芝井日かけ町	大坂辰喜兵衛	1		芝区						1●
589	芝井日かけ町	三味線師匠	1		芝区						
590	宇田川町新道	丸屋清治郎	1		芝区						1●
591	宇田川町新道	もつ 宗徳	1		芝区						
592	か阿らけ町(土器町)	星野久春	1		麻布区						1●
593	広小路	重屋	1		芝区						
594	かみや町(神谷町)	堀屋藤兵衛	1		芝区						
595	ふくて町(蔵手町)	油屋	1		芝区						1○
596	阿たご下や婦小路	神明大沢楼	1		芝区						1●
597	深川万年町	松平和泉守楼	1		深川区						1●
598	深川万年町	御表楼	1		深川区						1●
599	深川万年町	右殿楼	1		深川区						1●
600	深川万年町	御姫楼	1		深川区						1●
601	深川万年町	御姫楼	1		深川区						1●
602	深川万年町	千之 勝楼	1		深川区						
603	深川万年町	御年 三雄楼	1		深川区						1●
604	外桜田	松平河内楼	1		麹町区						1●
605	外桜田	御表楼	1		麹町区						1●
606	外桜田	御奥楼	1		麹町区						1●
607	外桜田	右殿楼	1		麹町区						1●
608	外桜田	御年楼	1		麹町区						1●
609	浜町清水楼敷之内	粟川鑛之助	1		日本橋区						
610	浅草橋場	浅草好太郎	1		浅草区						
611	赤坂黒岩谷	広瀬謙十郎	1		赤坂区						1○
612	赤坂3丁目	湯屋清七	1		赤坂区						
613	麻布永坂	重屋源助	1		麻布区						
614	麻布8丁目	和泉屋清兵衛	1		麻布区						1●
615	麻布9丁目	遠州屋徳兵衛	1		月見坂						
616	川口町	能登屋重助	1		京橋区						
617	駒込退分	金子蔵之助	1		本郷区						1○
618	新吉原	会所四郎兵衛	1		浅草区			1●		1●	1●
619	新吉原	山色屋美奈	1		浅草区			1●		1●	1●
620	新吉原	升屋七右衛門	1		浅草区			1●		1●	1●
621	新吉原	松原おませ	1		浅草区					1●	1●
622	新吉原	駿河屋市兵衛	1		浅草区					1●	1●
623	新吉原	信濃屋善兵衛	1		浅草区					1●	1●
624	新吉原	横屋長四郎	1		浅草区					1●	1●
625	新吉原	八幡屋おふじ	1		浅草区					1●	1●
626	新吉原	尾張屋五兵衛	1		浅草区			1●		1●	1●
627	新吉原	尾張屋太郎兵衛	1		浅草区					1●	1●
628	新吉原	升屋おひさ	1		浅草区					1○	1●
629	新吉原	永楽屋平蔵	1		浅草区			1○		1●	1●
630	新吉原	中松屋善兵衛	1		浅草区					1●	1●
631	新吉原	桐屋佐兵衛	1		浅草区					1●	1●
632	新吉原	松屋新八	1		浅草区					1○	1●
633	新吉原	常盤屋おかめ	1		浅草区					1●	1●
634	新吉原	大黒屋又兵衛	1		浅草区					1●	1●
635	新吉原	大黒屋庄六	1		浅草区					1●	1●
636	新吉原	萬屋太兵衛	1		浅草区			1●		1●	1●
637	新吉原	浅屋佐兵衛	1		浅草区			1●		1●	1●
638	新吉原	大野屋熊治郎	1		浅草区					1●	1●
639	新吉原	一文字屋喜兵衛	1		浅草区					1●	1●
640	新吉原	尾張屋真三郎	1		浅草区					1●	1●
641	新吉原	あづま屋おもん	1		浅草区					1●	1●
642	新吉原	竹村伊兵衛	1		浅草区					1●	1●
643	新吉原	兵庫屋弥助	1		浅草区					1●	1●
644	新吉原	巴屋伝助	1		浅草区					1●	1●
645	新吉原	伊勢屋おとも	1		浅草区					1●	1●
646	新吉原	南部屋庄七	1		浅草区					1●	1●
647	新吉原	桐屋五兵衛	1		浅草区					1●	1●
648	新吉原	近江屋半四郎	1		浅草区					1●	1●
649	新吉原	山本屋金蔵	1		浅草区					1●	1●
650	新吉原江戸町	尾屋守右衛門	1		浅草区					1●	1●
651	新吉原江戸町2丁目	若那屋八郎右衛門	1		浅草区					1●	1●
652	新吉原京町	若松屋藤左衛門	1		浅草区					1●	1●
653	新吉原コルハ子集	龜屋辰右兵衛	1		浅草区						1○
654	新吉原丸町	松葉屋半蔵	1		浅草区					1●	1●
655	新吉原	新助	1		浅草区					1●	1●
			651	65	2	2	5	13	14	37	111

凡例

本表は、史料Fの本文を解読し、その内容をデータベース化したものである。さらには史料Fに掲載された金信徒の、史料A～史料D、史料E・史料Gに対する掲載の有無を示したものである。表中、掲載順の項目の丸で囲った番号は同一人物を示すものである。その際、同番号は同一人物を示す。信徒名の項目の「●」印は本文中において同一人物が見られる場合を示す。史料A～史料D、史料E・史料Gの項目の「●」印は、史料Fに記載された信徒が同一名及び同一住所で史料A～史料D、史料E・史料Gに見られる場合を示す。史料A～史料D、史料E・史料Gの項目の「○」印は、史料Fに記載された信徒が代替わりや転居で、同一名であるが住所は異なる、あるいは住所が一致し姓や屋号も一致するが代替わりや転居で名前が異なる場合などを示す。

第6表 宝泉坊の江戸の檀那場を対象とした初穂集金帳 (天保13年~弘化4年)

掲載順	天保13年	金額(天保13年)	天保14年	金額(天保14年)	天保15年	金額(天保15年)	弘化2年	金額(弘化2年)	弘化4年	金額(弘化4年)
001	松平和泉守	金500疋	松平和泉守	金300疋	松平和泉守	金200疋	松平和泉守	金200疋	松平和泉守	金300疋
002	岡、おのぶ	金200疋	岡、おのぶ	金100疋	松平和泉守	金200疋	おのぶ	金100疋	松平河内守	金200疋
003	岡、松しま	金500疋	松平河内守	金100疋	松平河内守	金13疋	松平河内守	金200疋	松平河内守	金50疋
004	松平河内守	金100疋	松平河内守	金50疋	松平河内守	金200疋	深田守	金50疋	片桐	金50疋
005	松平河内守	金100疋	森信濃守	金50疋	松平河内守	金100疋	片桐石見守	金50疋	大沢	金50疋
006	森信濃守	金50疋	欠損	欠損	片桐石見守	金50疋	大沢主馬	金50疋	河野	金100疋
007	伊勢屋彦兵衛	金1疋	欠損	欠損	森信濃守	金50疋	河野長十郎	金100疋	伊勢屋与八	金50疋
008	河野長十郎	金100疋	欠損	欠損	大沢主馬	金50疋	伊勢屋与八	金50疋	伊勢屋彦兵衛	金50疋
009	片桐石見守	金1疋	松浦(欠損)	金100疋	河野長十郎	金100疋	渡辺門齋	金50疋	真屋幸助	金50疋
010	深谷長次郎	金1疋	中沢屋徳兵衛	金100疋	深谷長十郎	金100疋	伊勢屋与八	金50疋	内田忠蔵	金50疋
011	大沢主馬	金100疋	中沢屋徳兵衛	金100疋	松浦壽春	金100疋	長沢屋由松	金50疋	堀屋重兵衛	金50疋
012	野田屋四郎兵衛	金50疋	中沢屋徳兵衛(御弟子様)	金100疋	裏物屋与兵衛	金50疋	伊勢屋彦兵衛	金50疋	堀屋重兵衛	金50疋
013	中沢屋徳兵衛	金100疋	長沢屋(欠損)	金50疋	堀屋重兵衛	金50疋	裏物屋与兵衛	金50疋	池田屋源右衛門	金50疋
014	中沢屋徳兵衛	金50疋	渡辺門齋	金100疋	渡辺門齋	金50疋	堀屋重兵衛	金50疋	福田屋新兵衛	金50疋
015	堀屋重兵衛	金50疋	堀屋重兵衛	金50疋	福田屋新兵衛	金50疋	堀屋重兵衛	金50疋	渡辺	金50疋
016	大沢主馬	金100疋	裏物屋与兵衛	金50疋	中沢屋徳兵衛	100疋	深谷長十郎	金50疋	長沢屋由松	金50疋
017	堀屋九兵衛	金1疋	吉原向中(欠損)	当年分ハ初穂断	中沢屋徳兵衛	買銀30疋	布橋弥一郎	買銀40疋	中沢屋徳兵衛	金100疋・買銀20疋
018	堀屋九兵衛	金1疋(去年分)	伊勢屋与八	金50疋	長沢屋由松	買銀40疋	松浦持賢(遊信)	買銀40疋	深谷	買銀40疋
019	堀屋重兵衛	金1疋(去年分)	伊勢屋彦兵衛	金50疋	野田屋四郎兵衛	買銀40疋	改屋一之進	買銀40疋	新見	買銀40疋
020	裏物屋与兵衛	金2疋	欠損	買銀40疋	虎屋市之進	買銀40疋	真屋庄次郎	買銀40疋	寿徳	買銀40疋
021	吉原中世話人新助	金250疋	欠損	買銀30疋	真屋庄次郎	買銀40疋	野田屋四郎兵衛	買銀40疋	岡田屋伝兵衛	買銀40疋
022	虎屋徳右衛門	金1疋	虎屋(欠損)	買銀40疋	鈴木宗鉄	買銀40疋	野田屋四郎兵衛	買銀50疋	野田屋四郎兵衛	買銀40疋
023	平野定兵衛	金1疋	欠損	買銀40疋	いせや庄兵衛	金50疋	野田屋四郎兵衛	買銀40疋	とら屋徳右衛門	買銀40疋
024	布橋弥一郎	金50疋	布橋弥市郎	買銀30疋	平野定兵衛	買銀40疋	池田屋源右衛門	買銀40疋	網屋二十郎	買銀30疋
025	鈴木宗鉄	金1疋	鈴木宗鉄	買銀20疋	池田屋源右衛門	買銀40疋	長沢屋徳七	買銀30疋	長沢屋徳七	買銀30疋
026	伊勢屋与八	金1疋	松浦持賢	買銀40疋	網屋二十郎	買銀30疋	内田忠蔵	買銀30疋	星野	買銀40疋
027	長沢屋徳七	金50疋	高橋屋金兵衛	買銀30疋	いせ屋与八	買銀30疋	岡田屋源中	買銀130疋	田舎口口々・江戸口々	金4両19貫800文
028	松浦持賢	金1疋	真屋幸助	買銀40疋	布橋弥一郎	買銀30疋	松平和泉守	金1両(卒都婆料)	綾子子賢約	2両
029	伊勢屋彦兵衛	金50疋	伊勢屋清八	買銀20疋	堀屋彦兵衛	買銀40疋	松坂屋栄助	金50疋(卒都婆料)		金10両4朱23貫400文(23貫400文=金3両2分648文)
030	渡辺	金100疋	万屋徳兵衛	買銀40疋	岩井源兵衛	買銀30疋	井約利右衛門	金50疋	松平和泉守(涼裏頂料)	金10両
031	所々御初穂口々	錢14貫748文	岡田伝兵衛	買銀30疋	江戸内御初穂口々	19貫900文	岡田屋	金50疋		金23両2分4朱648文
032		金7両2分2朱312文・又1分	伊勢屋彦	買銀40疋	田舎御初穂口々	金3両2分2朱2貫	岡田屋	金50疋		金4両2分4朱648文
033	田舎且方口々御初穂上り高	金2両3分2朱4貫400文(4貫400文=金2分2朱・24文)	小山(欠損)兵衛	金50疋	経帷子30枚	金7両2分	経帷子23枚	金6両3分	富山飛脚へ差し出した金額(持ち帰り金額)	金19両
034	江戸田舎共御初穂上り高	金11両2朱・錢336文・又1分	三河屋四郎	買銀40疋			口々初穂	錢18貫400文		
035	岡田屋伝兵衛(経帷子6枚)	金1両2分	三河屋長助	買銀20疋	御調物と飛脚買支払い	金27両2分2朱26貫(26貫=4両)700文		金11両1分・24貫400文(24貫400文=金3両3分24文)		
036	小町ミ町(経帷子14枚)	金1分	所々御初穂口々	金2分2朱14貫440文	御調物と飛脚買支払い	金1両3分200文	諸国初穂口々	金4両2朱		
037	万屋徳兵衛(経帷子1枚)	金1分	江戸且家御初穂上り高	金7両2朱240文	御調物と飛脚買支払い	金2両	飛脚買支払い	金19両2朱24文		
038	松浦持賢(昨年分の経帷子8枚)	金2両	田舎且家口々御初穂上り高	金3両2朱	富山飛脚へ差し出した金額(持ち帰り金額)	金27両		金2分748文		
039		金15両2朱・錢336文・又1分	江戸・田舎を合わせた御初穂上り高	金10両1分240文			富山への持ち帰り金額	金18両2分84文		
040	判子の代	金2疋	岡田屋伝兵衛(経帷子14枚)	金3両2分						
041	万助江戸出立の節に渡す	金2分2朱	松浦持賢(経帷子6枚)	金1両2分(内、金2朱が不足)						
042	奉旨江戸出立の節に渡す	金3分・又壹1分	伊勢屋彦兵衛(経帷子1枚)	金1分						
043	奉旨江戸出立の節、別役用度のため渡す	金1両	鈴木宗鉄(経帷子1枚)	金1分						
044	引銭の分、御用人に渡す	金336文	伊勢屋清八(経帷子1枚)	金1分						
045	富山飛脚へ差し出した金額(持ち帰り金額)	金12両2分2朱	万屋徳兵衛(経帷子1枚)	金1分						
046			中沢屋徳兵衛(経帷子1枚)	金1分						
047			矢口村万(経帷子1枚)	金1分						
048			久野村小左衛門(経帷子1枚)	金1分						
049			堀屋重兵衛(昨年分の経帷子1枚)	金1分						
050	粟利益	金12両2分2朱	富山への持ち帰り金額	金17両2朱240文		金27両		金18両2分84文		金19両

富山飛脚の江戸での御初穂形成と「立山」御の展開(1)

第7表 宝泉坊の江戸の檀那場における地域別信徒数の時期的変遷と信徒総数に対する屋号保持信徒の割合

廻檀地域	史料A享保期	史料B享保期	史料C宝暦期	史料E文政9年	史料F天保10年	史料G嘉永6年	慶応2年檀那帳
麹町	0	0	2		14⑤	30⑤	33
神田	16③	28④	22		7	8	15
日本橋	27②	45②	61②		22③	42③	44④
京橋	13⑤	31③	61②		47②	30⑤	41⑤
浅草	38(新吉原18)①	91①(新吉原51)	138①(新吉原100)	40(新吉原のみ)	49①(新吉原38)	60①(新吉原35)	73②(新吉原39)
下谷	11	19⑤	17		11	17	16
本郷	4	9	9		3	8	16
小石川	13⑤	15	9		5	12	24
牛込	16③	8	22		9	24	31
四谷	9	12	30⑤		10	12	15
赤坂	0	0	3		6	9	10
麻布	2	2	10		4	3	0
芝	2	9	33④		22③	38④	52③
本所	8	14	8		2	16	40
深川	5	7	6		7	50②	75①
該当地域不明	0	10	0	0	0	8	8
御府内の信徒総数	164	300	431	40	218	367	493
屋号を持つ商人	132	223	284		133	169	250
信徒総数に対する割合	約80.5%	約74.3%	約65.9%		約61%	約46%	約50.7

凡例

本表は、宝泉坊の江戸の檀那場の状況を示す、史料A～史料C、史料E～史料G、及び慶応2年の檀那帳を対象とし、それぞれの史料において、地域別に、屋号を保持する信徒の人数を書き上げたものである。さらに御府内の信徒総数と屋号を保持する信徒の人数を書き上げ、その割合を示した。各史料に対して、それぞれ縦列に付された①～⑤の番号は、屋号保持信徒の人数が多い地域を、多い順に示している。



写真1の①：史料A「使用宿坊家・成立年未記載の檀那帳」
(芦峯寺旧宝泉坊所蔵)



写真1の②

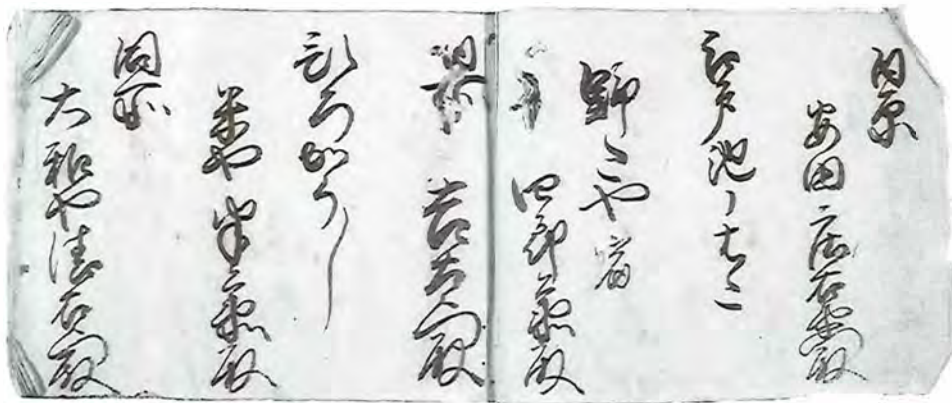


写真1の③

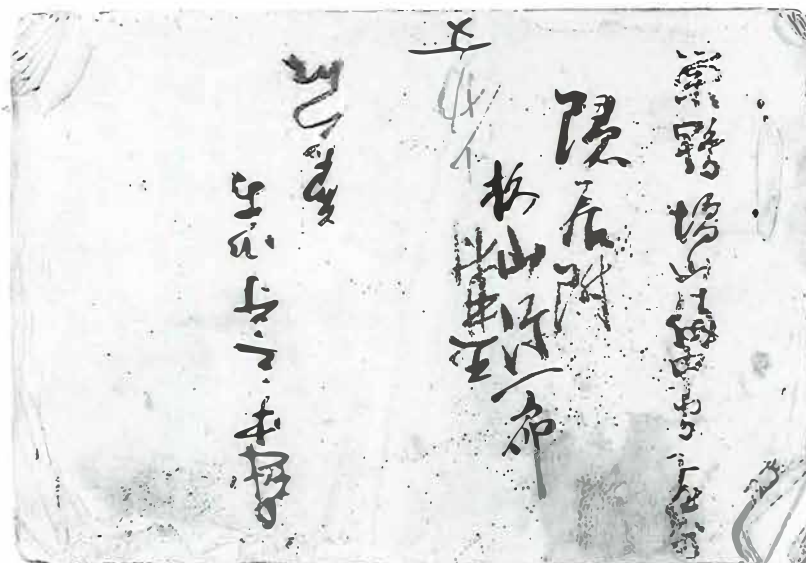


写真2の①：史料C「宝泉坊衆徒教清の成立年未記載の檀那帳」（芦崎寺旧宝泉坊所蔵）

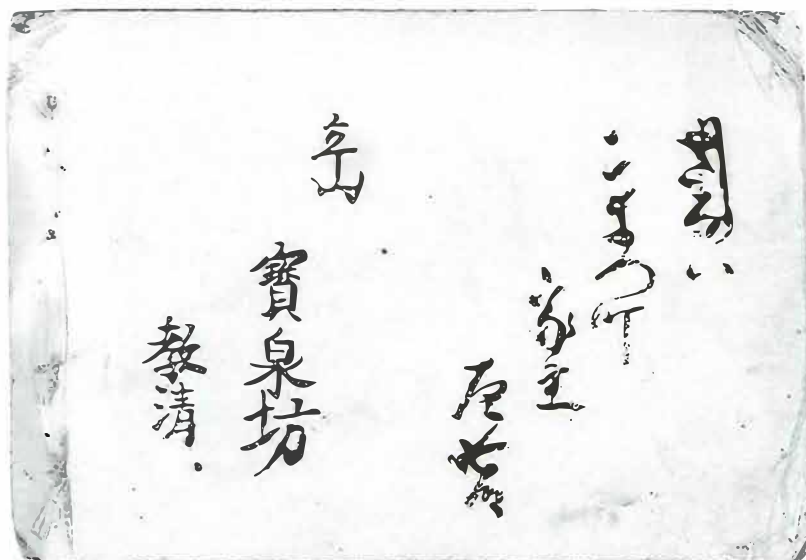


写真2の②

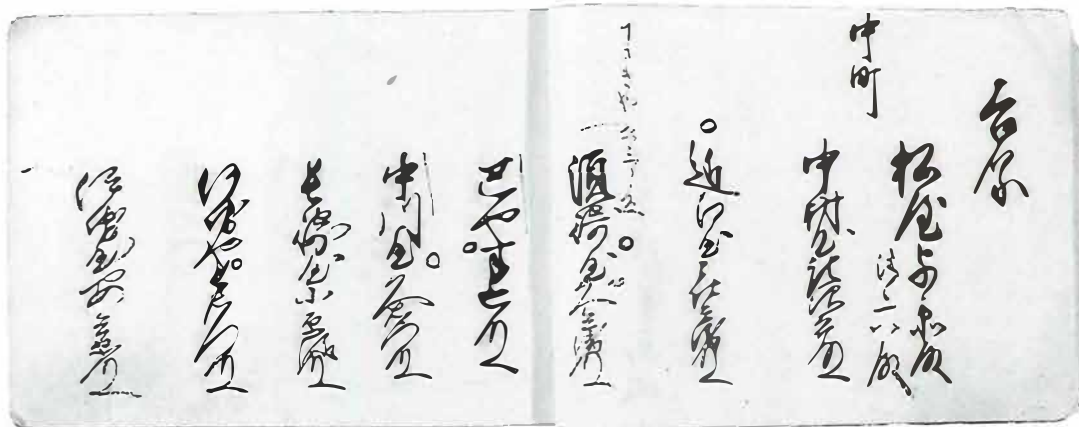


写真2の③

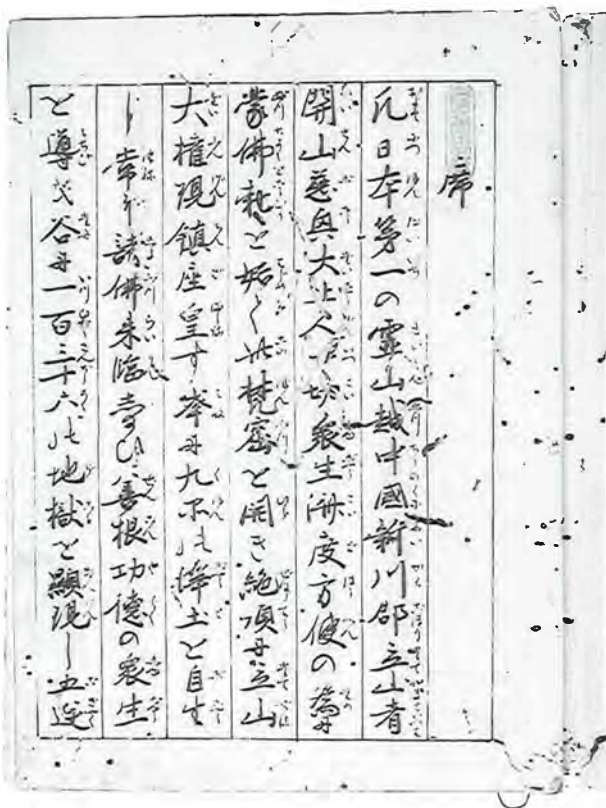


写真3の①：史料D「宝泉坊衆徒照円の文化11年の布橋大灌頂法会勸進記」（芦峯寺旧宝泉坊所蔵）



写真3の②

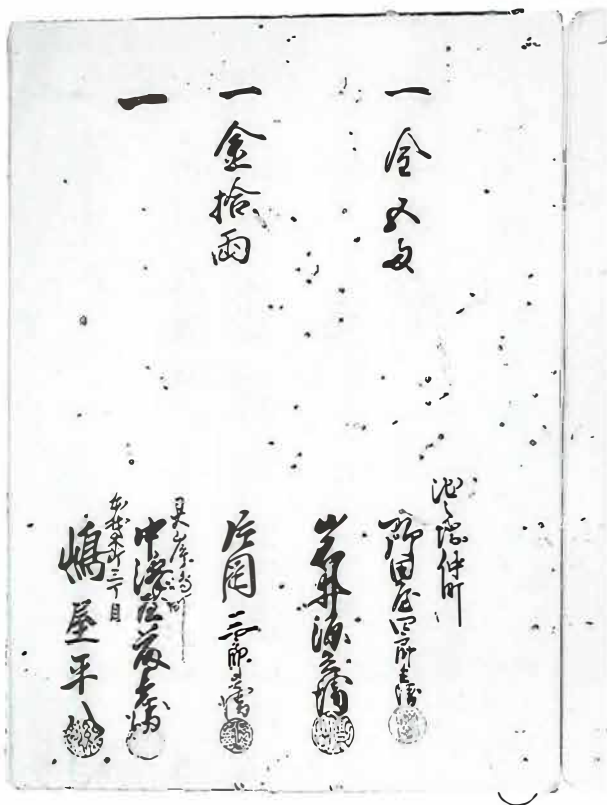


写真3の④



写真3の③



写真4の②

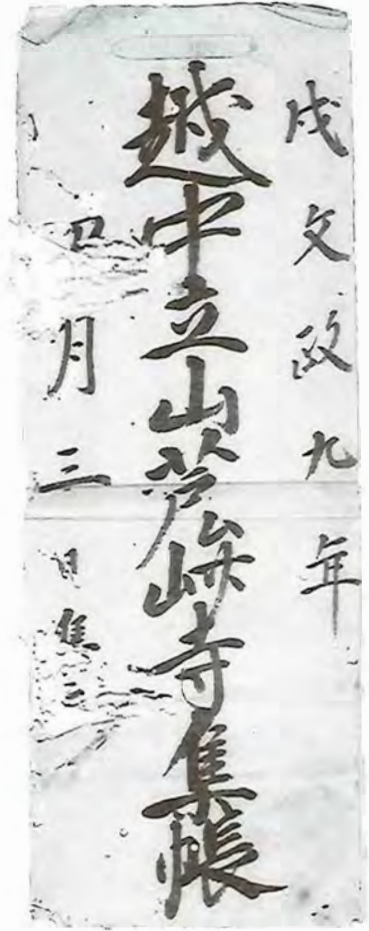


写真4の①：史料E「使用宿坊家不明で
文政9年の新吉原初穂集帳」
(芦崎寺旧宝泉坊所蔵)



写真4の③

天保十巳亥年 立山芦峠寺
御祈禱檀那帳
正月大吉祥日 宝泉坊照日

写真5の①：史料F「宝泉坊衆徒照円の天保10年の檀那帳」（芦峠寺旧宝泉坊所蔵）

市ヶ谷 上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様
-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------

写真5の②

市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様	市ヶ谷 一上 市丸丸 山の内様
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------

写真5の③

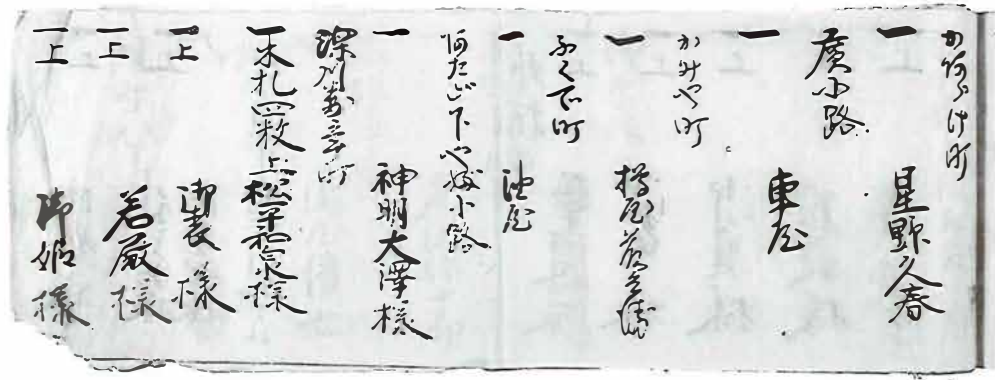


写真5の④：史料F「宝泉坊衆徒照円の天保10年の檀那帳」（芦峯寺旧宝泉坊所蔵）